

## モノグラフ・高校生 98

vol. 54 高校生の教科観 - 受験の学力・生活する学力 -



尚美学園短期大学教授	深谷 昌志
岐阜聖徳学園大学助教授	穂坂 明德
東京都立上野高等学校教諭	蒲生 眞紗雄
日本学術振興会特別研究員	西島 央
埼玉県立松山高等学校教諭	三枝 恵子

## 目次

要約	2
はじめに	深谷 昌志... 8
1. 高校生にとっての学力とは	8
2. サンプルの概要	10
第1章 学校英語と英語の教科観 受験英語から生きた英語へ	穂坂 明德... 15
1. 高校生を取り巻く語学環境	15
2. 学習スタイルと英語授業への期待	17
3. 学校英語と新たな英語の教科観の形成	22
第2章 生徒の社会科観と望ましい授業方法 受験と教養のはざままで	蒲生眞紗雄... 27
1. 社会科の選択と好感度	27
2. 社会科のイメージ	31
3. 望ましい授業方法	34
第3章 「芸術科音楽」に対する教科観 男女差の背景と学校差の影響	西島 央... 36
1. 履修の様子	36
2. 音楽科選択の理由	37
3. 授業の中心的な活動とよく扱ったジャンル	39
4. 授業中の様子	44
5. 中心にしてほしい活動と扱ってほしいジャンル	48
6. 音楽科の授業の感想	52
7. 音楽を学校で勉強する意味	55
8. 学校音楽以外の音楽経験	57
9. ふだん聴く音楽のジャンル	59
第4章 家庭科 身につけたい学力と授業とのギャップ	三枝 恵子... 62
1. 男女必修の家庭科の現状	63
2. 生徒が家庭科に求める学力とは	72
3. 家庭科の今後の課題	82
まとめに代えて 「生活のための学力」への転換を	深谷 昌志... 83
1. 自発的に加われる内容を	83
2. 生涯学習の中へ位置づけよう	84
資料1 調査票見本 社会科・英語・音楽調査	85
調査票見本 家庭科調査	98
資料2 基礎集計表 社会科・英語・音楽調査	103
基礎集計表 家庭科調査	120



『モノグラフ・高校生』vol.54

## 高校生の教科観 - 受験の学力・生活する学力 -

### 要 約

はじめに

#### 進路

本サンプル(英語・社会・音楽調査)の場合、4年制大学進学希望者が92.4%と、9割を上回る。進学校に在籍する生徒である(P.11表2)。

#### 好きな教科

数学は好き嫌いの両面がはっきりとした教科である。英語は受験に役立つし、社会にでも役立つ(P.12表5)。

#### 第1章 学校英語と英語の教科観

オーラル・コミュニケーション科目の登場により、果たして生徒の英語に対する教科観は変化してきたのであろうか。学校英語に対しては、長い時間とエネルギーを英語の勉強に費やすわりに、英語の会話能力が身につか

ないという批判がある。英語教育革新の波は「学校英語」に新たな教科観を形成させているのであろうか。

#### 高校生を取り巻く語学環境

回答者の英語授業時間は、週6時間が45.6%、5時間が37.1%、その他17.3%に大別され、ほぼ毎日英語の授業がある様子。外国人講師の授業は、D校以外は少なくとも月に1~2時間、多い生徒は5~6時間ある。テレビやラジオの語学番組を3割弱が視聴し、女子が多い。英語以外に学びたい外国語は、1.フランス語、2.中国語、3.ドイツ語の順に多い。外国旅行(滞在)の経験者は2割で、短期型。

高校生の英語観の形成は、学校外での学習機会より、学校の授業の果たす役割が大きい(P.16表1-1)。

#### 学習スタイルと英語授業への期待

1)ふだんの学習姿勢は、授業中まじめにノートをとるのが7割以上、復習はあまりし

ないが、半数以上が30分前後から1時間程度を予習にあてている。男子より女子が、2年より1年が熱心である(P.17表1-2)。

2) 中学時代と高校で英語の好きな割合を比べると、中学75.2% 高校57.3%に減少。特に英語好きだった女子が、高校の英語授業に意欲を失っている(P.18表1-3、図1-1)。

3) とはいえ、全体には7割以上が、受験的な内容の授業を望み、英文法をもっとというように文法翻訳型の授業を期待している。男子より女子に、パソコン、LL、外国人講師などの従来型とはちがった授業スタイルを望む気持ちが強い。授業を熱心に受けている者ほど、英語嫌いになっていくジレンマがうかがえる(P.19表1-4、P.20図1-2)。

#### 学校英語と新たな英語の教科観の形成

1) 「学校英語」に対しての不信感は強く、93.0%が「学校の勉強だけでは英語は話せない」と思っている。特に強く感じている者は69.6%に上り、この点では男女差、学年差がない(P.22表1-6、P.23表1-7)。

2) しかし、英語はできるものだけがやればよいとか大学の受験科目からはずすのがよいとも思っていない。英語の苦手意識が強い男子の方が、現状の英語教育に対しては批判的、逃避的な傾向になっている(P.22表1-6、P.23表1-7)。

3) 英語力を向上させるには、「授業よりは外国にホームステイ」85.5%、「少人数クラスにする」53.8%、「習熟度別クラス編成にする」43.8%など、現在の授業システムを

大胆に変えるのがよいと感じている(P.24表1-8)。

4) また、学校で「アジア近隣諸国の言葉」も学習したいという希望が4割ある。外国人講師の授業を受ける機会のない者ほど、外国の言語や文化に直接触れる機会が少ないためか、こうした気持ちが強いようだ(P.24表1-8)。

5) 英語の早期教育については、6割以上がネガティブな気持ちを持っている。「私立中学受験」への弊害や「日本語教育」の軽視を懸念している(P.26表1-9)。

以上を通して、生徒全体の英語の教科観は大学受験を意識し、文法翻訳型の授業を望んでいる。相当な時間とエネルギーを英語学習に注ぐわりに、「受験英語」としてしか役に立たないような学習目的の狭さが問題であろう。そのため、「受験英語」ではない、オーラル・コミュニケーションの能力を獲得したいと思っている、英語好きで、勉強に熱心な生徒は、高校の授業にあきたりなさを感じているようだ。学校英語の場に、もっと経験学習的な要素を入れて、それを積極的に評価できる指導体制が望まれる。

## 第2章 生徒の社会科観と

### 望ましい授業方法

#### 社会科の選択動向

社会科の選択は、1年次では半数以上が世界史(54.8%)を選択し、倫理(20.6%)と現代社会(19.6%)が約2割ずついる。新課程での世界史必修化の影響が明確に出ている。ただし、1年次は学校指定の科目を選択したものと思われる(P.28表2-1)、受験予定科目も地歴分野が多い(P.29表2-3)。

社会科は、「とても」と「かなり」と「やや」好きを合わせると72.2%となり、概して好きな教科といえる(P.30図2-1)。

#### 社会科のイメージ

社会科については、多くの生徒が暗記することが多く(96.8%)、先生だけが説明している(82.5%)、教えられることが多すぎる(69.2%)と思っている。ただし、教科の内容に興味を持ってない(34.6%)ということはなく、専門的な知識も得られる(63.5%)とプラスイメージも持っている(P.31図2-2)。

各科目については、地歴分野は受験科目、公民分野は現代社会を生きるための教養科目というイメージを持っている(P.33表2-5)。

#### 望ましい授業方法

授業の内容としては、教養を高められる授業(87.9%)やいろいろと考えさせられる機

会のある授業(83.2%)を強く望んでいる。授業方法としては、ビデオなど視聴覚教材を使った授業(82.8%)を支持している(P.34図2-4)。ただし、受験を身近に意識するか否かで望ましい授業方法に違いが出てくる(P.35表2-6)。

## 第3章「芸術科音楽」に対する教科観

### 履修状況

芸術教科で音楽科を選択している割合は、33.2%。男子の30.6%に対して女子は36.7%と女子の履修率の方がやや高い。また学校外での音楽経験の有無別(以下、経験別)にみると、経験者が38.5%で、未経験者は25.3%だった(P.37表3-1)。

音楽科を選択した理由としては、積極的な理由である「音楽が好きだから」が63.3%、「音楽の授業が楽しそうだから」が29.0%、消極的な理由である「他の選択科目が嫌いだから」が37.4%、「音楽の授業が楽しそうだから」が25.4%だった(P.38図3-1)。

### 授業で扱った活動とジャンル、

#### 生徒の希望する活動とジャンル

授業で一番よく扱った活動だと生徒が感じたのは、歌唱が50.8%、器楽が19.8%、鑑賞が22.0%だった。それに対して生徒の希望は歌唱が39.2%、器楽が27.4%、鑑賞が24.7%、創作が5.2%だった(P.40図3-3、P.49図3-15)。

授業で一番よく扱ったジャンルだと生徒が

感じたのは、クラシックが69.1%、現代音楽が10.6%だった。それに対して生徒の希望はクラシックが25.8%、日本のフォーク・ニューミュージックが13.6%、テレビや映画などの主題歌が13.2%だった(P. 43 表3 - 2、P. 51 表3 - 3)

#### 授業中の様子と授業の感想

音楽の授業中の生徒の様子は、「授業が難しいと感じる」が32.3%、「授業が簡単だと感じる」が33.7%、「居眠りをする」が42.2%、「ボーっとしている」が65.6%、「技術がついていかない」が41.2%だった(P. 44 図3 - 8)

1年間の授業の感想としては、「授業は楽しい」が44.4%、「授業は退屈だ」が63.4%、「授業は安らげる」が57.3%、「授業は難しい」が32.8%だった(P. 52 図3 - 20~P. 54 図3 - 23)

#### 音楽を学校で勉強することの意味

音楽に関する技術面では、「楽譜が読めるようになる」が42.9%、「歌がうまくなる」が39.1%、「いろいろなジャンルの音楽を知ることができる」が69.2%、「楽器の演奏ができるようになる」が47.0%だった。技術面に対する評価では、男女差はほとんどなかったが経験差はみられた(P. 55 表3 - 4)

社会的な機能については、「連帯感が強まる」が48.8%、「教養が身につく、人間の幅が広がる」が46.1%、「日本の伝統文化の理解に役立つ」が25.9%、「外国文化の理解に役立つ」が36.3%だった。社会的機能に対す

る評価は男子よりも女子が、未経験者よりも経験者の方が高く、その役割を評価していた(P. 57 表3 - 5)

#### 学校以外での音楽経験

男子の57.1%が、学校以外では、今まで音楽を習ったりやったりした経験がなかった。女子の未経験者は10.4%だった(P. 58 表3 - 6)

## 第4章 家庭科

#### 調査の目的

高校の男女必修の家庭科の現状把握と、生徒にとって必要な学力は何か、さらに「高校の授業での家庭科は不要」「男子に必要ない」「家庭科の内容は家庭で学べばよい」などの意見に対し、生徒たちがどのように感じているのかを探ることを目的とする。

#### 男女必修の家庭科の現状

1) 履修科目は全員「家庭一般」。履修形態は、「1、2年生で各2単位履修」が74.0%、「3年生で4単位」が26.0%である。

2) 家庭科の授業の楽しさは「とても」と「わりと」楽しいを合わせた数値でみると、最も楽しいのは「調理実習」で84.6%、次いで「消費者教育」「乳幼児の発達や子どもの成長」がほぼ5割、「青年期の生き方と愛や性・結婚」「異性とのつきあい方や避妊の知識」「生活設計」「生活環境について考える」が4割を超える(P. 65 表4 - 2)

3) 家庭科の学習内容の必要性では、「調理実習(57.4%)」「消費者教育(47.3%)」「生活環境について考える(44.8%)」が「とても」必要と考えている(P.66表4-3)。

4) トータルに考え家庭科の授業は「とても」楽しい14.9%、「わりと」を合わせると6割近くに達し、「あまり+ぜんぜん」楽しくないは16.6%にすぎない。性差はみられない(P.68表4-5)。

5) 家庭科の授業の居心地をみると、「とてもホッとする時間」と答えた生徒は22.1%、「わりと」を合わせると7割の生徒がホッとしてできる時間である。性差はほとんどみられない(P.68表4-6)。

6) 家庭科を学習することで理解できることは、「悪徳商法などのことを知り、被害に遭わないようにする」が「とても+わりと」そう思うで77.0%と最も高く、次いで「料理が作れるようになる」「一人暮らしでも健康的な食生活ができる」が5割を超え、「異性とのつきあいや避妊の知識を学べる」「環境問題やゴミ問題に関心が持てる」「衣類の手入れやほころびの繕い・ボタンつけができる」「高齢者の介護・福祉や年金制度・社会保障について学べる」が約5割(P.69表4-7)。

7) 家庭科教育に対する意見では、「大学受験を控えた高校生は、家庭科よりもっと受験に必要な教科を多く学びたい」が「とても」そう思う18.2%、「わりと」を含めると46.1%。「家庭科は、必修科目でなく全部選択科目でよい」「週5日制などで全体に単位数が少なくなっている中で、家庭科が4単位数は多すぎる」もほぼ同様の傾向である。他方、

「家庭科の内容は、男子が高校で授業として学ぶほどの必要はない」「家庭科は高校の授業としては必要ない」の意見では「とても」そう思うと答えた生徒は1割にも満たない。こうした意見について性差はほとんどない(P.70表4-8、P.74表4-11、12、13)。

生徒が家庭科に求める学力とは

1) 生徒が身につけたい学力は、男子は「家族に関する法律」「青年期の生き方と愛や性・結婚」「生活環境について考える」、女子は「調理実習」「被服製作」「乳幼児の発達や子どもの成長」で差がみられ、ジェンダーを担った結果がみられる(P.73表4-10)。

2) 成績別に身につけたい学力をみると、男子の成績上位群は「消費者教育」「調理実習」「生活環境」「妊娠や出産」「異性とのつきあい方や避妊の知識」。数値は低いが、下位群も同様の傾向がみられる。一方、女子の成績上位群は「調理実習」「消費者教育」「生活環境」「高齢者の生活や介護・ボランティア」「乳幼児の発達や子どもの成長」、下位群は「調理実習」「妊娠や出産」「異性とのつきあい方や避妊の知識」「乳幼児の発達や子どもの成長」「消費者教育」である(P.75表4-14)。

3) 進路別では、男子の就職群が求める学力は「調理実習」「栄養素や栄養所要量の知識」「消費者教育」「妊娠や出産」、4年制大学進学群は「調理実習」「消費者教育」「生活環境について考える」。「被服製作」に進路希望による差が開いている。女子も4年制大学進学群は「調理実習」「消費者教育」「栄養素や栄養所要量の知識」が必要と考えている。そして、男女とも家庭科の学習の必要性は4

年制大学進学群の方が高い（P.77 表4 - 15）

4）「家庭科は高校の授業として学ぶ必要がない」と「とても+わりと」そう思うと考える生徒は、男女とも就職群に多く、4年制大学進学群は「あまり+ぜんぜん」そう思わない割合が男女とも8割を超える（P.78 表4 - 17）

5）家庭科の居心地のよさでは、男子の4年制大学進学群は「とても」ホッとする24.7%、「わりと」を合わせ72.0%、女子もほぼ同様で「わりと」を合わせると8割近くがホッとする時間になっている（P.79 表4 - 19）

6）「人間として生きていくための基本的な勉強をする」「大学受験のための勉強をする」「部活動やスポーツをする」「友だちをたくさん作る」「将来の生活や自分自身のことを考える」など、どのようなライフスタイルであっても、「調理実習」「消費者教育」「生活環境について考える」「異性とのつきあい方や避妊の知識」「妊娠や出産」が必要な学力と考えている（P.81 表4 - 20）

#### まとめ

家庭科について、楽しさや学習の必要性、家庭科に向けられたさまざまな意見を検証した結果、生徒たちが身につけたい学力は「調理実習」「消費者教育」「生活環境問題」「異性とのつきあい方や避妊の知識」「青年期の生き方と愛や性・結婚」「妊娠や出産」であり、長く家庭科教育の中心を占めていた「食物・被服」領域とは大きなギャップが認められる。

今後、このギャップをどう埋めていくかが家庭科教育の必要かつ重要な課題ではないだ

ろうか。

#### 〔調査概要〕

調査 英語・社会科・音楽についての調査  
対象 新潟・東京・埼玉の公立高校5校  
普通科1・2年生 1,718名  
（男子984名、女子734名）  
時期 1998年2月～3月  
方法 学校通しによる質問紙調査

調査 家庭科についての調査  
対象 東京・埼玉の公立高校普通科1・2・3年生618名  
（男子347名、女子271名）  
時期 1998年2月  
方法 学校通しによる質問紙調査

#### 〔執筆分担〕

はじめに・まとめに代えて  
深谷昌志（尚美学園短期大学教授）

第1章  
穂坂明德（岐阜聖徳学園大学助教授）

第2章  
蒲生眞紗雄（東京都立上野高等学校教諭）

第3章  
西島 央（日本学術振興会特別研究員）

第4章

# はじめに

## 1 高校生にとっての学力とは

### (1) 卒業を前提とする学校

今回は高校の学習内容を対象として調査を進めようとしている。学習内容の検討は社会調査にはなじみにくい面を備えている。端的に言って、今回は高校生たちが学習内容を難しいと感じていないのか。そして、学びたいのはどんな内容なのかを知りたいと思っている。

その際、高校教育の性格づけが問題になる。高校で学習する内容を生徒の全部が習得する必要があるのかである。

高校中退者が11万人を超え、中退率は2.5%に達した。これまでの中退率は2.1~2.2%程度だったので、中退率の高まりに衝撃が走った。2.5%といえば、40人学級の中から1人が退学している計算になる。

文部省の調査によれば、退学者の4割は「みんなが行くから進学した」が、「高校の生活が合わなかった」(30%)と答えている。こうした結果をふまえ、文部省は中学での進学指導の徹底と高校での生活指導の充実とを

促している。

アメリカを訪ねたとき、カリフォルニアの教育長と高校中退について話す機会があった。教育長によれば、カリフォルニアでは高校中退率が3割に迫っている。この数値は高すぎるから、中退の増加に歯止めをかける対策が必要だ。しかし、日本の中退率は低すぎる。中退率が2%ということは、98%が在籍している。高校の教育に関心を持ってない生徒がもっと多い方が自然だ。日本の高校は生徒を無理に卒業させようとしているのではないかという。

アメリカの中退率は高すぎるが、日本の数値は低すぎる。望ましい中退率を推定するならば、10%から15%くらいではないかというのが、教育長の意見だった。

教育長のこの発言に意表をつかれた。当たり前の話だが、日本人の多くがそうであるように、高校の中退率は0%になるのが理想と信じていた。しかし、アメリカの教育長は中退者ができるのが自然だ、だから、中退者をだ

さないだけでなく、中退した生徒が復学したいと思ったとき、復学しやすい制度作りが大事になるという。

ここで、高校中退についてふれるつもりはないが、問題になるのは、日本の高校は全員卒業を前提としている事実であろう。ということは、高校の教材は、高校に入ったらどの生徒も習得することを意味している。

## (2) 共通教育の色彩が強い

念のために補足するなら、平成9年度の「学校基本調査」によれば、高校進学率は96%に達する。中学を卒業した生徒のほぼ全員が進学している場が現在の高校である。このように、現在の高校はほぼ全員が入学し、卒業する義務教育、あるいは、普通教育的な性格を強めている。しかし、発足当時の高校はこうした全員就学の性格を持つものではなかった。

高校進学率の推移を確かめると、高校教育が発足した直後の昭和25年の進学率は43%だった。中学を卒業してすぐに就職する生徒の方が多く、中学卒業者の集団就職という言葉が定着した時代である。

その後、進学率は昭和30年に52%、35年に58%と高まっていくが、それでも、4割以上が就職している。それと同時に、進学者の中でも普通科進学者は65%（昭和25年、生徒全体の中で28%）なので、商業や工業などの実業系への進学者は35%（生徒全体の15%）を占める。

したがって、昭和20年代から30年代にかけて、生徒の進路は就職者、実業系進学者、普通科進学者に3分され、普通科高校は大学進学者を目的にした少数者を念頭に置いて教育課程を構想すればよかった。もちろん、大学進学者は該当年齢の1割前後なので、大学進学が専門管理職への達成を意味していた。したがって、普通高校への進学は「選ばれたもの」的な感覚を伴っていた。

しかし、高校進学率は昭和50年に71%、55年82%、60年87%と、9割に迫る。それと同時に、高校進学にあたって、まず普通科、

その下に実業系、そして定時制というように、本来の目的から離れて、偏差値によって高校が序列化され、高校教育の主流は普通科という傾向が強まった。そうした過程をたどりながら、高校は普通教育の性格を強めてきたのである。

欧米でも高校教育は「共通」と「分離」との間で揺れ動いてきた。初等教育は共通だが、後期中等教育や高等教育は分離が基本となる。したがって、学校のどの段階から、分離を認めるのかが学校制度の特色となる。

学校制度をとらえるとき、古くから「単線型」と「複線型」との分類があった。ドイツを例にするなら、中等教育が進路によって大学進学を目的としたギムナジウム、中堅技術者コースともいえるレアルシューレ、そして、庶民の進むフォルクスシューレに3分されているのが複線型である。ヨーロッパの多くの社会では伝統的に複線型を採用している。それに対し、アメリカでは、633制や84制と学校の区分に違いはあっても、高校は基本的に1つという単線型制度が採られている。

複線型の場合、進路によって学習内容が変わるからわかりやすいが、単線型の場合、共通教育をどこまで徹底するかが難しい問題になる。アメリカでは、学校という共通の場の中で、選択制を積極的に導入し、個性化の形で分離を促してきた。

そうした中で、日本の高校はヨーロッパのような複線型ではないが、かといってアメリカのように選択制も認めていない。共通教育の色彩が強い学校ができあがりつつある。

高校のこうした性格を教育内容に結びつけて考えるなら、高校がかつてのような少数の大学進学者のための学校なら、大学の予備校的な性格が強まり、高等数学や古典文学などが教材の中心となる。実際に、複線型の学校制度では、大学進学コースはドイツのギムナジウムにせよ、イギリスのグラマースクールにせよ、高等教育の基礎コース的な教材編成が採られていよう。

しかし、高校が中学の延長線にある共通教

育の場なら、実生活に密着した教材構成の方が望ましい。実用英語や生活に役立つ理科などである。

そして、現在の高校教育は、ほぼ全員が進学する共通教育の機関になっているのに、教材構成は過去の大学進学校であった頃の体質を受け継いでいる。そうした現実と過去とのギャップが広がっている。

高校を卒業して40年以上経った。研究者なので、学問を利用する機会が多いはずなのに、卒業以来、三角関数は使っていないし、化学方程式は見たこともない。枕草子や徒然草を読んだ経験も2、3度役立った気がするが、それもほんの一瞬にすぎない。それだけに、高校時代に勉強したことにどんな意味があったのか。あんなに勉強に苦しむ必要はなかったのではないかと思う。それでも、大学進学に役立ったのだから、文句もいえない気がする。

現代の高校は中学卒業者のほぼ全員が入学してくる「共通普通教育」の場だ。こうした生徒に微分積分や古文、英語の仮定法過去などの習得を期待するのは無理だし、必要もないように思う。

難解な上に必要性の感じられない教材を学習する。その結果、生徒たちは学校での学習に関心を持てなくなる。文部省調査によれば、中退者の中で、授業が「とてもわからなかった」が20%で、これに「ややわかりにくい」の34%を含めると、「わからない」が54%と半数を超えするという。高校の中退理由の中で、はっきりと「授業についていけない」などの学習理由をあげた者が13%に達する。したが

って、中退率に歯止めをかけるためには高校の教材を根本から見直し、不必要な教材の削減を心がけてはと思う。

それと同時に、中退者の65%は「在学中、友だちと話すのが楽しかった」というものの、「親しい友だちがない」も24%に達する。

高校生に在学理由をたずねると、「友だちがいるから」の返事が戻ってくる。仮に授業が苦痛でも、学級に親友がいればその生徒は中退しないですむ。そうした意味では、中退率を低下させるために高校で人間的な関係を大事にする。具体的には話し合い学習を進めると同時に、ホームルームや行事などを活用して、ふれあいの機会を増加させてはと思う。

教材の難度を下げ、ふれあいの機会をふやす。そうすれば、高校中退率は低下しよう。しかし、その場合、高校をやめる生徒が減ると思うが、その反面、数学や理科などのレベルが低下する。その結果、日本の技術や情報などの知的水準が停滞し、日本社会の存立が危うくなる。

「共通」を大事にすると、高校はゆったりするが、高校教育のレベルが下がる。かといって、現行のままだと、高校の課程についていけず中退する生徒が増加する。こうみてくると、高校教育が「共通」か「分離」かの岐路に立っており、高校中退者の増加も高校の性格づけに関連していることがわかる。

それでは、高校生は学習内容にどういう印象を持っているのか。調査用紙の制約から英語、社会、音楽、家庭科に限られたが、高校生たちの学力観を探ってみることにしたい。

## 2 サンプルの概要

### (1) 生徒たちの進路

学力観についての調査であるが、調査結果の紹介に先だて、サンプルのプロフィールを紹介しておこう。

学業成績の分布は表1の通りだが、進路は表2にくわしい。国公立の4年制大学への進学希望者は71.8%で、これに、私立の4年制大学希望者の20.6%を含めると、4年制大学進学希望者は92.4%に達する。そうした意味

では、本サンプルは4年制大学進学希望の多い「進学校」の生徒たちなのであろう。

そして、進学にあたっての学部は表3のように理工系と人文・社会系とで半数に達する。

なお、学力観に関連して、いくつかの項目を設問してみた。習熟度別の授業は「やって

いない」が98.0%で、ほとんどの学校で試みられていないのがわかる(表4)。なお、実際に経験していないだけに、多くの生徒は習熟度別の授業に「どちらともいえない」が46.7%と、半数に達し、態度を決めかねている感じである。

表1 学業成績

(%)

	上の方	中の上	中	中の下	下の方
全 体	6.3	19.8	33.6	21.9	18.4
男 子	7.5	18.9	30.2	21.8	21.6
女 子	4.6	21.0	38.4	21.9	14.1

表2 卒業後の進路

(%)

	4年制大学 (国公立)	4年制大学 (私立)	短期大学	専修・ 専門学校	就職	未定
全 体	71.8	20.6	0.8	1.9	0.5	4.4
男 子	74.7	18.9	0.0	1.1	0.7	4.6
女 子	68.0	22.8	1.9	2.9	0.3	4.1

表3 希望する学部

(%)

	理工系	人文・ 社会系	医薬系	法経系	その他・未定
全 体	26.0	24.2	15.4	13.7	20.7
男 子	38.6	15.9	11.2	18.6	15.7
女 子	9.0	35.4	21.0	7.3	27.3

表4 習熟度別授業

(%)

実 施	やっています		やっていない		
	2.0	98.0			
評 価	とても 賛成 9.2	わりと 賛成 27.1	どちらとも いえない 46.7	あまり 賛成でない 9.3	まったく 賛成でない 7.7

## (2) 好きな教科

学力観に先だって、教科への評価をたずねると表5ようになる。

体育 = 受験に役立つが ( ) 好きな教科 ( )

数学 = 受験に役立つ ( ) 好きな教科 ( ) 嫌いな教科 ( )

英語 = 受験に役立つだけでなく ( ) 社会でも役立つ ( )

国語 = 好きでないし ( ) あまり役立つしない

家庭科 = 好きでないが ( ) 社会で役立つ ( )

( ) は8教科の中で評価が1位の意味)

得意・不得意については数学が得意・不得意の両面で1位を占めている(表6)。次い

で2位が英語で、数学や英語は得意・不得意が気になる教科なのであろう。なお、受験を意識しなかったら、どの科目を選択するかについての回答は表7の通りである。

成績評価にあたっては、表8が示すようにテストの成績を中心として、レポートも評価してほしいと生徒たちは答えている。また、教科書については、「受験に役立つかもしれないが、つまらない」という声が約半数である(表9)。さまざまな形で表現メディアが発達しているのに、教科書は古めかしいということであろう。

(なお、本モノグラフは社会・英語・音楽についての調査と家庭科についての調査を別々に実施した。以上は前者のサンプル概要である。家庭科については第4章(P.62～)を参照されたい。)

表5 教科への評価

(%)

	好きな教科	嫌いな教科	社会で役立つ教科	受験に役立つ教科
体育	20.4	6.5	2.6	0.4
数学	16.9	23.5	4.1	34.2
地歴・公民	15.1	10.2	12.5	2.3
英語	14.4	16.2	46.0	54.3
理科	12.0	13.0	4.3	3.9
芸術	10.5	7.2	1.6	0.7
国語	7.5	16.2	9.3	3.7
家庭科	3.2	7.2	19.6	0.5

1教科を選択

表6 得意・苦手

(%)

	得意な教科	苦手な教科	楽しい教科
体育	11.1	6.9	8.1
数学	19.3	31.0	25.7
地歴・公民	14.4	7.5	18.5
英語	17.7	21.5	18.8
理科	10.2	10.1	14.4
芸術	8.6	3.4	7.3
国語	15.3	17.1	5.4
家庭科	3.4	2.5	1.8

1教科を選択

表7 受験を意識しないなら

(%)

	ぜひとも選択したい		あまり選択したくない	
1位	数学	8.1	数学	14.6
2位	体育	8.0	物理	10.5
3位	日本史	7.7	古典	7.8
4位	音楽	7.4	化学	7.4
5位	オーラル・コミュニケーション	7.2	英語	5.4

「そう思う」科目に

表8 成績評価

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
テストの成績を基本にする	31.9	52.1	12.7	3.3
レポートを評価に加える	28.0	51.4	13.1	7.5
出席点を評価に加える	22.8	41.9	23.4	11.9
自主レポートを評価に加える	21.3	43.3	23.9	11.5
無遅刻・無欠課は評価を上げる	13.3	26.0	34.9	25.8
態度・意欲を評価に加える	9.9	33.4	39.3	17.4
自己評価を評価に加える	8.7	18.3	40.0	33.0
ノートの取り方を評価に加える	2.7	9.5	37.0	50.8

表9 教科書への意見

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	まったく そう思わない
教科書は読んでもつまらない	17.1	26.6	35.6	16.4	4.3
教科書は受験勉強に役立つ	14.1	39.8	28.9	12.7	4.5
教科書より参考書の方が役立つ	13.4	29.1	44.7	10.1	2.7
教科書の内容は多すぎる	10.5	16.2	44.1	22.2	7.0
教科書は大切に保存しておきたい	8.9	18.1	28.6	24.1	20.3
教科書は最後まで終わらせてほしい	28.1	28.6	27.3	11.1	4.9
教科書はわかりやすい	6.8	26.2	41.1	19.7	6.2

## 第1章 ||||

# 学校英語と英語の教科観

- 受験英語から生きた英語へ -

オーラル・コミュニケーションの授業が高校で始まって5年になる。教育現場にすっかり定着してきたといえよう。英語の授業にもALT（外国語指導助手）やLL、パソコンなど、ネイティブ・スピーカーの活用や教育機器の利用などがさらに進んでいる。こうした英語教育革新の波が広がる中で、教育を受けてきたのが今の高校生である。

そこで本章は、高校生の英語の教科観を考察したい。受験科目として従来より重視されてきた英語に対する教科観から、高校生はどのような教科観に変化してきているのか、あるいは相変わらず英語に対する期待が受験英

語型のそれなのかという点を探ることにする。確かに高校の英語の教科書や授業は、オーラル要素の濃い内容に変化してきているが、こうした変化は彼ら高校生の英語という教科、そして英語そのものに対する見方を変えるまでになってきているのであろうか。英語という言葉はあくまでも道具的なものであろう。国際化が急速に進展する中で、それをどのように活用するか、しないかは学習者の英語に対する考え方によって左右されてくると思われる。英語の教科観を通して、「学校英語」の課題を探ることにはしたい。

## 1 高校生を取り巻く語学環境

中学から高校に進学すると、おそらく生徒は、高校の英語はずいぶんいろいろな科目に分かれているのだなと戸惑うであろう。英語、英語、オーラル・コミュニケーション関連科目、ライティング、リーディングなどカリキュラム表を眺めると、中学では見たこともないいろいろな科目が並んでいる。そればかりでなく、さらに副教材として文法参考

書や各種問題集、読本教材など実にこれでもかこれでもかというくらいに、先生方は熱心に英語教材を与えてくれる。生徒は、高校の授業科目の中でやはり英語は相当重要なのだという認識を他教科に比べてこうした多彩なテキストの物量を通して実感させられるようだ。

しかし生徒の中には、学校の授業だけでな

く学校を離れても語学の学習に取り組む者もいるわけだから、そうした生徒の場合はかなりの時間とエネルギーを語学に注いでいることになる。ちなみに本調査に回答した生徒の語学環境を調べると、学校で習う英語の授業時間は週あたり6時間が45.6%、5時間が37.1%、その他17.3%に大別されている。これは学校のカリキュラムによって決められており、一般に1年、2年段階では英語科目の選択の自由度はあまり大きくない。学校別による時間数の割合と外国人の先生に教わる1か月あたりの時間数の割合を表1-1に示した。調査対象校のうちA校、C校は弾力的なカリキュラムになっている。A校、B校は週あたり6時間型、C校、D校は5時間型、また外国人の先生の授業はA校、C校で月に1~2時間実施されている。B校では3~4時間と、5~6時間がそれぞれ2割いるので、B校回答者のうち4割はかなりの頻度で外国人の先生の授業を受けていることになる。一方、D校ではほとんどの生徒が外国人による授業を受けていないようである。

テレビやラジオなどの語学番組を視聴しているのは、「いつもしている」5.2%、「ときどきしている」21.1%である。残りの約7割の回答者は視聴していない。この割合の内訳

は、表は省略したが、学校別でもほとんど変わらない。また、男女別では「いつも」と「ときどき」を合わせた割合でみると、男子19.5%<女子35.4%で、視聴者は女子の方が男子より2倍近く多い。女子の回答者の3人に1人は何らかの語学番組を視聴している熱心な生徒といえそうである。なお英語以外に学びたい外国語について聞いたが、フランス語29.7%、中国語25.3%、ドイツ語21.8%の順に多かった。外国旅行(滞在)の経験者は21.9%、そのうち1週間以内が35.4%、2週間以内が41.1%という短期型である。

さてこのようにみえてくると、社会の国際化が喧伝され、一般に国際語としての英語の重要性がいわれるが、高校生の英語との接点や接触頻度はまだ限定されたものである。確かに、マスメディアの発達やパソコン・インターネットの普及、カルチャースクール、語学スクールなどの急成長ぶりは、一般社会の語学環境の急速な広がりを示し、学習機会のチャンネルは増えているといえる。しかし、上記のデータからもうかがえるように、何といっても高校生にとって英語を学ぶのは学校が主であり、高校生の英語観は毎日のようにある英語の授業を通して形成されているといえよう。

表1-1 学校別の英語時間数/週と外国人講師の授業時間数/月 × 学校

(%)

	英語の時間数/週				外国人講師の時間数/月				
	4時間以下	5時間	6時間	7時間以上	教わらない	1~2時間	3~4時間	5~6時間	7時間以上
A校	7.6	34.1	52.8	5.5	18.4	64.9	7.5	8.0	1.2
B校	3.7	18.1	75.5	2.7	50.5	5.5	19.7	22.6	1.7
C校	6.3	43.8	28.9	21.0	9.7	86.4	3.4	0.0	0.5
D校	10.1	60.1	13.2	16.6	87.6	2.1	1.1	0.8	8.4
全体	6.7	37.1	45.6	10.6	41.6	37.8	8.8	9.0	2.8

## 2 学習スタイルと英語授業への期待

まず、ふだんの英語の授業に取り組む学習姿勢についてたずねた結果を表1-2にまとめた。授業中ノートを「必ずとる」のは41.3%、「まあとる」も含めれば全体の7割以上の者が熱心に授業を受けている姿がイメージできる。授業の復習はあまりやらないが、

英語の予習には半数以上が30分前後から1時間程度は当てている。授業の予習、復習にしても、また授業中のノートのとり方にしても、男子より女子の方が熱心に取り組む傾向がある。また2年生より1年生の方が真面目に取り組む姿勢がうかがえる。

表1-2 英語への学習姿勢 × 性・学年

(%)

		全 体	男 子	女 子	1 年	2 年
授 業 中 の ノ ー ト	必ずとる	41.3	30.8	55.3	48.3	36.5
	まあとる	32.8	33.5	31.9	29.9	34.8
	あまりとらない	15.9	20.9	9.1	13.0	17.8
	ぜんぜんとらない	10.0	14.8	3.7	8.8	10.9
授 業 の 復 習	必ずやる	4.4	3.8	5.2	4.6	4.2
	まあやる	24.7	21.7	28.6	28.4	22.2
	あまりやらない	47.9	47.4	48.6	46.7	48.7
	ぜんぜんやらない	23.0	27.1	17.6	20.3	24.9
予 習 時 間	やらない	16.8	21.9	9.9	12.5	19.7
	30分以下	21.4	24.5	17.3	15.4	25.5
	30分～1時間	38.3	35.8	41.7	38.6	38.1
	1時間～1時間30分	17.3	13.3	22.6	25.0	12.1
	1時間30分以上	6.2	4.5	8.5	8.5	4.6

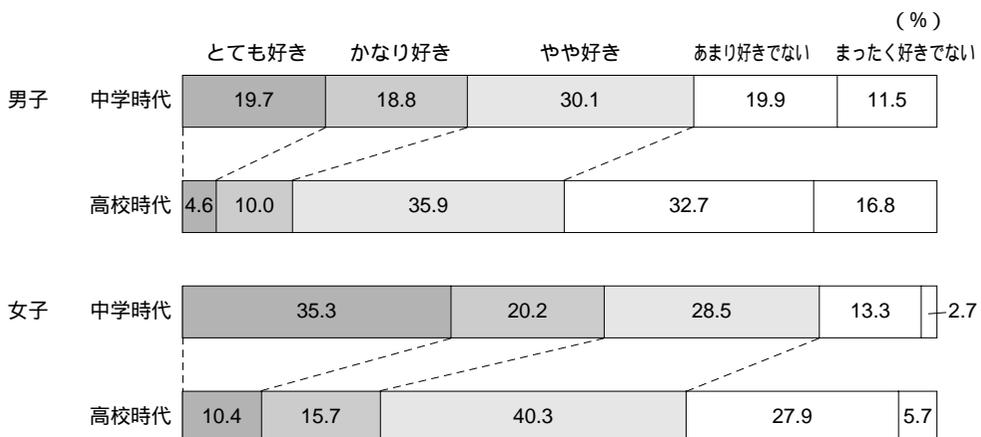
では、英語という教科に対しどのような感じを持っているのであろうか。大多数の生徒は中学に入学して初めて英語の授業を受ける。それ以来4～5年が経過した現在、表1-3に示したように英語に対する好感度は相当に落ち込んでいる。中学時代は「とても好き」と感じていたのが26.4%、それが高校時代の今では1割にも満たない7.1%に激減している。「好き」と回答した全体の割合でも、中学時代は75.2%であるが、高校では57.3%に減少している。その点をさらに、男子と女子で比べてみたのが図1-1である。中学 高校への「英語が好き」な割合の変化は、男子68.6% 50.5%、女子84.0% 66.4%であり、男女とも17～18%減でほぼ等しい割合である。しかし、「英語がとても好

き」と答えている、いうならば英語に強い興味と関心を抱いている層をみると、男子が15.1%減に対し女子は24.9%減という男女の大きな落差が浮かんでくる。もともと、英語がとても好きと答える気持ちの中には、英語への単なる興味関心のみならず、英語への期待感や学習意欲の高まりなどさまざまな要素が入り交じっている。英語学習への動機づけとしてはきわめて良好なレディネスということになる。しかし、高校の英語の授業では、そうした中学時代に形成された英語への好感度が急速に減退させられているわけである。特に英語に強く好感を持っていた女子層の変化は大きい。英語の授業に真面目に出ているにもかかわらず、英語に好感度を持つ生徒の意欲が伸びるところか、逆になえさせている

表1-3 英語の授業の好感度

	とても好き	かなり好き	やや好き	あまり好きでない	まったく好きでない
中学時代	26.4	19.4	29.4	17.0	7.8
高校時代	7.1	12.4	37.8	30.7	12.0

図1-1 英語の授業の好感度 × 性



としたら、高校英語の授業効果のインパクトが気になるところである。

そこで、高校の英語の授業にどのようなことを望んでいるかを聞いた。質問は、(1) 授業内容、(2) 指導技術、(3) 授業形態に関するものである。表1-4は、「とても望む」と「まあ望む」を合わせた割合で、期待度の高い項目の順に並べ変えたものである。上位2項目は授業内容について、「受験的な授業」73.4%と「英文法をもっと」71.8%というもので、7割以上が大学入試に即効的な内容の授業を期待している。指導技術に関しては、「進度をゆっくり」「先生が必ず訳す」というような、どちらかといえば文法翻訳型を6割以上が望んでいる。その一方で、授業のスタイルに「パソコンやインターネット」や

「外国人講師」などの導入の期待も6割あり、日本人教師が1人で英語の授業を行ってきた従来のスタイルに、今までにない目新しさを求める気持ちもうかがえる。「ビデオやLL」「ゲームや英会話」など楽しみながらの授業を望む割合は意外に半数程度にとどまり、「教育内容を少なく」にいたっては37.3%で最も少ない割合だった。このように受験英語型の授業を望む結果が現れた背景には、調査対象が進学校であり、受験勉強に動機づけられている側面がむろん考慮されなければならないだろう。だが、逆にいえば、そうした進学校の英語観に変化が生じなければ、日本の英語教育の新しい波はまだまだ十分に浸透していないということもいえよう。

表1-4 英語の授業に望むこと

(%)

	とても望む	まあ望む	あまり望まない	ぜんぜん望まない
入試に役立つ受験的な授業	30.0	43.4	19.1	7.5
	73.4			
英文法をもっとやる	28.9	42.9	20.5	7.7
	71.8			
授業の進度をゆっくり進める	21.1	44.8	27.9	6.2
	65.9			
パソコンやインターネットを使った授業	32.7	31.6	22.1	13.6
	64.3			
教科書の英文は先生が必ず訳す	28.7	34.6	26.5	10.2
	63.3			
外国人講師による授業	24.8	35.7	25.9	13.6
	60.5			
ビデオやLLを使った授業	20.5	33.8	30.8	14.9
	54.3			
ゲームや英会話を取り入れた授業	20.5	31.3	29.8	18.4
	51.8			
単語テストや小テストをこまめにやる	14.5	35.1	35.6	14.8
	49.6			
教える内容を少なくする	13.8	23.5	49.1	13.6
	37.3			

図1 - 2、表1 - 5は、授業に望むことを男女別、学年別にみたものである。男子と女子で10パーセント前後以上の大きな開きがあったのは、「パソコンやインターネット」男子60.0% < 女子70.1%、「外国人講師」男子50.3% < 女子74.0%、「ビデオやL L」男子45.5% < 女子66.2%、「ゲームや英会話」男子45.9% < 女子59.6%などである。こうした男女差から、授業スタイルの変化を女子の方が大いに望んでいることが明らかになった。また1年生と2年生では、「入試に役立つ受験的な授業」「英文法をもっとやる」「教科書の英文は先生が必ず訳す」「単語テストや小

テストをこまめにやる」などに学年差が表れた。2年生になると、英語の授業にかなりはつきり受験的な色彩の濃い内容を求める傾向がうかがえる。

これまでみてきたように、英語の授業には熱心に取り組んでいるが、熱心であるほどに英語が嫌いになっていくジレンマがみてとれる。授業にオーラル・コミュニケーションの要素をといいいながら、実際は受験英語的な内容の授業になっていく。したがって、英語の授業に「話せる能力の獲得」を本当に求めている女子ほど、もっと新しいスタイルの授業を求めているようだ。

図1 - 2 英語の授業に望むこと × 性

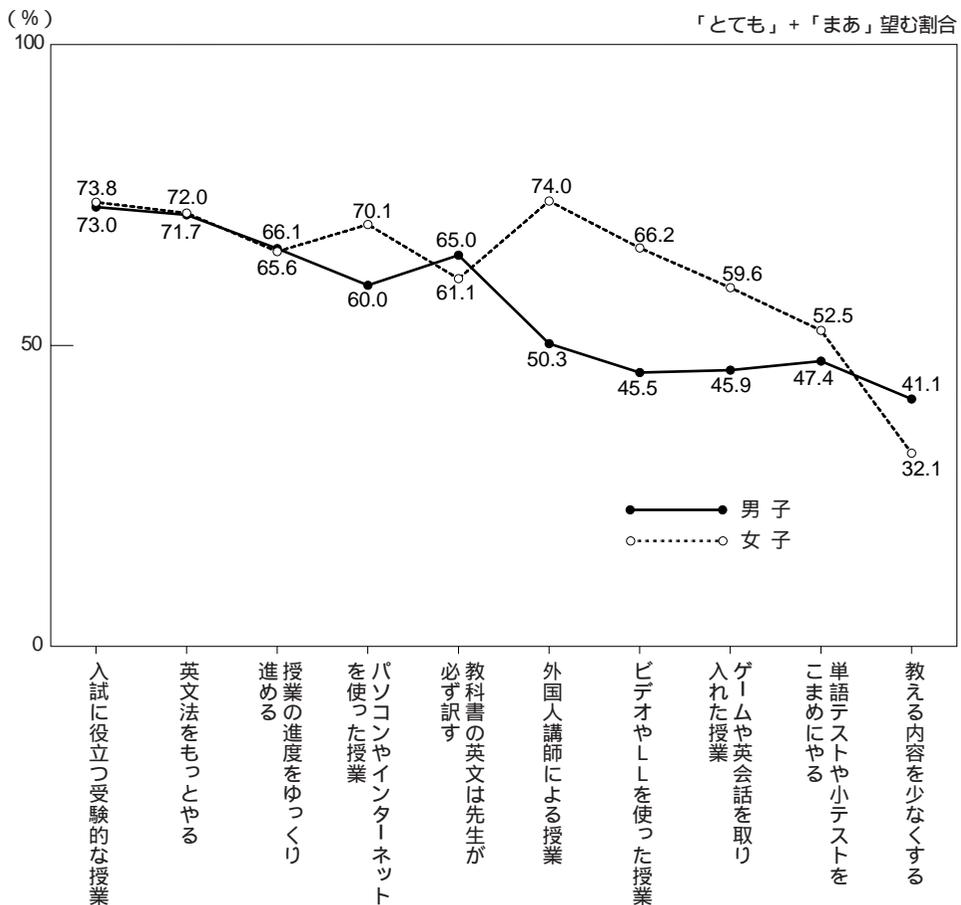


表1-5 英語の授業に望むこと × 学年

(%)

	1 年	2 年
入試に役立つ受験的な授業	61.0	81.6
英文法をもっとやる	61.6	78.7
授業の進度をゆっくり進める	69.5	63.4
パソコンやインターネットを使った授業	68.1	61.8
教科書の英文は先生が必ず訳す	57.9	67.0
外国人講師による授業	62.5	59.0
ビデオやLLを使った授業	55.6	53.4
ゲームや英会話を取り入れた授業	57.3	48.0
単語テストや小テストをこまめにやる	43.7	53.5
教える内容を少なくする	37.0	37.5

「とても」+「まあ」望む割合

### 3 学校英語と新たな英語の教科観の形成

「学校英語」をめぐるのは、これまでも教養論と実用論の立場からそれぞれ批判や論争がなされてきた。そうした学校英語に対する根強い批判の1つは、学校における長期間にわたる英語教育によっても、日本人は外国人と英語でコミュニケーションをすることができないというものであった。

高校生が現状の英語の授業や英語教育について満足しているわけではないのは、これまでの分析でも明らかである。では、毎日のようにある英語の授業を通して、英語という言葉や学校英語についてどのような見方を持っているのであろうか。彼らの英語観を確かめ

るために、現在一般に当然視されているような、例えば「入試では辞書なしが当然」というような見方とは対極に立つような意見をどのように評価するのかを探ってみた。いうならば、既成の英語観や自明視された英語教育観からの距離をみようとするものである。

表1-6は、英語教育をめぐるそうした意見に対する回答の結果である。最も強く支持された意見は、「学校の勉強だけでは英語は話せない」69.6%、次いで「大学入試では、辞書を持ち込んでもよい」40.4%というものであった。もちろん学校の授業だけで英語の会話能力が百パーセント保証されるとは常識

表1-6 英語教育に関する意見評価

(%)

	とても そう思う	かなり そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
学校の勉強だけでは英語は話せない	69.6	23.4	6.0	1.0
大学入試では、辞書を持ち込んでもよい	40.4	28.0	21.7	9.9
教科書ガイドはあった方がよい	22.2	29.2	35.6	13.0
英語は大学受験の必須科目にしない	19.7	19.6	38.9	21.8
英語は得意な人が勉強すればよい	7.6	12.0	56.6	23.8

的に考えられないことだが、「話す能力の獲得」という面で、学校英語に対する不信感が「とてもそう思う」+「かなりそう思う」を合わせると93.0%というきわめて高い割合を示している点は無視できない。「教科書ガイドの使用」については、肯定、否定の判断が接近した結果である。一方、否定的な意見は「英語は得意な人が勉強すればよい」肯定19.6% < 否定80.4%、「英語は大学受験の必須科目にしない」肯定39.3% < 否定60.7%の2項目で、かなり明確な差になっている。

さらに性別、学年別で違いをみたのが表1-7である。ここでは意見の肯定的な割合を示してある。注目されるのは上位2項目に関して、男女、学年によって差があまり開いていない点で、つまり全体の判断傾向をいっそう補強しているとみてよいであろう。ということは、学校の英語の授業に、「話す能力

の獲得」をあまり期待していない、入試に役立つ受験英語を教えてくれればそれでよい、という授業目的を限定した認識が前提されているのかもしれない。「教科書ガイドの使用」については女子より男子、1年より2年の方が肯定的である。全体に女子より男子の方が英語が好きでない割合が多い分だけ、その裏返し心理として、現状の英語教育に対し批判的ないし逃避的な態度をとらせているのだろうか。それにしても高校生が、英語のオーラル・コミュニケーション能力の獲得に関しては、もはや学校英語に期待せず、学校英語を突き放すさめた態度になっているとしたら大きな問題である。とにかく学校英語に対する生徒の英語観を転回させるような、改善の必要をいっそう感じさせられるデータである。

それでは、英語教育のシステムをどのよう

表1-7 英語教育に関する意見評価 × 性・学年

(%)

	男子	女子	1年	2年
学校の勉強だけでは英語は話せない	91.6	94.8	91.8	93.8
大学入試では、辞書を持ち込んでもよい	66.7	70.7	66.0	70.1
教科書ガイドはあった方がよい	56.9	43.8	43.5	56.6
英語は大学受験の必須科目にしない	45.7	30.8	36.8	41.0
英語は得意な人が勉強すればよい	24.3	13.5	18.2	20.7

「とても」+「かなり」そう思う割合

な方向で改善していくことがよいと考えているのであろうか。表1 - 8は、現在のところしばしば英語教育の改善案として一般に登場するプランについての評価を聞いたものである。まず生徒にとって英語力の向上には、「授業より外国のホームステイ」の方が望ましいと思っている者が85.5%、そのうち「とてもそう思う」者は59.3%に上る。この数値は、これまで彼らが示してきた学校英語への不信傾向に重なっている。次いで、「少人数クラスにする」53.8%、「習熟度別クラス編成」43.8%など、教授システムの改革があげられる。現実化にはむろん、カリキュラムの整備や教育設備・教員数の確保など物的、人的な困難が伴う改革になるが、毎日の授業を

通しての実感の反映であろう。また学校では英語1言語に限らず、「アジア近隣諸国の言葉」も学習したいという希望が4割ある点も見逃せない。全体の表を掲げることは省くが、学校別にみると「授業より外国のホームステイ」B校82.1% < A校83.1% < C校88.5% < D校89.4%、また「アジア近隣諸国の言葉」B校37.5% < A校39.9% < C校42.5% < D校53.8%というように、ふだん外国人の先生に教わる機会のないD校の生徒ほど外国言語や文化との接触を求めてか、より広い視野にたつ語学教育への期待がそれだけ大きいように思える。

図1 - 3は、改善意見の評価を男女で比較したものである。男女で比較的差が表れたの

表1 - 8 学校英語の改善意見の評価

	(%)			
	とても そう思う	かなり そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
授業より、外国のホームステイの方が力がつく	59.3	26.2	12.1	2.4
1クラス15人くらいの少人数クラスにする	26.4	27.4	35.0	11.2
「習熟度別」クラス編成の方が力がつく	16.0	27.8	42.6	13.6
アジア近隣諸国の言葉も学校で習える	20.9	21.9	36.1	21.1
英語検定などの資格は学校の成績に評価する	7.8	15.3	44.5	32.4

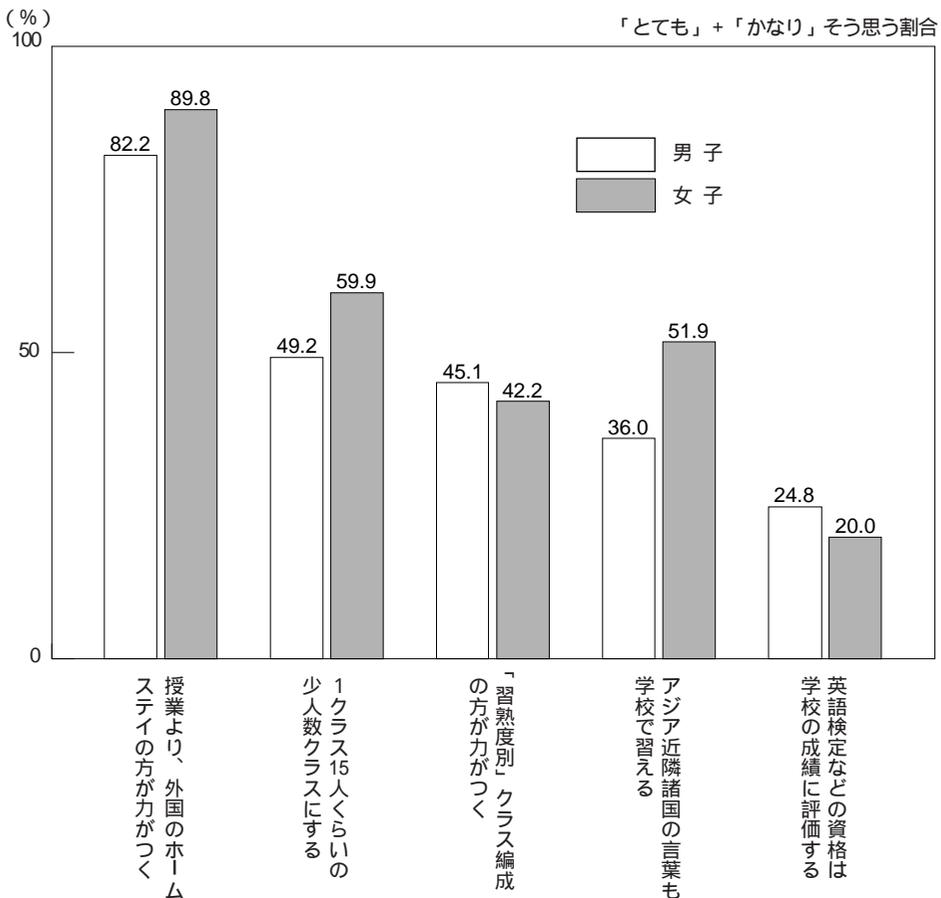
は「外国のホームステイ」「少人数クラス」「アジア近隣諸国」などに関する項目であり、いずれも男子より女子の方に、こうした改善方向を高く評価する気持ちが強いことが表れている。

終わりに英語の早期教育の効果について、高校生なりの気持ちを聞いてみた。文部省の諮問機関である教育課程審議会は、1997年11月『中間まとめ』を公表し、小学校に「総合的な学習の時間」を新設することを打ち出した。現在は中学校から英語が始まるが、新設のこの時間を活用すれば、将来的に小学校からスタートすることも可能になる。もちろん高校生には、英語の早期教育の具体的な内容についての理解はほとんどないと思われるの

で、あくまで自分がこれまで体験してきた、英語の授業に基づく気持ちとみてよいであろう。表1-9から、6割以上が早期教育にネガティブな気持ちであり、「私立中学受験」への弊害や「日本語教育」の軽視を懸念する気持ちの方が強いことがわかった。ただ、実施時期については、小学校高学年より、幼稚園段階からの方が効果があると、やや多くみているようだ。

このように英語教育については、みてきたように高校における英語の授業の個々の改善もさることながら、学習者たる生徒の英語観と学校現実とのバインドの問題が指摘できる。すなわち、生徒の意識の基底には、いずれは国際化社会に出ていくにしても、当面は

図1-3 学校英語の改善意見の評価 × 性



学校でいい成績を取らなければならない、そして入試にパスできるだけの英語力をつけたいという、受験生としての英語必要論に走らざるを得ない心理がある。確かに、このような考えに追い込まれざるを得ない心理は、日本の入試制度、そして入試英語の高度な難解さを知れば、無理からぬように思えてくる。また一概に入試英語の勉強が無用であるとはいえないし、その効用面を説く見解もある。

だが、長期にわたる学校での英語学習に相当な時間とエネルギーを注ぐわりに、大学入試までの「受験英語」としてしか、実際の効用を見いだせない狭さが問題となる。欧米のような多民族複合社会では、出自を異にしている生徒同士が、教室の場で国際共通語の必要性を痛感させられ学ぼうとするのである。知識・教養としての英語ではなく、生活言語としての英語である。一般に、外国語を習う

場合、英語に限らずどこの国の言語でも、何らかの具体的な目標を持って学ぶ。例えば、海外旅行に行ったとき、食事や買い物に不自由しないですむようにとか、英字新聞の最新のカレント情報をゲットしたいというように。つまり、英語を習うことが自分にとって何の役に立つのかということが明確に納得できることである。

わが国においても、こうした側面の認識を生徒にもっと深めさせることが、英語観の転換の一步になるのではないだろうか。そのためには英語の知識・文法に偏りがちな学校英語の場に、英語の経験学習的要素をもっと注ぎ込み、それを積極的に評価していく指導体制づくりが必要であろう。英語の学習者が、学校英語を通して形成された、入試英語に堅くしぼられた思考から脱却し、英語の教科観を変容させる契機にもなろう。

表 1 - 9 英語の早期教育についての意見評価

(%)

	とても そう思う	かなり そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
私立中学の受験をあおるだけだ	34.6	31.1	27.0	7.3
日本語をしっかりやる方が重要だ	32.1	31.8	29.7	6.4
幼稚園から始めれば効果的だ	31.0	22.1	25.1	21.8
小学校高学年から始めるのがよい	17.4	31.4	35.4	15.8
英語嫌いを多くするだけだ	17.8	19.6	47.1	15.5

## 第2章 IIIII

# 生徒の社会科観と望ましい授業方法

- 受験と教養のはざままで -

戦後の民主教育を代表した教科の1つで、広域総合教科でもあった社会科が、平成6年(1994年)度から始まった高等学校の新教育課程で、地歴科と公民科に分割、再編成された。生徒たちに民主的な考え方を指導し、現代社会を正確に理解させるためには、社会科という教科は必要だという思いを強く持って社会科教育にたずさわってきた者たちにとっては、今回の改訂は大いに不満であった。

その結果、地歴科と公民科に分割されたにもかかわらず、現場では社会科の先生、社会科教室、社会科準備室などの呼称が依然として使われているし、当の教員自身も、「社会科の某ですが」と意識的、無意識的に使っている者が多い。生徒の方も、中学校の教育課程では「社会科」が残ったので、高校に入っても社会科と俗称されていても違和感なく受

け入れている。今回の調査でも、最初に「ここからは、社会科(地歴科・公民科)についておたずねします」とことわった以外は、質問項目を「社会科」で通したが、特に混乱を与えるような結果は数値の上に出ていない。

したがって、本章でも地歴科・公民科ではなく、地歴分野と公民分野を含めた社会科として分析を進めたい。もちろん、新教育課程の実施に伴って、各学校では科目の選択方法や履修学年の変更が行われたので、旧課程とは様変わりしている。生徒の社会科観にも影響を与えていると思われる。そこで、1991年の調査(『モノグラフ・高校生 91』vol.33「高校生の教科観」)とも比較しつつ、生徒の社会科観の変化の有無や、どのような授業を望んでいるのかなどを調査してみた。

## 1 社会科の選択と好感度

### (1) 社会科の選択動向

旧課程では現代社会のみが必履修科目であった。新課程では地歴分野は、世界史と日本

史か地理のうち1つが必履修となり、公民分野では、現代社会か、倫理・政治経済のどちらかが必履修となった。さらに、世界史と日本史と地理は、A(2単位)とB(4単位)

のどちらか1つを選ぶことになった。

そこで、調査対象の4校の生徒たちの1年のときと2年のときの選択科目を問うた結果が、表2-1と表2-2である。

1年生の半数以上(54.8%)が地歴分野の世界史を選択し、約2割ずつの生徒が公民分野の倫理(20.6%)と現代社会(19.6%)を選択していることがわかる。ただし、自由に生徒が選択したというよりは、1年次は学校で指定したものを取った結果とみた方がよい。学校別でみると、B校とC校は世界史指

定と思われる。A校は倫理(80.4%)が中心で世界史と政治経済が一部いる。D校は現代社会(88.3%)が中心で、地理が1割ほどいる。1年次は、地歴分野の必修科目の世界史を選択させる学校が多いことが、この数値に表れているといえよう。

2年生になると公民分野の選択はなくなり、地歴分野のみとなる。そして、D校を除くと世界史・日本史・地理から選択するパターンが多いといえよう。調査時点で1年生の53.2%が2年生のときの項目に印をつけずに

表2-1 1年生のときの科目 × 属性

(%)

	全 体	性 別		学 年 別		学 校 別			
		男 子	女 子	1 年	2 年	A 校	B 校	C 校	D 校
世 界 史	54.8	57.3	51.9	44.9	61.5	12.1	98.6	97.3	0.3
日 本 史	0.5	0.8	0.0	0.0	0.8	0.0	0.8	0.8	0.3
地 理	2.7	1.1	4.9	0.4	4.3	0.5	0.4	0.3	11.1
倫 理	20.6	21.0	19.9	50.3	0.7	80.4	0.2	1.6	0.0
政 治 経 済	1.8	1.4	2.2	4.4	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0
現 代 社 会	19.6	18.4	21.1	0.0	32.7	0.0	0.0	0.0	88.3

表2-2 2年生のときの科目 × 属性

(%)

	全 体	性 別		学 年 別		学 校 別			
		男 子	女 子	1 年	2 年	A 校	B 校	C 校	D 校
世 界 史	56.6	49.5	65.7	48.6	59.2	48.2	41.8	40.4	92.6
日 本 史	17.4	19.0	15.3	20.7	16.3	17.8	34.4	14.8	2.4
地 理	25.9	31.4	19.0	30.7	24.4	34.0	23.8	44.8	4.7
倫 理	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
政 治 経 済	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
現 代 社 会	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.3
不 明	(21.6)	(23.6)	(18.9)	(53.2)	(0.4)	(54.4)	(25.6)	(0.8)	(0.0)

( )内の数値は、不明者の割合を示している。

不明とカウントされている背景は、選択科目がまだ決まっていない結果であろう。ということは、2年次に受ける科目は生徒に自由に選択させているということの意味しているといえよう。

次に受験予定の科目をたずねた結果が表2-3である。どうするか未定と思われる生徒が17.2%いるが、決めていた生徒の中では、社会科で受験しない者は1割（10.3%）にすぎない。これは、調査対象者の92.4%が4年制大学（国公立71.8%、私立20.6%）に進学

を希望している結果といえよう。3年生や実際の受験時には、社会科で受験しない者はもっと増加するのが通例である。また、受験科目としては、地理（30.5%）と日本史（30.0%）と世界史（24.5%）の地歴分野の3科目で85%に達していることがわかる。

ところで、生徒たちの社会科選択が、新課程と旧課程でどう相違しているのだろうか。この点を知る手がかりとして1991年に調査したデータを表2-4としてまとめてあるので参照してほしい。

表2-3 受験予定の科目 × 属性

(%)

	全 体	性 別		学 年 別		学 校 別			
		男 子	女 子	1 年	2 年	A 校	B 校	C 校	D 校
世 界 史	24.5	21.8	27.9	28.1	23.0	31.9	21.3	21.9	25.7
日 本 史	30.0	29.0	31.1	27.1	31.0	25.0	35.6	24.0	32.8
地 理	30.5	35.6	24.0	33.4	29.4	33.0	29.1	31.7	29.1
倫 理	1.5	1.5	1.6	0.7	1.9	0.8	3.8	0.5	0.5
政 治 経 済	3.1	3.0	3.2	2.9	3.2	2.4	1.9	7.5	0.5
現 代 社 会	0.1	0.2	0.0	0.2	0.1	0.4	0.0	0.3	0.0
社会科では 受験しない	10.3	8.9	12.2	7.6	11.4	6.5	8.3	14.1	11.4
不 明	(17.2)	(18.1)	(15.9)	(40.7)	(1.4)	(42.6)	(18.8)	(3.1)	(0.3)

( ) 内の数値は、不明者の割合を示している。

表2-4 旧課程での選択動向

(%)

	1年次の選択科目	2年次の選択科目	受験予定の科目
世 界 史	12.4	26.7	26.4
日 本 史	1.8	49.3	36.5
地 理	13.1	16.1	19.5
倫 理	0.2	0.0	0.3
政 治 経 済	6.6	0.4	1.8
現 代 社 会	65.9	7.5	1.1
社会科では 受験しない			14.4

旧課程では現代社会のみが必修であったので、1年次に現代社会(65.9%)を置く学校が多かったことがわかる。そして、2年次からは地歴分野を選択履修する学校が多く、しかも、その内訳は半数近くが日本史を選ぶか、置いているのが一般的であった。したがって、受験科目でも日本史受験が圧倒的に多かったのである。しかし、新課程では世界史が必修となったので、圧倒的に世界史選択者が増加する結果になったのである。もっとも、そのわりに世界史で受験するという生徒は増加していない。むしろ、新課程では確実に地理受験者が増加している。これは、理系の生徒に地理選択者が多いことと関連している。性別でも男女で10%以上の差があることが、このことを裏づけているといえよう。

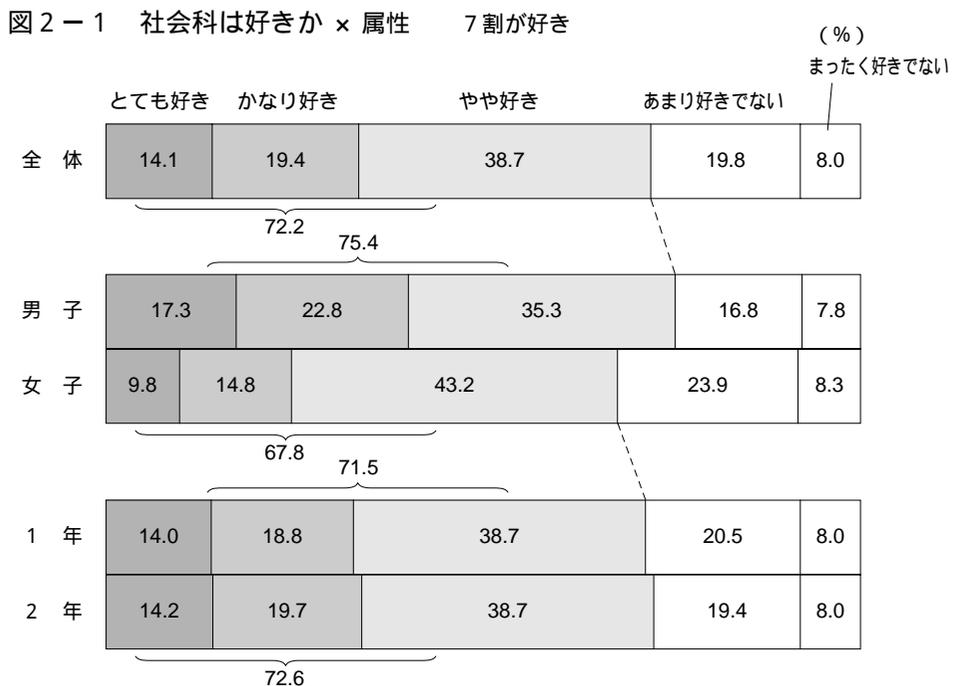
## (2) 社会科は好きか

たくさんの科目がある社会科を教科とし

て、生徒が好きであるかどうかという問いに対する回答が図2-1である。

「とても」と「かなり」と「やや」好きを合わせると72.2%となり、概して社会科は好きな教科であることがわかる。性別では、男子75.4%に対して女子67.8%と、男子の好感度の方が高い。特に積極的に好きな層(「とても」+「かなり」好きな割合)を比較すると、男子40.1%に対して女子24.6%と1割以上の差がある。社会科の好感度に対する性差は、旧課程以来の一般的傾向といえる。学年別では、ほとんど差がない。

今回の調査では、8つの教科の中で「一番好きな教科」という項目で地歴・公民は、体育、数学に次いで3番目になっている。「勉強していて一番楽しい教科」では、数学、英語に次いで3番目、「社会に出てから一番役に立つ教科」では英語、家庭科に次いで3番目、「年をとってからも勉強したい教科」で



も英語、芸術に次いで3番目にそれぞれ入っている。生徒たちにとって社会科は、一番ではないが、まずまず好感の持てる教科であることはこれらの結果からもうなずけよう。

なお、1991年の調査では、「あなたは現在、社会科は好きですか」という項目に対して、次のような回答がなされている。

とても好き	20.4%	} 60.7%
わりと好き	40.3%	
どちらでもない	17.7%	
あまり好きでない	14.4%	
まったく好きでない	7.2%	

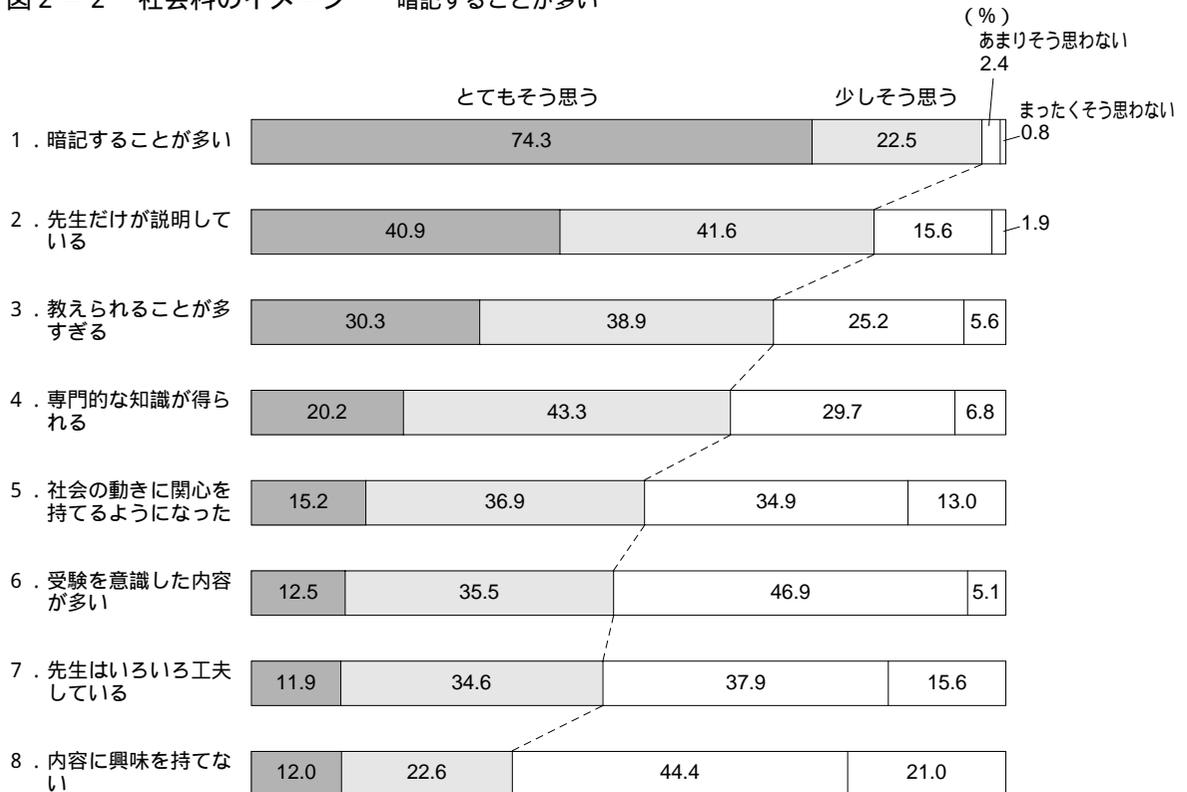
尺度が違うので厳密には言えないが、旧課程から新課程にかわっても、好感度に大きな変化はなかったといえよう。

## 2 社会科のイメージ

社会科という教科に対して生徒たちの持つイメージを問うた結果が、図2-2である。生徒たちの多くは、社会科は暗記することが多く(96.8%、「とても」+「少し」そう思う割合、以下同じ)先生だけが説明しているし(82.5%)教えられることが多すぎる

(69.2%)と思っている。一方、教科の内容に興味を持ってない(34.6%)ということではなく、専門的な知識も得られるし(63.5%)わりと社会の動きに関心を持てるようになった(52.1%)と評価している。ただし、授業内容や方法について先生はいろいろ工夫して

図2-2 社会科のイメージ 暗記することが多い



いるかという点、必ずしも満足しているわけではない(46.5%)といえよう。

図2-3は、学年別のクロス集計である。1年生は、専門的な知識が得られるし(68.7%) 社会の動きに関心を持てるようになった(63.8%)と特に思っている。社会科に対する好イメージは2年生よりも高い。1年生は中学時代の社会科と比較しているのではないだろうか。1年生に対して2年生は、受験を意識した内容が多い(56.3%)と過半数の者が思っている。これは、2年生になって多くの受験する生徒が受験科目として選ぶ、地歴分野の世界史・日本史・地理を選択して受講するようになった結果である。進学校の多くでは、2年生になると否応なく受験

を意識せざるを得なくなるのである。当然教科イメージにもそれは反映してくる。なお、性別による違いはほとんどない。

ところで、社会科の6つの科目に対して生徒たちはどのようなイメージを持っているのだろうか。その点を問うてみた結果が表2-5である。

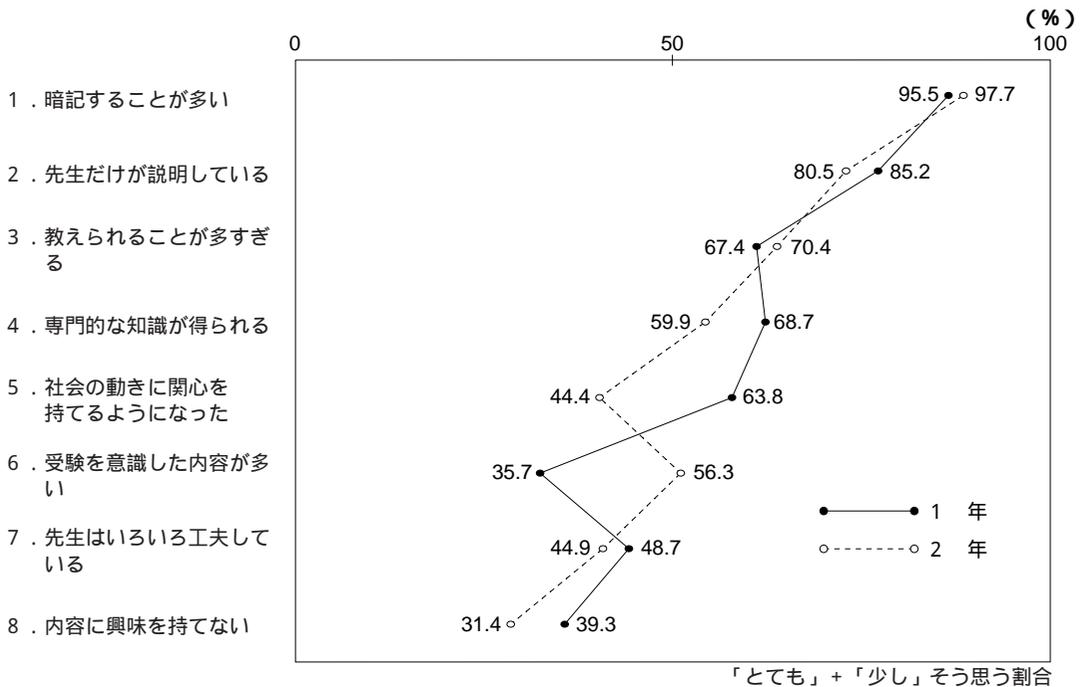
世界史は、一番進度が速そうな科目で、少し嫌いな科目だが、受験には役立ちそうな科目でもある。

日本史は、一番好きな科目で、進度も速そう、受験にも役立ちそうな科目である。

地理は、受験に一番役立ちそうな科目で、好きな科目でもある。

倫理は、一番嫌いな科目だし、受験に一番

図2-3 社会科のイメージ × 学年 1年は社会の動きに関心を持てるようになった



役立ちそうにない科目だが、いろいろ考えさせられることが一番多い科目で、教養を高めることができそうな科目である。

政治経済は、将来一番役に立ちそうな科目で、一番教養を高めることができそうな科目で、いろいろ考えさせられることが多い科目だが、少し嫌いな科目である。

現代社会は、受験にはあまり役立ちそうにない科目だが、将来は役立ちそうな科目だし、いろいろ考えさせられることが多い科目でもある。

以上のような生徒たちの科目イメージは、調査対象校のみならず、多くの学校で共通するのではないだろうか。そして、ここからは

地歴分野は受験科目として、公民分野は現代社会を生きるための教養科目として、生徒の意識の中で社会科がかなり明確に二分されていることが読み取れるといえよう。それは、また多くの地歴分野の教師たちの意識との落差を生んでいるのではないだろうか。地歴分野の教師たちは、自分たちの教えている科目は単なる受験のためだけのものではなく、将来に役立つし、教養を高める上で最も大切な科目だと信じている。

この生徒と教師の教科観のギャップを埋めるためには、授業方法の改善など教師側の努力が今後、なお一層必要なのではないだろうか。

表 2-5 各科目のイメージ

(%)

	世界史	日本史	地理	倫理	政治経済	現代社会
1. 一番好きな科目	21.0	33.5	24.4	8.3	10.3	2.5
2. 一番嫌いな科目	22.3	11.0	13.1	23.7	20.4	9.5
3. 受験に一番役立ちそうな科目	26.3	27.5	31.7	3.4	8.9	2.2
4. 受験に一番役立ちそうにない科目	8.8	9.0	6.8	45.2	8.0	22.2
5. 将来一番役立ちそうな科目	4.8	4.2	13.0	7.9	53.3	16.8
6. いろいろ考えさせられることが一番多い科目	7.9	7.5	3.4	35.4	24.0	21.8
7. 一番教養を高めることができそうな科目	10.0	10.5	7.5	22.6	34.1	15.3
8. 一番進度が速そうな科目	41.4	21.1	12.3	6.4	10.5	8.3

○ は各項目中の最大値

○ は各項目中の第2位

### 3 望ましい授業方法

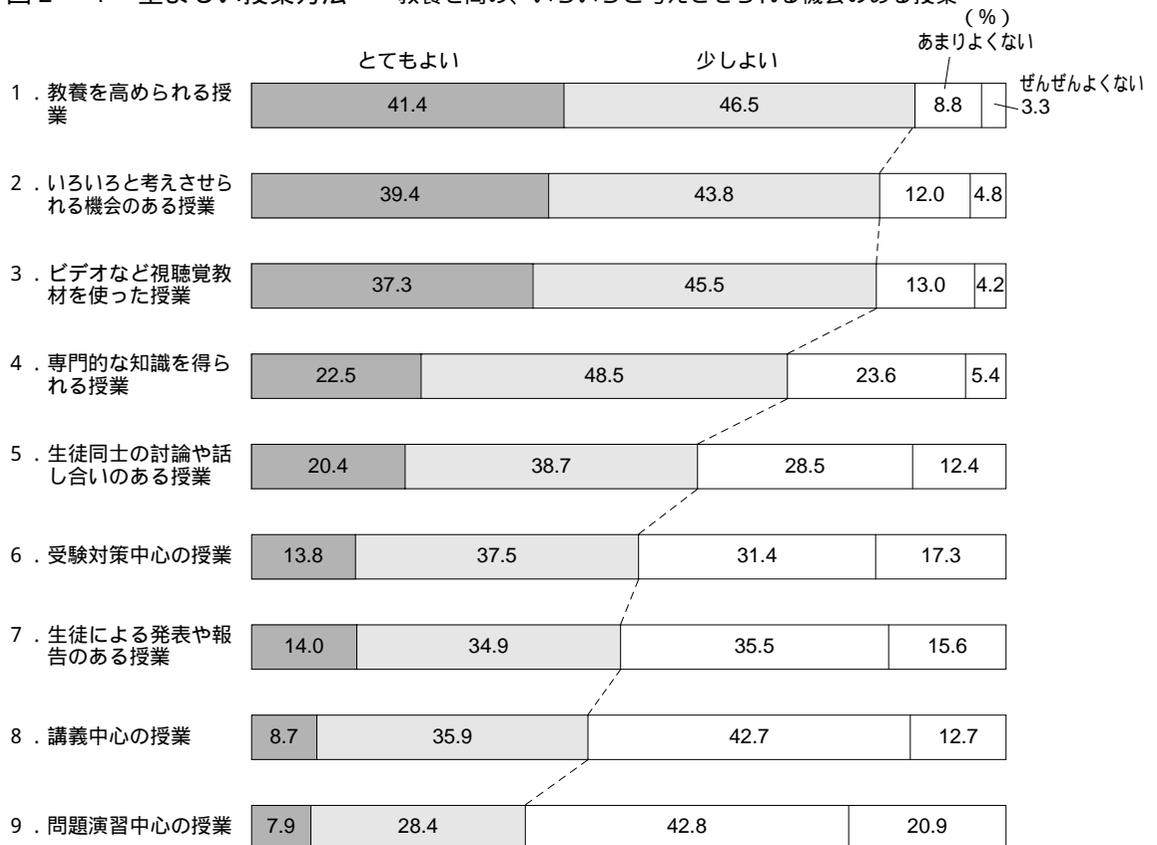
最後に、社会科の授業方法としては、どのようなものが生徒たちにとって望ましいものなのだろうか。この点をたずねたものが図2 - 4である。

授業の内容としては、「受験対策中心の授業」(51.3%、「とても」+「少し」よい割合、以下同じ)よりも、「教養を高められる授業」(87.9%)や「いろいろと考えさせられる機会のある授業」(83.2%)や「専門的な知識を得られる授業」(71.0%)を強く望んでいる。授業方法としては、黒板を背にチョークを持って行う伝統的な「講義中心の授業」(44.6%)や、「問題演習中心の授業」(36.3%)よりも、「ビデオなど視聴覚教材を使った授業」(82.8%)や問題解決型学習と

もいえる「生徒同士の討論や話し合いのある授業」(59.1%)を支持している。ただし、「生徒による発表や報告のある授業」(48.9%)の支持率は過半数に達していない。

ところで、生徒に一番支持されている「教養を高められる授業」や「いろいろと考えさせられる機会のある授業」とは、どのようなものなのだろうか。その謎を解くカギが前節で述べた表2 - 5(P.33参照)にある。「いろいろ考えさせられることが一番多い科目」は倫理であり、「一番教養を高めることができそうな科目」が政治経済であった。生徒たちは、倫理や政治経済の内容を望ましいと思っているのではないだろうか。ただし、倫理や政治経済では、地歴分野に比較してディベ-

図2 - 4 望ましい授業方法 教養を高め、いろいろと考えさせられる機会のある授業



トや生徒による発表学習を重視している。その結果とばかりは言えないが、嫌いな科目としても上位にあげられているのである。だとすると、受験科目として意識している地歴分野に、倫理や政治経済の内容を含めてほしいというのが生徒たちの希望なのかもしれない。

一方、視覚世代の高校生たちにとっては、明治以来の伝統的な講義中心の授業は望まないが、かといって事前学習のかなり必要な発表形式の授業もあまり望んでいない。つまり、つまるどころ自習するよりも手っ取り早く教師から要点を整理した知識を伝授してもらいたいと考えているのではないだろうか。ただし、1991年の類似の調査項目と比較すると、明らかに自学自習型の授業への支持率が高まっていることがわかる。

- ・ビデオをたくさん見せてほしい 58.9%
- ・受験中心の講義をしっかりとやってほしい 54.0%
- ・討論を中心とした授業をしてほしい 13.6%

- ・生徒の発表をたくさんやらせてほしい 9.7%

(「とても」+「わりと」そう思う割合)

望ましい授業方法の属性別のクロス集計の結果が、表2-6である。性別では、女子の「教養を高められる授業」(92.7%)、「いろいろと考えさせられる機会のある授業」(87.4%)、「ビデオなど視聴覚教材を使った授業」(87.4%)に特に強い支持がある。

学年別では、1年生が「生徒同士の討論や話し合いのある授業」(62.6%)や「生徒による発表や報告のある授業」(53.6%)といった、自学自習型の授業を積極的に支持している。これに対して2年生は、「受験対策中心の授業」(60.1%)内容で、「講義中心」(50.0%)で、「問題演習中心」(42.5%)の授業方法をより強く支持していることがわかる。受験を身近に意識するか否かが、望ましい授業方法に大きく影響していることがわかる。

今後とも、生徒たちの多様な希望をどう調整し、生徒が満足するような授業内容と方法の改善に一層努力することが、社会科の各分

表2-6 望ましい授業方法 × 属性

	全 体	性 別		学 年 別	
		男 子	女 子	1 年	2 年
1. 教養を高められる授業	87.9	84.3	< 92.7	87.8	= 88.0
2. いろいろと考えさせられる機会のある授業	83.2	80.1	< 87.4	85.3	> 81.8
3. ビデオなど視聴覚教材を使った授業	82.8	79.4	< 87.4	82.6	= 83.0
4. 専門的な知識を得られる授業	71.0	70.4	< 72.0	71.4	> 70.7
5. 生徒同士の討論や話し合いのある授業	59.1	58.6	< 59.6	62.6	> 56.6
6. 受験対策中心の授業	51.3	51.5	= 51.1	38.4	60.1
7. 生徒による発表や報告のある授業	48.9	48.2	< 49.8	53.6	> 45.7
8. 講義中心の授業	44.6	44.0	< 45.4	36.6	50.0
9. 問題演習中心の授業	36.3	39.6	> 32.0	27.1	42.5

「とても」+「少し」よい割合は10%以上の差

## 第3章 ||||

# 「芸術科音楽」に対する教科観

## - 男女差の背景と学校差の影響 -

### はじめに

現在、高校の芸術科は多くの場合選択必修の形で、音楽、美術、書道などの中から1科目を選択して、3年間で2～6単位程度を学習することになっている。

ところで、今後の学校教育の再編に向けて、いくつかの教科・科目では単位数を削減していく必要がでてくる。その際には、これまで行われてきた学習活動や、それぞれの教科・科目の存在意義をどう評価していくのかが、重要な課題になるだろう。その評価は教師、学識者、教育行政が下すことになるが、それと同時に、学習者による評価という視点もあるそかにできないのではないだろうか。

芸術科音楽（以下、音楽科）について考えると、高校生が常日頃接する音楽は、学校で学習する音楽の主流であるいわゆるクラシック以外にも、テレビやCDなどを通して接するさまざまなジャンルのポピュラーミュージックや民族音楽など多岐にわたっており、芸術科目の中でも生徒一人一人の嗜好の違いが最も顕著に現れる。このような状況を考慮したとき、生徒たちにとって学校教育の、しかも高校段階で音楽を学習することの意味とは何だろうか。

そこで本章では、高校生の音楽科に対する教科観を彼らが音楽科にどのように取り組み、受容し、教科の役割を認識しているのかという点を中心に検討していく。

## 1 履修の様子

最初に、芸術科目で音楽科を履修している割合を確認しておこう。表3-1に、全体、学校別、男女別、学校以外で音楽を習ったりやったりした経験の有無別（以下、経験別）にまとめた。

全体では、33.2%が履修している。一般的

には4割程度が音楽を履修しているといわれているので、やや低い数字である。

学校別にみても、B校の1年生のみ40%以上の高い履修率になっているが、その他はだいたい30%程度の履修率である。

男女別にみると、男子が30.6%なのに対し

て女子は36.7%で、やや女子の方が音楽を履修している割合が高い。しかし、この結果はもう少ししていねいにする必要がある。

経験別にみると、経験のある生徒の38.5%が履修しているのに対して、経験のない生徒は25.3%が履修しているにとどまっている。さらに男女別の違いを加えてみてみよう。後述するように音楽経験には男女差が大きく、女子の9割が何らかの形で学校以外での音楽経験をもっているのに対して、男子は半数に満たない。大半の女子が音楽経験をもっているうえに、表には示さなかったが、音楽経験のない女子の履修率は12.5%で、この人数は女子の履修者のわずか3.5%にすぎない。一方、男子は、経験別にみると、経験のある生徒の方が履修率が9.3%ほど高いが、もともと経験者が少ないため、実数でみるとちょうど半数ずつになっている。つまり、音楽科履修者の女子のほとんどが経験者であるのに対して、男子は半数が未経験者であるということである。

このことは、女子の方が音楽の好きな人が多いといわれているような、一般的なジェン

表3-1 音楽科の履修率 × 属性

(%)

	履修率
全 体	33.2
A 校	32.1
B 校 1 年	43.9
B 校 2 年	32.6
C 校	30.4
D 校	30.7
男 子	30.6
女 子	36.7
経験者	38.5
未経験者	25.3

ダー問題をを超えて、音楽教育上のさまざまなジェンダー問題として今後検討していくべき課題を提起している。

## 2 音楽科選択の理由

今回の調査対象校では、芸術科は選択によって履修する科目を決めることになっているが、生徒たちはどのような理由で音楽科を選択したのだろうか。図3-1に全体を図3-2に男女別、経験別に選択理由をまとめた。なお、回答にあたっては複数回答を認めている。

全体では、積極的な選択理由をあげている生徒が、「音楽が好きだから」で63.3%、「音楽の授業が楽しそうだから」で29.0%いる一方、「他の選択科目が嫌いだから」が37.4%、「音楽の授業が楽しそうだから」が25.4%と、消極的な選択理由もかなりの割合であげられていた。ただし、複数回答のため、積極的理

由と消極的理由の双方を重複して選択している生徒もいる。

ところで、一般に選択科目や部活動などを選ぶ際の消極的理由として、友だちと一緒にだからという理由が目立つのだが、今回の調査では、「仲のいい友だちが履修するので一緒にとろうと思ったから」という選択肢を選んだ生徒はわずかに3.2%しかいなかった。これが、現在の高校生の特徴なのか、それとも音楽科に限ったものなのか、今回の調査対象校に特有の傾向なのかは、調査結果からは読み取れないが、注目に値するデータである。

男女別にみてみよう。積極的理由である「音楽が好きだから」では、女子の75.6%に

対して男子は52.4%、「音楽の授業が楽しそうだから」では、女子の34.4%に対して男子は24.1%と、女子の方が積極的理由を選んでいる割合が高い。

一方、消極的理由である「他の選択科目が嫌いだから」では、男子の42.9%に対して女子は31.3%、「音楽の授業が楽しそうだから」では、男子の27.9%に対して女子は22.5%、「試験がなさそうだから」では、男子の11.9%に対して女子は4.2%と、男子の方が消極的理由を選んでいる割合が高い。

経験別にみてみよう。積極的理由である「音楽が好きだから」では、経験者の73.5%に対して未経験者は32.9%、「音楽の授業が楽しそうだから」では、経験者の29.6%に対して未経験者は22.4%と、経験者の方がより多く積極的理由を選んでおり、特に「音楽が

好きだから」での経験者と未経験者の格差が非常に大きいのが目につく。

一方、消極的理由である「他の選択科目が嫌いだから」では、未経験者の43.4%に対して経験者は35.3%、「音楽の授業が楽しそうだから」では、未経験者の30.9%に対して経験者は22.2%、「試験がなさそうだから」では、未経験者の12.5%に対して経験者は6.7%と、未経験者の方が消極的理由を選んでいる割合が高い。

未経験者で音楽を選択している生徒の大半が男子であることを考慮すると、男子の音楽未経験者が、芸術教科の選択科目として音楽や美術や書道などのいずれかを履修しなくてはならないため、消極的な理由で音楽を選択した様子うかがえる。

図3-1 音楽科の選択理由

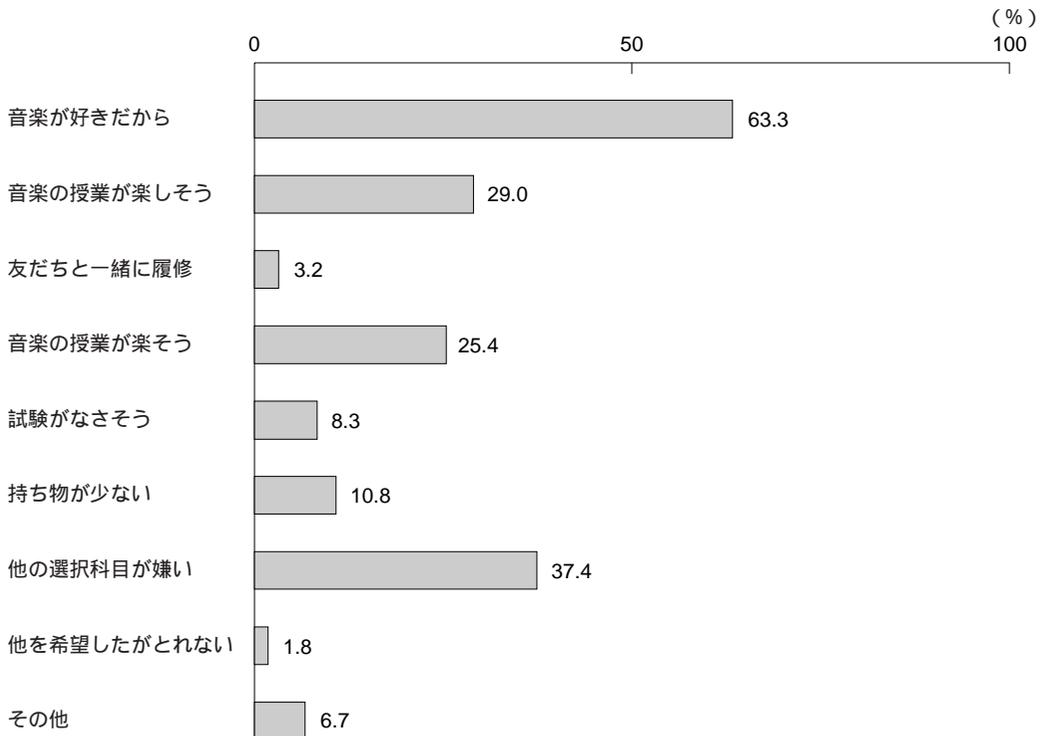
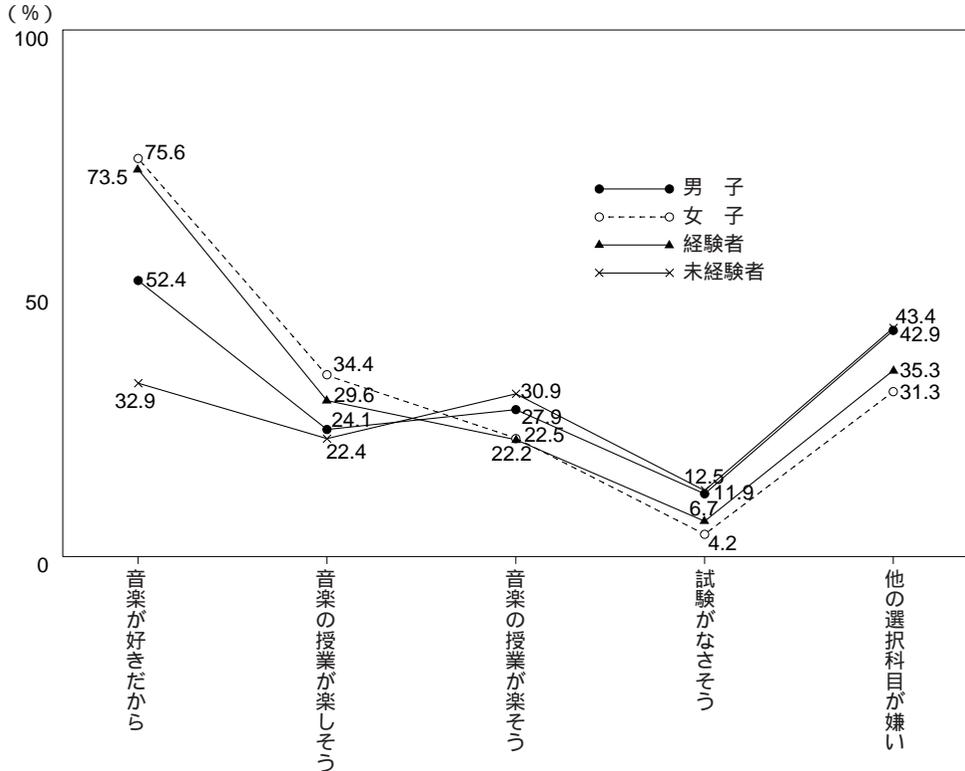


図3-2 選択理由 × 性・経験



### 3 授業の中心的な活動とよく扱ったジャンル

中学校までの音楽科の授業と異なり、高校の音楽科では、教師の自由裁量に任されて授業が行える傾向が強い。しかし、このことは単に学校教育上の進路選択に及ぼす成績面での影響にとどまらず、音楽教育の社会的役割を考えるうえでも非常に重要な問題となりうる。そこで、1年間の音楽の授業で、どのような活動を中心に学習してきたのか、また歌唱や鑑賞では主にどんなジャンルの音楽を扱ってきたのかについて、生徒がどのように受けとめたかをたずねた。図3-3から図3-7に授業の中心的な活動を全体と学校別に、一番よく扱った活動と二番目によく扱った活動とに分けて棒グラフにしてまとめた。また表3-2によく扱っていたジャンルを全体と学校別に、一番よく扱ったジャンルと一番か

ら三番までの総和とに分けてまとめた。

まず授業でよく扱った活動についてみていこう。全体の傾向としては、図3-3のように、一番多い活動だと生徒が感じたのは、歌唱が50.8%、器楽が19.8%、鑑賞が22.0%で、この主要な3領域で9割以上になっている。

しかし、これを学校別にみていくと、学校ごとに活動のパターンが全く違っている。

A校は、図3-4のように、一番よく扱った活動について、歌唱が43.5%、器楽が24.1%、鑑賞が30.1%と、かなりバランスよく主要3領域の活動をしている。

B校は、図3-5の通りである。一番よく扱った活動について、1年生では歌唱が47.3%、器楽が51.8%で、2年生では歌唱が76.7%、器楽が22.1%で、鑑賞をあげた生徒

は、いずれの学年もわずかに1名であった。二番目によく扱った活動についてみてみると、1年生で歌唱が50.9%、器楽が40.9%、2年生で歌唱が20.9%、器楽が68.6%と、歌唱と器楽が活動のほとんどだった。

C校は、図3-6のように、一番よく扱った活動について、鑑賞が64.1%で、音楽理論や音楽史が28.2%、二番目によく扱った活動をもとめても、この2つが活動の中心になっ

ている。一般に音楽の授業の主要な活動の筆頭にあげられる歌唱は、一番よく扱った活動と二番目によく扱った活動の両方を合わせても2.6%、わずか3人にすぎない。

D校は図3-7のように、一番よく扱った活動として歌唱が93.8%にも上っており、二番目によく扱った活動として鑑賞が72.1%となっている。おそらく時間配分などもかなり明確に分けてこの2つの活動を中心に授業が

図3-3 授業で扱った活動

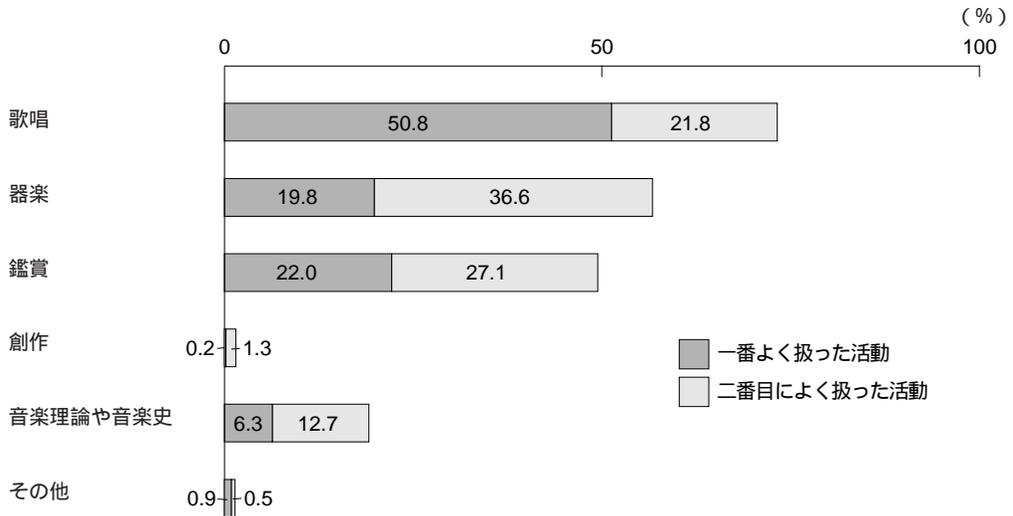
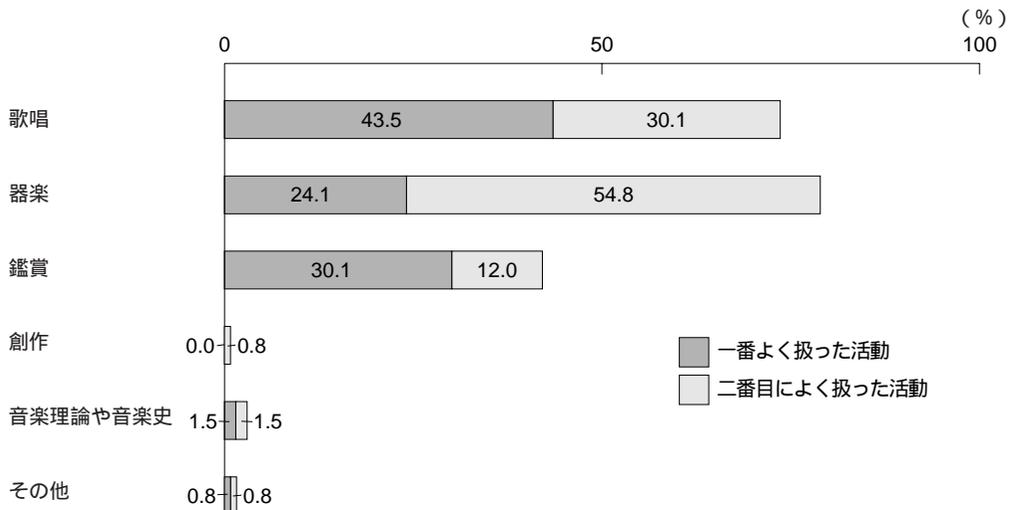


図3-4 授業で扱った活動 (A校)



進められていたものと思われる。

以上4校の主要な活動をまとめてみると次のようになる。

- A校：歌唱・器楽・鑑賞
- B校：歌唱・器楽
- C校：鑑賞・音楽理論や音楽史
- D校：歌唱・鑑賞

図らずも4校で全く異なる活動パターンをとっていたわけだが、一般に各高校に音楽科の教員は1名ないし2名程度おり、1学年を1人で教えることが多いので、この学校ごとの違いは、すなわち教員ごとの違いとみることができる。なお、この違いの影響は、後にみるように、授業中の様子や、音楽を学校で学習することの意味づけにも強く影響を及ぼしている。

図3-5 授業で扱った活動（B校）

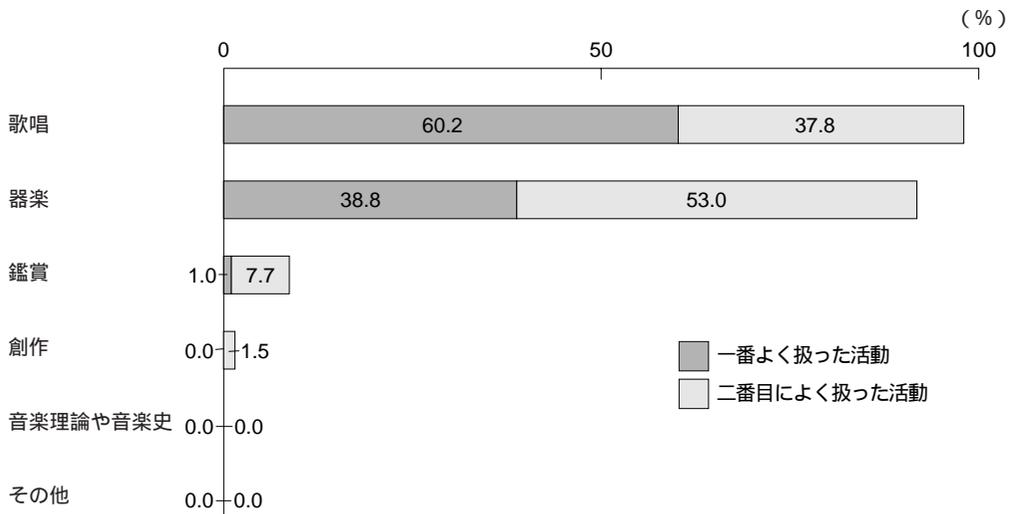
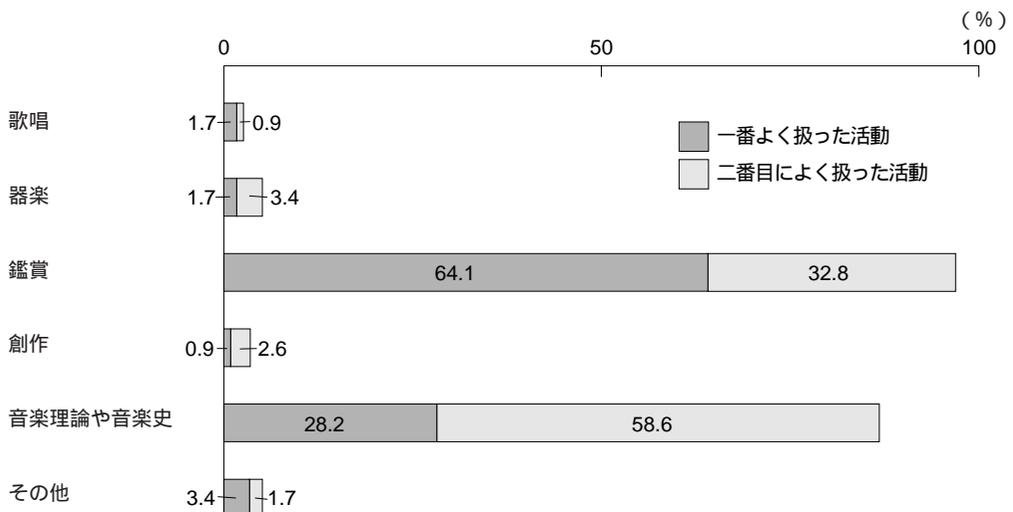


図3-6 授業で扱った活動（C校）



次によく扱ったジャンルについて表3-2からみていこう。全体の傾向としては、一番よく扱ったジャンルは、クラシックが69.1%と群を抜いており、その他は現代音楽の10.6%が目立つくらいである。二番目、三番目によく扱ったジャンルにまで目を広げると、クラシック以外には、現代音楽、日本の伝統音楽、民族音楽、外国のポップス、テレビ・映画などの主題歌が扱われていたようである。なお、よく扱ったジャンルにも、学校ごと、というよりも教師ごとの違いがはっきり現れている。

A校は、一番よく扱ったジャンルとしてはクラシックが85.5%で、これは4校の中で一番割合が高かった。一番から三番までの総和をみていくと、現代音楽や外国のポップスなども多く扱われていたようだ。

B校は、一番よく扱ったジャンルとしてはクラシックが52.1%で、これは4校の中でもっとも低い割合だった。その他、現代音楽の20.6%、日本の歌謡曲の6.2%、テレビ・映画などの主題歌の8.2%が目立った。一番か

ら三番までの総和をみていくと、現代音楽、日本のフォーク・ニューミュージック、日本の歌謡曲、外国のポップス、テレビ・映画などの主題歌などが多く扱われていたようだ。

C校は、一番よく扱ったジャンルとしてはクラシックの74.0%の他に、民族音楽の19.0%が目立った。一番から三番までの総和をみていくと、民族音楽が非常に目立つが、その他にも日本の伝統音楽が扱われている。さらに他校ではほとんど扱われていないジャズも扱っていたようだ。

D校は、一番よく扱ったジャンルとしてはクラシックの74.4%の他には特に目立ってよく扱われていたジャンルはないが、現代音楽、民族音楽、外国のポップスなど、幅広く扱っていたと感じられているようである。一番から三番までの総和をみていくと、現代音楽、日本の伝統音楽、民族音楽、ダンスミュージック、テレビ・映画などの主題歌が扱われていたようだ。また、具体的にはわからないがその他を選択する割合が高かった。

図3-7 授業で扱った活動（D校）

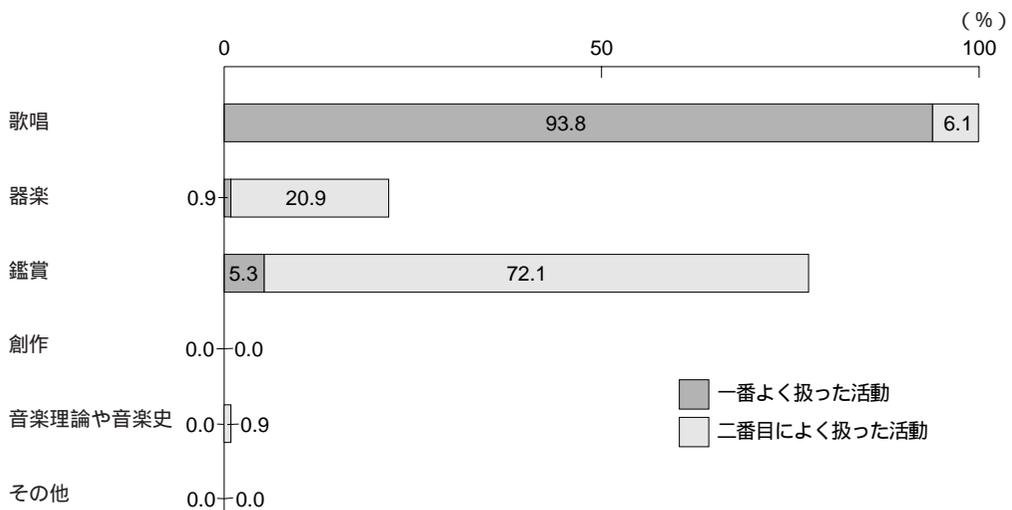


表3-2 授業でよく扱ったジャンル

(総和は300%)(%)

	クラシック	現代音楽	日本の 伝統音楽	民族音楽	日本の ロック	日本の フォーク	日本の 歌謡曲	日本の演歌
全体(一番)	69.1	10.6	0.5	5.8	0.4	1.1	2.5	0.4
全体(総和)	93.6	46.2	21.3	30.3	1.4	8.6	14.8	0.6
A校(一番)	85.5	6.1	0.0	0.8	0.0	0.0	1.5	0.0
A校(総和)	103.5	55.3	16.1	12.2	0.0	7.5	10.0	0.0
B校(一番)	52.1	20.6	0.5	2.6	0.0	3.1	6.2	0.5
B校(総和)	82.3	59.6	9.4	9.2	2.2	17.3	31.2	0.5
C校(一番)	74.0	0.9	0.0	19.0	1.7	0.0	0.0	0.0
C校(総和)	94.3	11.5	46.3	86.8	1.7	1.8	1.8	0.9
D校(一番)	74.4	8.8	1.8	3.5	0.0	0.0	0.0	0.9
D校(総和)	100.5	50.8	20.4	26.9	1.0	1.9	5.0	0.9
外国の ロック	外国の ポップス	ジャズ	フュージョン	ヘビー メタル	パンク	ダンスミュ ージック	主題歌	その他
0.4	3.6	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	3.8	1.4
2.9	27.5	5.0	0.4	0.8	0.8	4.5	33.1	8.2
0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.8
5.8	60.2	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0	19.1	5.4
0.0	5.2	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	8.2	0.5
2.7	30.4	0.0	0.0	0.5	0.6	4.4	45.9	3.8
0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.9	2.6
1.8	0.0	21.2	0.0	1.8	0.9	5.4	15.9	7.9
1.8	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	2.6
1.8	16.7	0.0	1.1	0.0	1.1	7.2	44.7	20.0

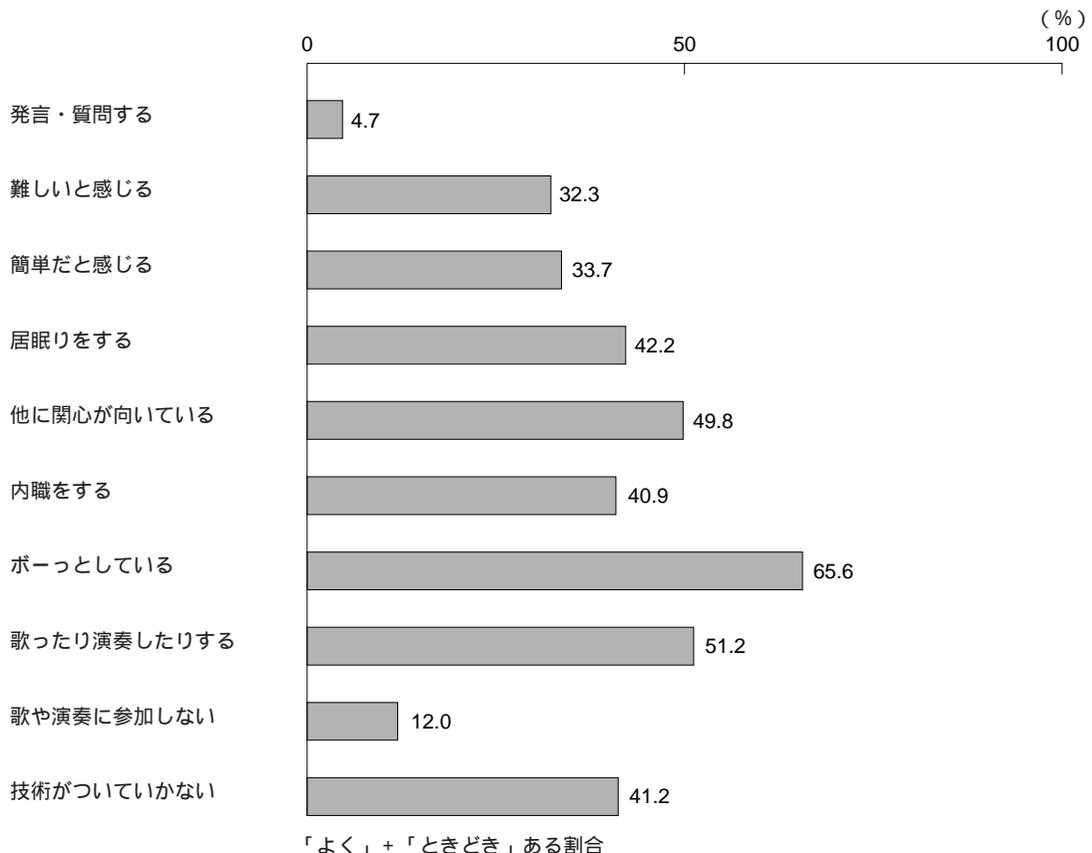
## 4 授業中の様子

では、前節でみたような授業に、生徒たちはどのようにかかわっていたのだろうか。授業中の様子について10項目にわたってたずねてみた。図3 - 8に全体の結果を、図3 - 9から図3 - 14に、学校別、男女別、経験別に、いずれも肯定的に答えた割合（「よくある」+「ときどきある」）をまとめた。

授業の内容について、「難しいと感じる」が「簡単だと感じる」かをたずねたところ、「難しい」に肯定的に答えた割合が32.3%、「簡単だ」に肯定的に答えた割合が33.7%だ

った。「難しい」を図3 - 9で学校別にみると、音楽理論や音楽史を授業に取り入れているC校では「難しい」の割合が47.0%と他校よりもかなり高く、器楽の活動の少ないD校では「難しい」の割合が17.4%と低かった。男女別にみると、男子で「難しい」と答えた割合が43.7%にも上るのに対して、女子は19.6%にすぎない。経験別にみると、経験者は23.3%しか「難しい」と感じていないが、未経験者は54.2%と半数以上が「難しい」と感じていたようだ。学校外での経験の有無に

図3 - 8 授業中の様子



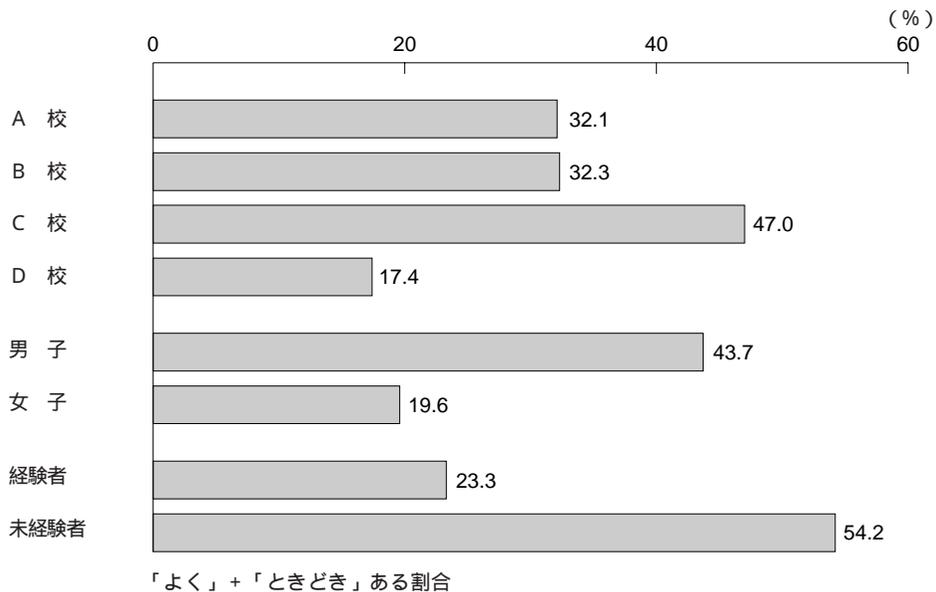
授業の理解度が左右されていることがわかる。なお、「簡単だ」については、「難しい」と正反対の結果が得られた。

授業中の態度について、「居眠りをする」「授業以外のことに関心が向いている」「内職をする」「ポーっと他のことを考えている」の4項目をたずねた。「居眠り」については全体では42.2%だった。図3-10から学校別にみると、C校が65.8%と非常に高かったが、これは、歌唱や器楽といった主体的な活動がほとんど行われていないためと思われる。これに対してB校では28.2%にすぎず、歌唱や器楽がほとんどの活動である結果といえよう。男女別では、男子の方が6.7%ほど高かった。経験別では、未経験者の方が15.6%ほど高かった。

「授業以外のことに関心が向いている」「内職をする」「ポーっと他のことを考えている」については、全体では、「関心」を49.8%、「内職」を40.9%、「ポーっと」を65.6%が肯定している。学校別にみると、A校でいずれの項目とも他校より高い割合で肯定していた。反対にD校でいずれの項目とも他校より低い割合で肯定していた。男女差と経験差はあまりみられなかった(図3-11)。これらの項目については、活動の種類やその難易度の問題とは異なるところに要因があるようだ。

諸活動への参加の様子について、「楽しく歌ったり演奏したりする」「みんなで歌ったり演奏したりしているときに参加しない」「やろうとは思っているが、技術がついてい

図3-9 難しいと感じること × 属性



かない」の3項目をたずねた。全体では、「歌ったり演奏したりする」は51.2%が肯定しており、「参加しない」は12.0%にとどまっていた。しかし「技術がついていかない」が41.2%もいることには注目する必要がある。図3-14から男女別にみると、「技術が

ついていかない」と感じている男子は52.2%で、女子の29.0%より23.2%も高い。その結果、「歌ったり演奏したりする」割合も15.7%男子の方が低く(図3-12)、「参加しない」男子は7.5%女子より高くなっている(図3-13)。当然これは、学校以外の経験の

図3-10 居眠りをすること × 属性

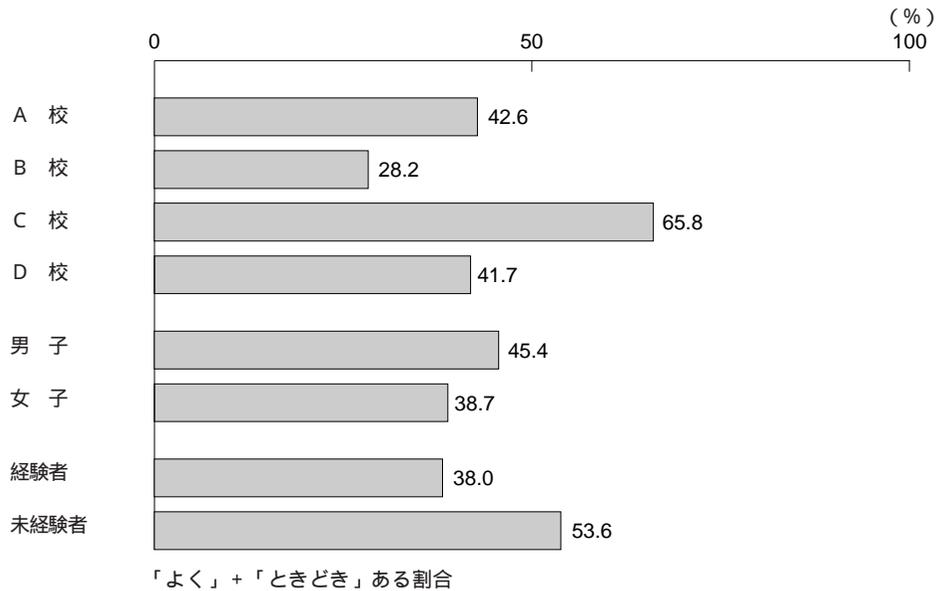
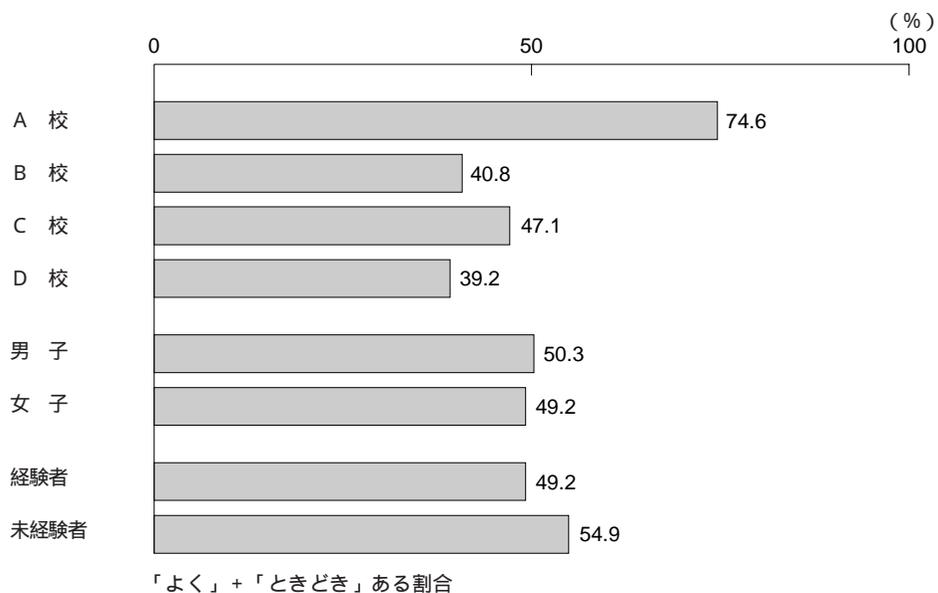


図3-11 他に関心が向いていること × 属性



差によるものであろう。実際図3-14から経験別にみていると、「技術がついていかない」と感じている未経験者は62.5%なのに対して、経験者は33.2%にすぎない。

この節の最初にみた「難しい」の項目への回答のしかたと合わせて考えると、高校の音

楽科の授業は、経験者にとっては決して難しいものではなく、そこそこついていける内容やレベルだが、未経験者にとっては、授業で経験するだけではこなしきれない程度に難しい内容やレベルなのかもしれない。

図3-12 歌ったり演奏したりすること × 属性

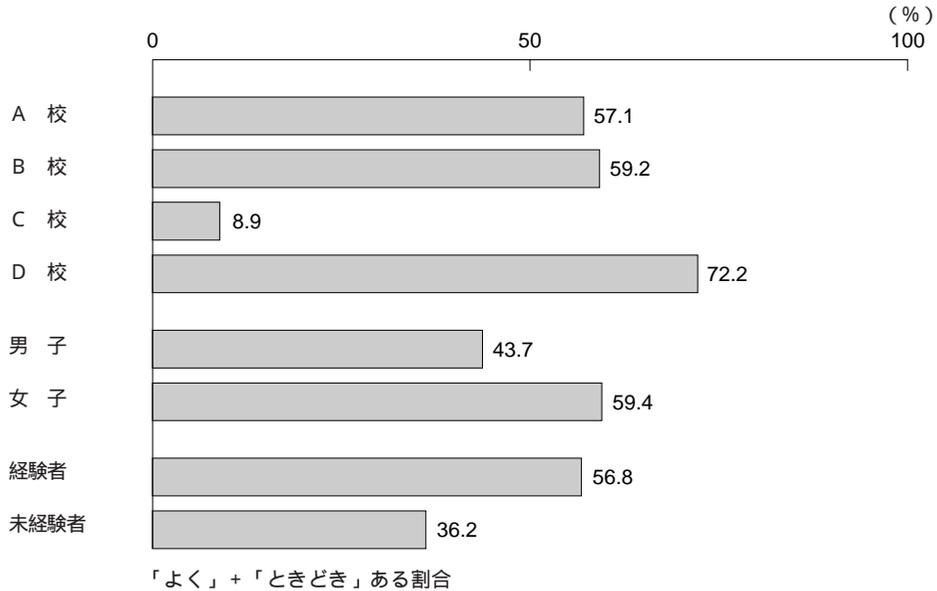


図3-13 歌や演奏に参加しないこと × 属性

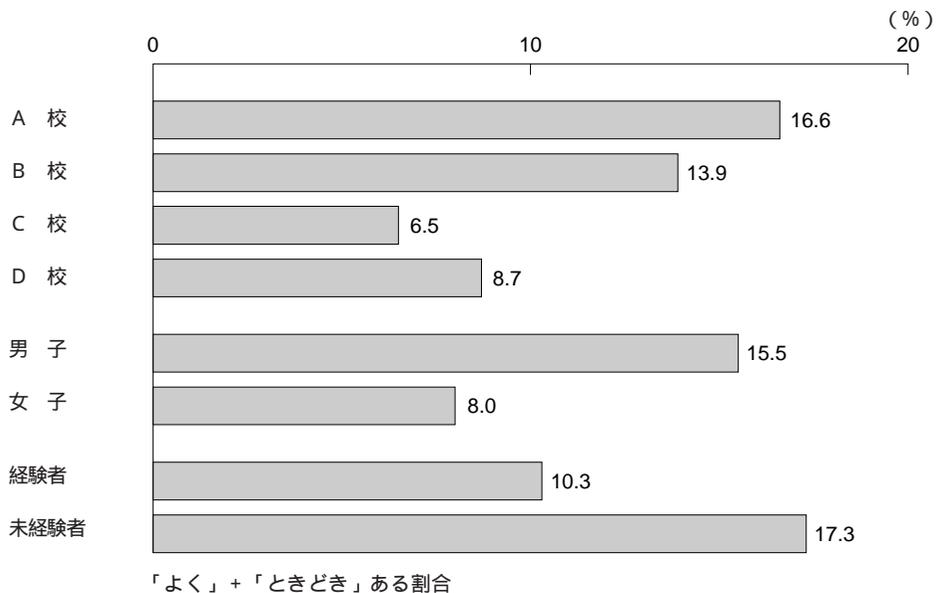
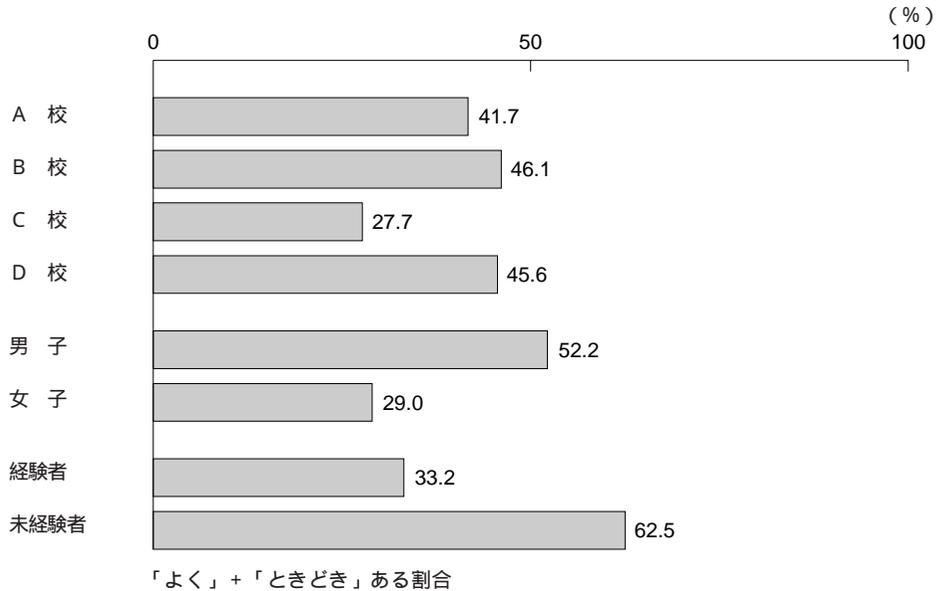


図3-14 技術がついていかない×属性



## 5 中心にしてほしい活動と扱ってほしいジャンル

前2節で実際の授業の活動と生徒たちの授業中の様子を確認したが、このような実態をふまえて、生徒たちはどのような授業を望んでいるのだろうか。どんな活動を中心にしてほしいのか、どんなジャンルを扱ってほしいのかについて、その希望をたずねた。中心にしてほしい活動については図3-15から図3-19に、一番扱ってほしいジャンルについては表3-3にまとめた。

まず一番中心にしてほしい活動であるが、全体では図3-15のように、歌唱が39.2%、器楽が27.4%、鑑賞が24.7%などとなっている。実際の活動と比べると、歌唱を希望する割合がかなり低く、器楽、鑑賞、創作を希望する割合が高いのが目立つ。

学校別にみると、歌唱や器楽を活動にほとんど取り入れていないC校では、歌唱や器楽を一番中心にするよう望む割合が4校のなかで最も高く、反対に鑑賞を望む割合が目立って低い。鑑賞中心の授業にやや食傷気味のようだ。

以下、図3-16から図3-19で属性別にみてみよう。

男女別にみると、男子は鑑賞と創作を希望する割合が高く、女子は歌唱や器楽を希望する割合が高い。特に注目したいのは、男子の創作を希望する割合が一番と二番とを合わせると20.7%にも上っていることだ。この項目で一番と二番に同じ選択肢を選ぶことはまずあり得ないので、男子の5人に1人が創作を活動の中心にしてほしいと考えていることになる。しかし現実には、今回の調査対象校では全くといってよいほど創作活動は行ってきていない。現在ではコンピュータで作曲したり編曲したりするソフトも普及しており、必ずしも五線譜が書けなくても、またさまざまな楽器が実際に演奏できなくても、コンピュータを使って作曲したり編曲したりできるのであるから、多少なりとも創作活動に取り組んでみてほしいのではないだろうか。

経験別にみると、経験者の方が歌唱と器楽を希望する割合が、未経験者の方が鑑賞を希

望する割合がやや高い。

次に扱ってほしいジャンルであるが、表3-3のように、全体では、クラシックを一番扱ってほしいジャンルにあげた割合が最も高かったが、25.8%にすぎず、総和でも49.5%と半分以下にとどまった。他に希望の高かったジャンルは、現代音楽(8.8%)、日本のフォーク・ニューミュージック(13.6%)、外国のポップス(9.8%)、テレビ・映画などの主題歌(13.2%)だった。表3-2にまとめた実際の授業で扱っているジャンルと比較してみると、まずクラシックが93.6%と、ほ

とんどの生徒がクラシックが授業で扱われていると回答しているが、ややクラシック偏重の授業に不満を感じているようである。また現代音楽や日本の伝統音楽、民族音楽などがもう少し少なくてよいということになり、日本のフォーク・ニューミュージックや外国のポップス、テレビ・映画などの主題歌をもう少し扱ってほしいと考えているようだ。

男女別にみると、男子の希望がより高かったのが、日本のロック、日本のフォーク・ニューミュージック、外国のロックで、女子の希望がより高かったのが、クラシック、外国

図3-15 中心にしてほしい活動

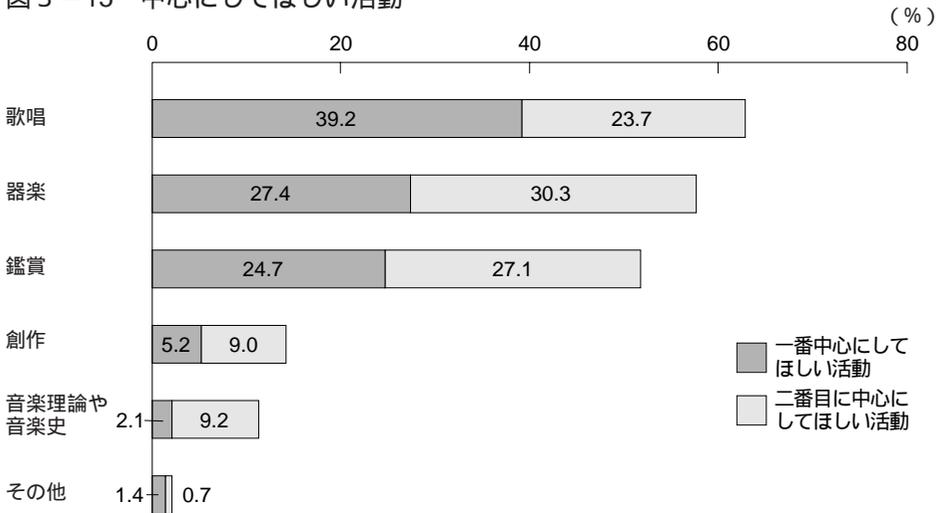
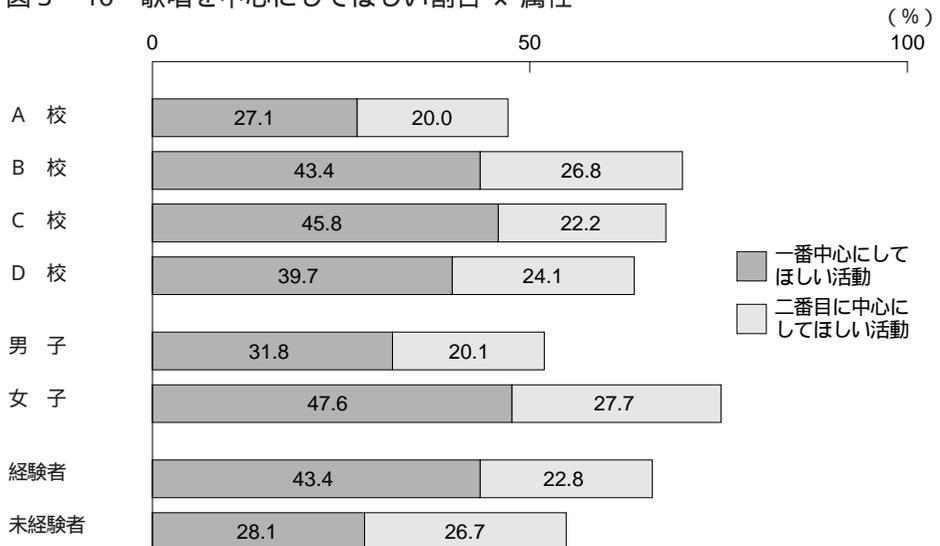


図3-16 歌唱を中心にしてほしい割合 × 属性



のポップス、テレビ・映画などの主題歌だった。

経験別にみると、経験者の希望がより高かったのが、クラシック、テレビ・映画などの主題歌で、未経験者の希望がより高かったのが、日本のロック、日本のフォーク・ニューミュージック、日本の歌謡曲、外国のロックだった。テレビ・映画などの主題歌を希望す

る割合が経験者の方が総和でみると7.0%ほど高かったのは、興味深い結果ではないだろうか。

ところで、後述するように、音楽科選択者以外も含めた調査対象者に、ふだんCDやコンサート、ライブで聴く音楽のジャンルをたずねているが、生徒たちがよく聴くジャンルは上位から日本のロック、日本のフォーク・

図3-17 器楽を中心にしてほしい割合 × 属性

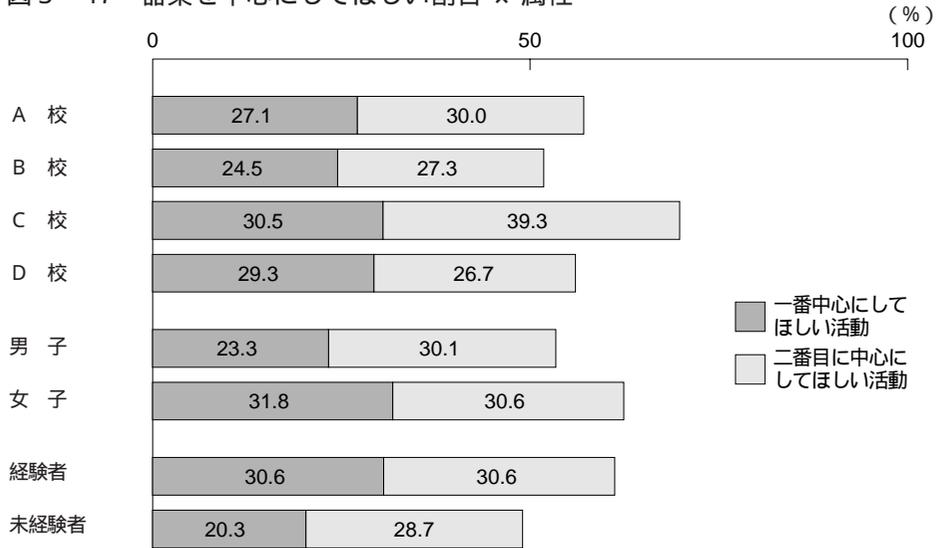
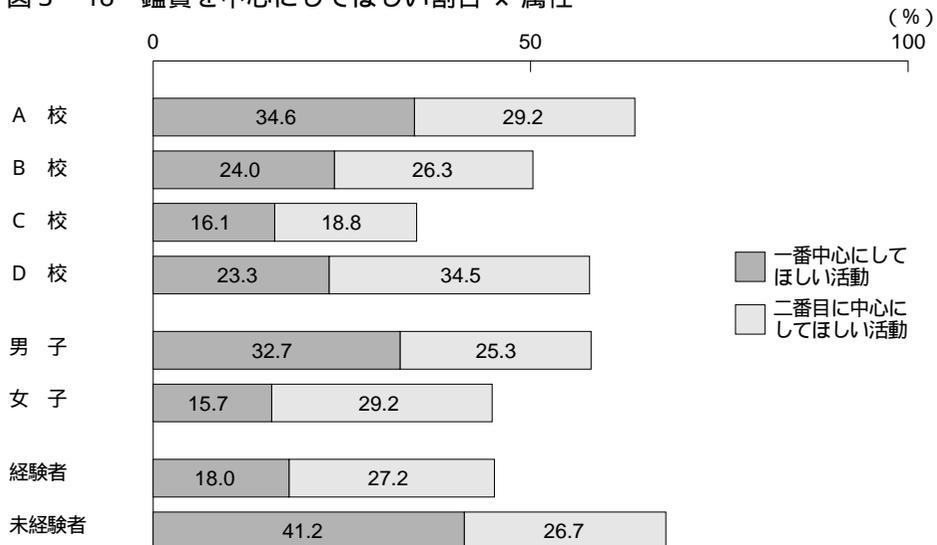


図3-18 鑑賞を中心にしてほしい割合 × 属性



ニューミュージック、テレビ・映画などの主題歌、外国のポップス、クラシックの順になっている。彼らの希望するジャンルは、実際に聴いているジャンルとかなりの程度重複するが、実際に授業で扱われているジャンルはクラシック、現代音楽、民族音楽などに偏っており、生徒たちの嗜好とずれていることが

わかる。安易にこのズレを埋めれば良いとは考えないが、しかし、このズレがあってもなおクラシックなどを中心に音楽の授業を行う必要があるのか、またそうならば、なぜそうすべきなのかを音楽教育の内在的な理由と合わせて社会的な意味も検討する必要があるだろう。

図3-19 創作を中心にしてほしい割合 × 属性

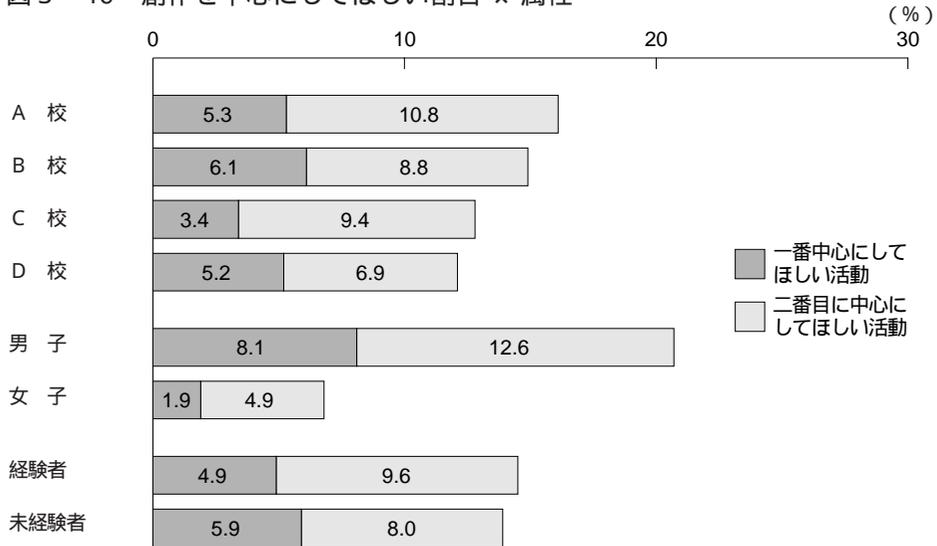


表3-3 歌唱や鑑賞で一番扱ってほしいジャンル

	(%)								
	クラシック	現代音楽	日本の伝統音楽	民族音楽	日本のロック	日本のフォーク	日本の歌謡曲	日本の演歌	
全体	25.8	8.8	1.6	2.1	5.0	13.6	5.2	0.5	
男子	23.7	8.1	1.0	2.4	7.1	16.2	5.7	0.7	
女子	28.0	9.5	2.3	1.9	2.7	10.6	4.6	0.4	
経験者	29.1	9.1	2.3	1.8	4.1	12.2	3.9	0.5	
未経験者	17.6	8.5	0.0	2.6	7.2	17.6	9.2	0.0	
外国のロック	外国のポップス	ジャズ	フュージョン	ヘビーマタル	パンク	ダンスミュージック	主題歌	その他	
4.1	9.8	3.8	0.4	1.1	1.8	2.5	13.2	0.7	
7.1	7.4	3.4	0.7	1.7	2.7	2.4	9.4	0.3	
0.8	12.5	4.2	0.0	0.4	0.8	2.7	17.5	1.1	
3.1	10.1	4.1	0.3	1.0	2.1	2.6	13.2	0.5	
5.9	9.8	3.3	0.7	0.7	1.3	2.6	12.3	0.7	

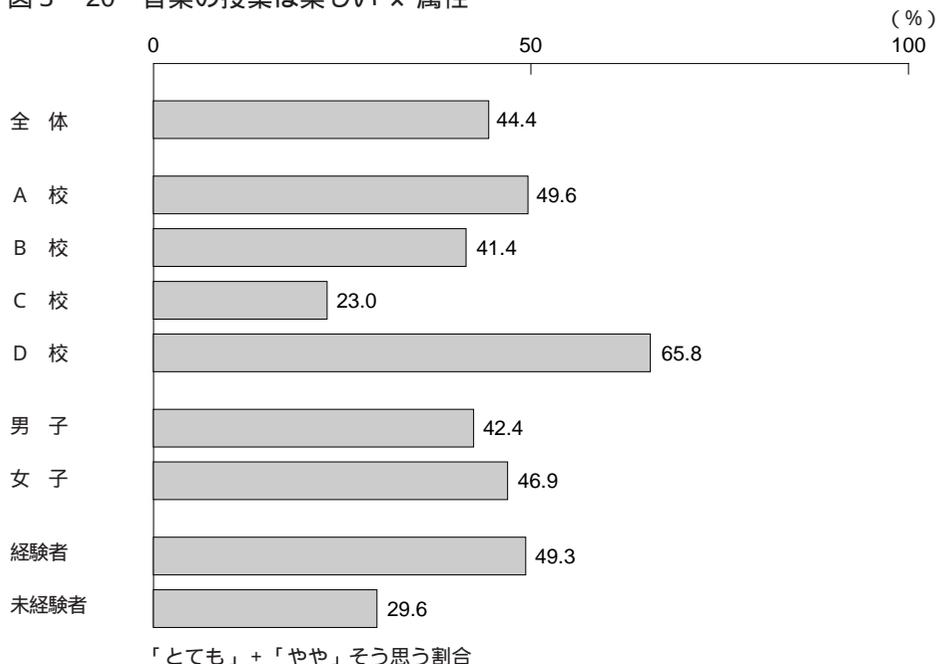
## 6 音楽科の授業の感想

さらに、1年間の授業を受けて生徒たちは授業に対してどのような感想をもったのだろうか。図3-20から図3-23に、全体、学校別、男女別、経験別に、いずれも肯定的に答えた割合（「とてもそう思う」+「ややそう思う」）をまとめた。

「音楽の授業は楽しい」という感想をもった生徒は、図3-20のように、全体では44.4%だった。学校別にはかなり大きな差があり、D校では65.8%が楽しかったと回答しているのに対して、C校ではわずかに23.0%にすぎない。男女差はほとんどなかった。経験別にみると、楽しかったと回答した割合が、経験者で49.3%なのに対して未経験者は29.6%にとどまった。この約20%の差が意味するところはよくよく考慮していく必要があるだろう。

「音楽の授業は退屈だ」という感想をもった生徒は、図3-21のように、全体では63.4%で、歌唱や器楽といった主体的な活動がある科目にしてはずいぶん高い割合ではないだろうか。学校別にはこの項目でもかなり大きな差があり、C校では、「とてもそう思う」だけで53.8%にも上っており、退屈だと感じた生徒は80.3%になる。一方、D校では退屈だと感じた生徒は45.7%と、4校のうちで唯一半数以下にとどまった。男女差はほとんどなかった。経験別にみると、退屈だと回答した割合が、経験者で61.6%なのに対して未経験者は69.7%とわずかに多かった。しかしこの差は、経験の有無が退屈かどうかを説明する重要な要因といえるほどの差ではないだろう。今回のデータからでは退屈の要因を十分に解明することはできないが、選択の授

図3-20 音楽の授業は楽しい × 属性

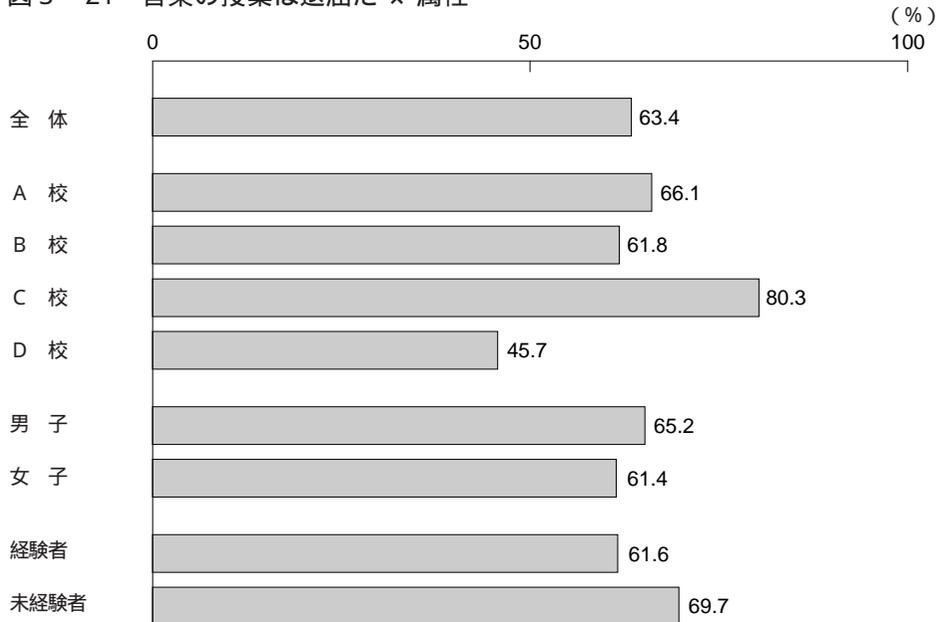


業でクラスの3人に2人が退屈だと感じている状況は、授業のどこかに改善すべき問題があるといわざるをえまい。

「音楽の授業は安らげる」という感想をも

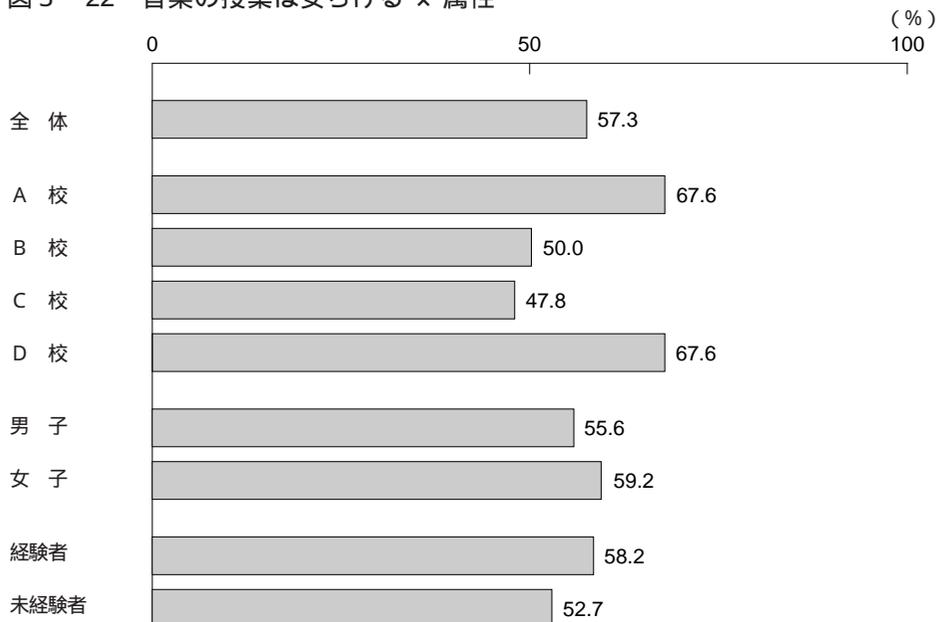
った生徒は、図3-22のように、全体では57.3%だった。学校別にみると、A校とD校が67.6%、B校は50.0%でC校は47.8%と2つに分かれた。B校では歌唱と器楽が活動の

図3-21 音楽の授業は退屈だ × 属性



「とても」+「やや」そう思う割合

図3-22 音楽の授業は安らげる × 属性



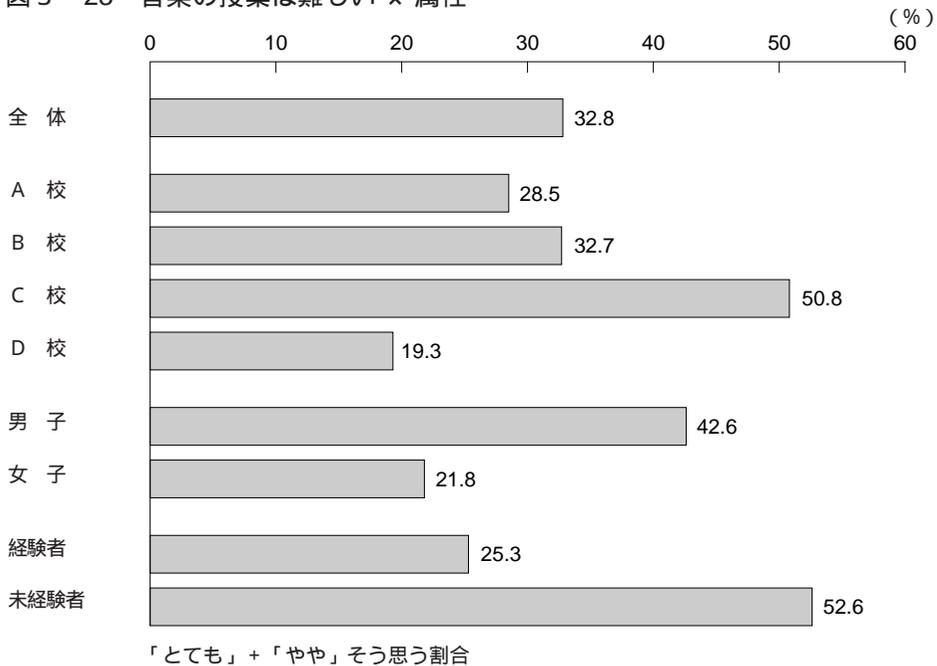
「とても」+「やや」そう思う割合

中心で、C校には音楽理論や音楽史という座学が活動に入っているために、このような差が生じたと思われる。男女差はこの項目でもほとんどみられなかった。経験差もみられなかった。音楽の授業で安らげるのは、鑑賞をしているときで、この活動には経験差があまり影響をもたないためだろう。

「音楽の授業は難しい」という感想をもった生徒は、図3-23のように、全体では32.8%で、授業中の様子で「難しいと感じる」割合の32.3%とほぼ同じである。クラスのほぼ3分の1が難しいと感じているというのは、おおよそ妥当なところだとは思うが、以下にみていくように、そこには偏りがあるた

め、改善の余地があるだろう。学校別にみると、音楽理論や音楽史を学習しているC校で難しいと回答した割合は50.8%と非常に高かったのに対して、歌唱と鑑賞が中心のD校では19.3%にとどまった。男女別にみると、男子では42.6%が難しいという感想をもっているのに対して、女子では21.8%にとどまった。経験別にみると、未経験者では52.6%が難しいという感想をもっているのに対して、経験者では25.3%にとどまった。これらの項目を総合して考えると、音楽の授業を難しく感じさせているのは、学校以外での経験の差が顕著に現れる器楽や音楽理論の学習なのではないかという推測ができよう。

図3-23 音楽の授業は難しい × 属性



## 7 音楽を学校で勉強する意味

さて、以上のような授業の実態と、それに対する生徒の感想、希望などをふまえて、生徒たちは、音楽を学校で勉強することの意味をどういったところに見いだしているのだろうか。音楽に関する技術的な面と、社会的な機能の面とに分けて、12項目にわたってたずねた。それぞれ表3-4と表3-5に、全体、学校別、男女別、経験別に、いずれも肯定的に答えた割合（「とてもそう思う」+「ややそう思う」）をまとめた。

まず音楽に関する技術的な面について表3-4からみていこう。

全体では、「楽譜が読めるようになる」が42.9%、「歌がうまくなる」が39.1%、「たくさんのジャンルの音楽を知ることができる」が69.2%、「何かの楽器が演奏できるようになる」が47.0%だった。

学校別にみると、「楽譜が読めるようにな

る」「歌がうまくなる」「何かの楽器が演奏できるようになる」では、C校が他校に比べて非常に低かった。これは、C校では歌唱や楽器といった活動をほとんど行っていないためであろう。一方、「たくさんのジャンルの音楽を知ることができる」では、C校が83.9%と最も高く、次にD校、一番低かったのがB校の61.0%だった。これも、C校やD校では鑑賞をかなり行っているのに対して、B校ではほとんど行っていないことを反映しているといえよう。音楽を学校で勉強することの意味について、技術的な面に関する考え方に、授業でどのような活動を中心に行っているかが如実に影響していることがわかる。

男女別にみると、「歌がうまくなる」は男女に差がほとんどなかったが、他の項目はやや女子の方が高かった。これは実質的には次にみる経験差と同じとみていいだろう。

表3-4 音楽を学校で勉強する意味（音楽に関する技術面）×属性

(%)

	楽譜が読める	歌がうまくなる	たくさんのジャンルの音楽を知	楽器が演奏できる
全体	42.9	39.1	69.2	47.0
A校	49.2	38.4	67.2	65.7
B校	41.1	37.5	61.0	49.3
C校	25.4	20.4	83.9	23.7
D校	56.5	61.8	70.4	45.2
男子	40.5	39.5	62.8	43.9
女子	45.6	38.6	76.1	50.3
経験者	44.1	38.8	70.5	49.5
未経験者	35.7	37.0	63.6	38.9

「とても」+「やや」そう思う割合

経験別にみると、これも「歌がうまくなる」にはほとんど差がなかったが、他の項目は、「楽譜が読めるようになる」で8.4%、「何かの楽器が演奏できるようになる」で10.6%などと経験者の方がやや高く肯定していた。音楽の授業は、たしかに未経験者が楽譜を読めるようになったり、楽器が演奏できるようになる機会を提供している。しかし、それ以上に経験者の音楽に関する技術的な力をつけさせており、必ずしも両者の学校以外での経験の差を縮めているとはいえない。少なくとも当の高校生たちの感覚では、音楽の授業が差を縮める役割を果たしているとはいえないようだ。しかしこのことは、これまでの分析結果から当然予測できるものであろう。

次に音楽の授業の社会的な機能について表3-5からみていこう。

全体では、「合唱や合奏を通して、友だちとの連帯感が強まる」が48.8%、「豊かな教養が身につく、人間の幅が広がる」が46.1%、「日本の伝統文化の理解に役立つ」が25.9%、「外国人や外国文化の理解に役立つ」が36.3%だったのに対して、「進学に役立つ」は4.8%、「仕事に活かせる」は14.4%にとどまった。中学校などでは合唱コンクールが盛んに行われており、それをクラスづくりに用いることがよくみられるが、実際生徒たちも、合唱や合奏のもつ社会的な連帯感を高める機能を認めているようである。

学校別にみると、「合唱や合奏を通して、友だちとの連帯感が強まる」と回答した割合はA校の49.2%、B校の50.5%、D校の53.9%に対して、C校は40.2%と他の3校よりやや低かった。これはC校が歌唱や器楽をあまり行っていないためと思われる。「豊かな教養が身につく、人間の幅が広がる」では、D校の54.0%が高く、C校の36.2%が低かった。「日本の伝統文化の理解に役立つ」と「外国人や外国文化の理解に役立つ」では、C校が

前者に46.2%で後者に53.0%と、他校に比べてかなり高い割合で肯定していた。これは、C校では鑑賞が授業の中心になっていること、その中でも日本の伝統音楽や民族音楽をよく扱っていることによるものだろう。実際、C校では、「日本の伝統文化に触れることができる」と「外国文化に触れることができる」に肯定的に回答した割合が4校中最も高かった。一方、「日本の伝統文化の理解に役立つ」と「外国人や外国文化の理解に役立つ」に肯定的に回答する割合が低かったA校やB校では、授業の主たる活動として鑑賞を行う割合が少なく、またC校やD校に比べて日本の伝統音楽や民族音楽を扱った程度も少なかった。

近年音楽教育全般で課題になっている、日本の伝統文化を尊重したり、国際理解を深めたりするための音楽教育には、実際に日本の伝統音楽や民族音楽を扱うことで効果があるということと、歌唱や器楽よりも鑑賞の方がその機能を果たせそうだということがいえる。

男女別にみると、「豊かな教養が身につく、人間の幅が広がる」「進学に役立つ」「仕事に活かせる」がほぼ同じだったが、その他の項目では、10%前後女子の方がより高く肯定的に回答していた。

経験別にみると、ほとんどの項目で10%前後経験者の方がより高く肯定的に回答していた。経験者の方がより、音楽を音として楽しむだけでなく、音楽の背後にある文化なども読み取ったり、音楽を学校以外の場面で活用したりすることができると考えているといえよう。さらにいえば、これは生徒たちにとって、学校で習う音楽が学校という枠を超えているのかどうかという問題、つまり、学校知としての音楽なのか、日常知としての音楽なのかということにかかわっているということではないだろうか。

表3-5 音楽を学校で勉強する意味(社会的な機能)×属性

(%)

	連帯感が強まる	教養が身につく	進学に役立つ	仕事に活かせる	日本の伝統文化の理解	外国文化の理解
全体	48.8	46.1	4.8	14.4	25.9	36.3
A校	49.2	47.7	7.7	18.2	18.2	29.5
B校	50.5	40.4	3.0	13.6	20.2	30.3
C校	40.2	36.2	4.3	12.0	46.2	53.0
D校	53.9	54.0	5.2	13.9	24.4	37.4
男子	43.6	45.6	4.4	12.5	20.3	32.1
女子	54.5	46.6	5.2	16.6	32.3	41.0
経験者	50.6	47.8	5.9	16.9	28.1	38.1
未経験者	41.6	40.3	2.7	7.8	18.8	30.5

「とても」+「やや」そう思う割合

## 8 学校音楽以外の音楽経験

これまでの分析に際して経験別という分け方を用いてきたが、ここで、学校の音楽の授業以外での音楽経験について、確認しておこう。表3-6に、全体と男女別にまとめた。

全体からみていくと、「現在習っている」生徒が9.3%、「以前習っていたことがある」生徒が25.6%、「現在やっている」生徒が8.0%、「以前やっていたことがある」生徒が6.2%、「現在習ったりやったりしている」生徒が2.8%、「以前習ったりやったりしていたことがある」生徒が10.9%で、以上まとめると、経験者が62.8%いる。一方で未経験者は37.2%だった。

これを男女別にみていくと、「現在習っている」「以前習っていたことがある」「現在習ったりやったりしている」「以前習ったりやったりしていたことがある」は女子の方が圧倒的に多い。一方、「現在やっている」と「以前やっていたことがある」は男子の方が

若干多い。そして、未経験者は、男子が57.1%にも上るのに対して、女子は10.4%にすぎない。この経験の差が、これまでの各節で検討してきたように学校音楽へのかかわり方やその受けとめ方のさまざまな男女差を生みだしている。1節でも述べたように、女子の方が一般に音楽が好きだと考えられているという単なるジェンダー問題ではおさめきれない重要なジェンダー問題を今後の学校教育における音楽教育は解決していく必要があるといえよう。

次に、どこで習ったりやったりしていたかを表3-7にまとめた。全体としては、個人レッスンが54.6%、音楽教室が38.0%、学校の課外活動が26.2%、友だち同士が11.6%などとなっている。男女別にみていくと、個人レッスンと音楽教室、学校の課外活動は女子の方が多く、友だち同士は男子の方が多かった。

表3 - 8にまとめた、習ったりやったりしている楽器の違いからも男女の音楽活動の違いが読み取れる。男子でバンド系の楽器をやっている生徒は32.1%だが、女子では5.6%にすぎない。その他男子の方が割合が高かったのは、バイオリン、クラシックギターで、一方、ピアノは女子の84.4%に対して男子は52.3%と女子の方がかなり高かった。その他

女子の方が割合が高かったのは、ピアノ以外の鍵盤楽器、バイオリン以外の弦楽器、管楽器、打楽器だった。

このように、男子はバンドなどを友だち同士でやるような音楽経験が目立ち、女子は、ピアノをはじめとするクラシック系の音楽を個人レッスンや音楽教室などで習うような音楽経験が目立つ。

表3 - 6 学校以外での音楽経験 × 性

(%)

	現在習っている	以前習った	現在やっている	以前やった	現在習ったりやったり	以前習ったりやったり	経験なし
全体	9.3	25.6	8.0	6.2	2.8	10.9	37.2
男子	4.0	15.9	9.2	6.6	1.1	6.1	57.1
女子	16.5	38.6	6.4	5.6	5.2	17.3	10.4

表3 - 7 習ったりやったりしている場所 × 性

(%)

	個人レッスン	音楽教室	課外活動	地域活動	友だち同士	その他
全体	54.6	38.0	26.2	3.3	11.6	6.6
男子	39.1	30.2	18.8	2.0	21.6	9.9
女子	64.5	42.9	31.0	4.1	5.2	4.5

表3 - 8 習ったりやったりしている楽器 × 性

(%)

	バンド系の楽器	ピアノ	鍵盤楽器	バイオリン	弦楽器	クラシックギター	管楽器	打楽器	邦楽器	その他
全体	16.2	71.6	18.1	3.8	2.2	5.3	23.0	7.0	2.2	4.5
男子	32.1	52.3	15.6	5.1	1.7	10.2	15.3	5.8	2.2	6.1
女子	5.6	84.4	19.8	2.9	2.6	2.1	28.1	7.7	2.3	3.5

## 9 ふだん聴く音楽のジャンル

最後に、ふだんCDやコンサート、ライブなどで聴く音楽のジャンルをたずねた。表3-9に全体と男女別にまとめた。

全体からみていくと、最もよく聴くジャンルを上位から順に並べると、日本のロック(41.3%)、日本のフォーク・ニューミュージック(37.7%)、テレビ・映画などの主題歌(36.5%)、外国のポップス(33.4%)、クラシック(27.5%)、日本の歌謡曲(26.1%)、外国のロック(22.7%)、現代音楽(21.4%)、ダンスミュージック(9.9%)などと続いている。

これを男女別にみると、男子の方が聴いている割合が多いのが、日本のロック、外国のロック、ヘビーメタル、パンクで、女子の方が聴いている割合が多いのが、クラシック、日本の歌謡曲、外国のポップス、テレビ・映画などの主題歌である。女子の方がクラシックに親しんでいるというのは当然予測できた結果だが、いわゆるポピュラーミュージックにも、男子は国内外のロックをよく聴き、女子は外国のポップスやテレビ・映画などの主題歌を聴くというような、男女差がみられる点は注目できよう。

表3-9 ふだん聴く音楽のジャンル × 性

(%)

	クラシック	現代音楽	日本の 伝統音楽	民族音楽	日本の ロック	日本の フォーク	日本の 歌謡曲	日本の演歌
全 体	27.5	21.4	2.4	3.1	41.3	37.7	26.1	2.5
男 子	22.4	20.7	3.6	4.0	50.8	38.1	20.8	3.6
女 子	34.1	22.3	0.9	1.9	29.0	37.1	33.0	1.0
外国の ロック	外国の ポップス	ジャズ	フュージョン	ヘビー メタル	パンク	ダンスミュ ージック	主題歌	その他
22.7	33.4	6.1	2.1	4.6	7.4	9.9	36.5	6.2
28.2	29.6	7.1	3.2	7.3	10.2	11.2	32.0	8.8
15.5	38.2	4.7	0.6	1.0	3.7	8.3	42.2	2.7

## まとめ

以上、9節にわたって、高校生の音楽科への取り組み方、受容の様子、教科の役割の認識のしかた、さらに学校外での音楽活動の様子について検討してきた。

すでに各節ごとにも、今回の調査で得られたデータから導出されるいくつかの問題点を示してきたが、この章のまとめとして、改めてそれらを整理し、今後の音楽教育の研究の課題として提示したい。

第一に、男女差の問題である。くり返し指摘したように、女子の方が音楽が好きだと考えられているという一般的なジェンダー問題で終えてしまうのではなく、その背後に学校以外の音楽経験の差があること、その経験の差を学校が埋めきれないために、実は学校音楽によってますます男女差が開いてしまっている危険性があることまでふくめて検討していくべき課題である。また、学校以外の場での音楽接触にも男女差があることに留意すべきである。男子はバンド系の楽器を演奏し、ロックや歌謡曲を聴いているのに対して、女子はピアノや管楽器などを演奏し、クラシックや外国のポップス、テレビ・映画などの主題歌を聴いている。学校で接する音楽が女子の学校外での音楽接触と似通っていることも、問題にすべきことだろう。

第二に、経験差の問題である。男女差のところでも述べたように、学校以外の場での音楽経験の差を、学校音楽は埋めることができていない。それどころか、学校で習う音楽の授業をより多くこなしているのは経験者の方で、授業を難しいと感じたり、技術がついていかないと感じている未経験者は半数以上に上っていることに留意すべきである。

さらに、音楽の技術的な面にとどまらず、社会的な機能の面でも、経験者の方がより高く学校の音楽の授業の役割を評価しているということも、学校音楽が学校知にとどまっているのか、日常知として受け入れられているのかという問題をはらんでいる。

「年をとってからも勉強したい教科」として、英語に次いで二番目に多かったのが芸術(22.6%)である。ところが、ここで芸術といっているのは必ずしも音楽だけを指しているわけではないが、これを音楽経験別にみると、経験者では26.0%なのに対して未経験者は17.1%と差がみられる。高校の芸術教科が単に進路選択を左右する教科の1つに終わらないためには、学校という枠を超えた教育活動にまで視野を広げていく必要があるのではないだろうか。

第三に、学校差の問題である。今回の調査では図らずも4校の調査対象校で全く異なる活動を中心に授業が行われていた。高校では中学校までのように、芸術科の成績が進路選択に直接影響をもつようなことは少なく、かといって専門教育を施すわけでもないため、教師の自由裁量の幅が広い。もちろん、すべての教師が同じような授業をするべきだとは全く思わないが、高校生たちに対してあまりに異なる授業活動であっていいものなのかという疑問も生じる。この違いは、例えば数学や英語にみられるような習熟度の差からくる違いではない。誤解を恐れずにいえば、このような違いが生じるのは、音楽科の教師が自分の専門に合わせて得意な活動を中心に授業を行っているからではないかという疑問がわいてくる。高等教育における専門教育ならまだしも、ここまで普遍化した高校教育としては必ずしもふさわしいとはいえないのではないか。

音楽教育学の世界では、幼児教育や小学校や中学校、専門教育を対象とした研究はかなり進んでいるが、高校段階の音楽教育研究は青年文化とのかかわりでの研究成果を除けば、ややブラックボックス的に残されてきたようである。だが、今回の調査データからは、各校の授業内容に応じて、生徒たちの授業への期待や授業の意味の認識のしかたに違いがみられた。それはそれで、それぞれの授業が一定の意味をもっていたことを示すものではあるが、と同時に、やはり、もう少し高校段

階に適した活動内容は何かを検討して、各教師の専門に頼りすぎない授業にするべきではないだろうか。

第四に、生徒の音楽行動と学校音楽の諸活動や扱うジャンルとのズレの問題である。なにも、生徒の嗜好に合わせたり生徒にこびて彼らの好きな音楽を扱えといたいわけではない。しかし、ズレがあるならあるで、なぜそのズレがある必要があるのか、その音楽教育の内在的な理由に加えて、学校教育上の意味と社会的な意味を明確にすべきである。例えば数学では、生徒の多くは数学が嫌いだった

たり苦手だったりするだろうが、学校教育から数学をなくす必要はない。数学ができるとはどういうことなのかということについて、学校教育上の意味と社会的な意味をしっかりと確立しており、そして多くの生徒もそれを納得しているからである。音楽の授業が、ちょっと退屈で、しかし英語や数学で疲れた頭を休ませる安らぎの場だけに終わらせないためにも、音楽を学校で勉強することについての学校教育上の意味と社会的な意味を確立する必要があるだろう。

## 第4章

# 家庭科

## - 身につけたい学力と授業とのギャップ -

高等学校家庭科男女4単位必修は、1994年の学習指導要領改訂による最も大きな変化の1つであった。家庭科教育の女子のみ必修の歴史的変遷はここでは省くが、男女必修の背景は、「女子だけの必修を見直し、男子にも家庭科を！」のもとに男女同一カリキュラムを要望する声は1970年代からあがっていた。直接的には、「女子差別撤廃条約」を批准したことが大きいだろう。さらに、「男は仕事、女は家庭」の社会的価値観に伴う「良き主婦の育成」としての家庭科教育から、女性の社会進出に伴う社会の変革により、これまでの女子のみの家庭科教育の意味を見直さざるをえなくなったことも大きな要因である。こうした社会変革と国際社会の一員としての国のあり方が男女同一カリキュラムの実現に結びついたが、高校現場では施設・設備の不備、教員の不足や教員の意識（男女必修は強い希望であるが時期尚早など）による戸惑いと混乱が生じていた。さらに、家庭科関係以外の場では、「なぜ、男子が高校で家庭科を学ぶ必要があるのか」「男子に何を教えるというのか」「進学校では家庭科は不要だ」「家庭科の内容は家庭で学べばよい」など、

家庭科を必修にすることへの反発もみられた。加えて、学校週5日制の導入と少子化が進行する中で、一部ではあるが私立高校にみる「週5日制と家庭科をやらず、全員大学現役合格！」の生徒募集もみられた。保護者の意見もさまざまで、特に高校時代いわゆる「料理・裁縫」的な家庭科を学習してきた母親からは、家庭科の男女必修には理解を示しても、学習する内容に疑問視する意見もあった。それでも、1994年4月から公立高校では男女必修がスタートした。

この調査は、新学習指導要領が実施されて5年目、このような困難な状況でスタートした男女必修の家庭科の現状把握と、依然として残された「なぜ、男子が高校で家庭科を学ぶ必要があるのか」「男子に何を教えるというのか」「進学校では家庭科は不要だ」「家庭科の内容は家庭で学べばよい」などの意見に対し、生徒たちがどのように感じているのかを探ることを目的として実施した。

調査は、1998年2月、東京・埼玉の公立高校普通科、1・2・3年生618名（男子347名、女子271名）を対象に、学校通しの質問紙法により実施した。

# 1 男女必修の家庭科の現状

まず、生徒たちの抱く教科イメージからみることにしよう。表4-1をまとめると、

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 一番好きな教科.....体育、芸術</li> <li>2. 一番嫌いな教科.....数学、英語</li> <li>3. 一番得意な教科.....数学、国語、体育</li> <li>4. 一番苦手な教科.....英語、数学</li> <li>5. 成績がよいと一番うれしい教科.....数学、英語</li> <li>6. 授業中、一番リラックスできる教科...家庭科、芸術</li> <li>7. 勉強していて一番楽しい教科.....体育、数学</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>8. 社会に出てから一番役に立つ教科.....英語、家庭科</li> <li>9. 大学受験に一番役に立つ教科.....英語、数学</li> <li>10. 年をとってからも勉強したい教科.....英語、芸術</li> <li>11. 親と一番話をする教科.....数学、英語、体育、家庭科</li> </ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

家庭科は「リラックスできる教科」「社会に出てから一番役に立つ教科」と受け止められている。それでは、こうした教科イメージをふまえ、家庭科の現状をみていこう。

表4-1 教科イメージ

(%)

	国語	地歴・公民	数学	理科	英語	芸術	体育	家庭科
1. 一番好きな教科	11.6	10.5	9.6	7.9	8.8	17.7	26.6	7.3
2. 一番嫌いな教科	11.8	16.1	27.7	8.7	22.0	4.4	6.6	2.7
3. 一番得意な教科	16.6	10.1	16.8	7.5	12.3	14.6	16.3	5.8
4. 一番苦手な教科	7.8	12.7	26.8	11.7	28.4	4.0	6.8	1.8
5. 成績がよいと一番うれしい教科	6.0	5.3	39.6	7.7	30.2	3.7	6.7	0.8
6. 授業中、一番リラックスできる教科	11.2	8.0	4.9	2.2	3.4	25.3	12.9	32.1
7. 勉強していて一番楽しい教科	7.4	11.6	16.1	9.6	9.1	14.5	19.9	11.8
8. 社会に出てから一番役に立つ教科	17.0	9.5	10.7	2.5	31.4	1.2	2.4	25.3
9. 大学受験に一番役に立つ教科	8.6	3.1	33.1	3.3	50.2	0.7	0.5	0.5
10. 年をとってからも勉強したいと思う教科	9.3	14.4	3.2	4.8	27.6	21.0	6.3	13.4
11. 親と一番話をする教科	8.1	14.5	21.6	2.4	16.3	6.3	15.5	15.3

○は最大値 ○は第2位 ~は最小値

1994年の高等学校学習指導要領では、従来の「家庭一般」に、「生活技術」「生活一般」の2科目を加え、生徒がこの3科目の中から1科目4単位選択履修するという、多様な生徒のニーズに応えるものであった。しかし、「教員定数の問題や施設・設備の不備」「家庭科教員自身の新科目に対する戸惑い」「従来女子のみ必修であった内容を男子にも履修させることこそ重要」など、さまざまな事情から多くの学校では学校選択で履修している。しかも複数の科目を教育課程の中に位置づけるのではなく、いずれか1科目の場合が圧倒的に多い。今回調査対象となった618名の生徒は、全員「家庭一般」を履修している。履修形態は、「1、2年生で各2単位履修」が74.0%、「3年生で4単位」が26.0%である。全国的にみても、「家庭一般」を1、2年生で各2単位履修する学校が圧倒的に多い。

さて、生徒たちが家庭科の授業をどのように捉えているのか概要からみてみよう。まず、家庭科の授業の楽しさをたずねた。表4-2は、家庭科の学習内容をより具体的な項目にし、それらの学習の楽しさをたずねた。「とても」と「わりと」楽しいを合わせた数値でみていくと、最も楽しいのは「調理実習」で84.6%、次いで「消費者教育」「乳幼児の発達や子どもの成長」がほぼ5割、「青年期の生き方と愛や性・結婚」「栄養素や栄養所要量の知識」「異性とのつきあい方や避妊の知識」「生活設計」「生活環境について考える」が4割を超える。

次に、同じ項目を用いて、このような学習が高校の授業で必要かどうかたずねたのが表4-3である。生徒の気持ちをよりシャープに捉えるため「とても必要」の数値で追ってみると、「調理実習」が57.4%、「消費者教育(47.3%)」「生活環境について考える(44.8%)」の内容が必要が高い学習である。逆に、必要でない学習は「外国の食生活や生活の様式を調べる」「繊維の性質や機能の知識」「パソコンを使って栄養計算や住居の設計をする」「被服製作」「パソコン

で生活情報を集め、生活に利用する」で「とても必要」は1割前後である。

生徒が身につけたい学力は「調理実習」や「消費者教育」「生活環境問題」「異性とのつきあい方や避妊の知識」などが上位を占め、そうした授業に楽しさも感じている。男女必修後の家庭科の授業への興味・関心は、女子のみ必修だった頃の「食物・被服」中心の学習と大きく変わっているのではなからうか。

では、生徒たちは家庭科の時間にどんな授業態度で臨み、どのような感想を持っているのだろうか。表4-4によれば、「黒板に書かれたことはノートやプリントに書く」は「とてもよく」あるのは58.8%、「わりと」を合わせほぼ8割である。しかし、「先生が話したことで大切だと思うことはノートにメモを取る」では「とても+わりと」を合わせても3割で、積極的に授業に参加するほどではない。そして、「内職(他の教科の勉強など)をする」が「とてもよく」あるのは13.1%、「わりと」を合わせ3割。ただ生徒が授業以外のことをこっそりやっているのは、家庭科の時間だけではない。寝ている生徒、ぼんやりしている生徒、他教科の勉強や受験勉強をする生徒など、さまざまいる。家庭科で試験をするといえば、前の時間に家庭科の勉強をしている生徒も多くみかける。生徒たちは自分の都合で授業以外のことにも熱心であり、黒板を写すことにも熱心なのが最近の高校生である。

授業を通しての感想は「調理実習をして、毎日食事を作る親の大変さがわかる」「調理実習した料理を家でも作りたい」が「とても」「わりと」を合わせると、ほぼ6割と調理実習への関心が高い。一方、「現在の生活も精一杯なので、将来の家庭生活まで考えられない」が「とても」よくあると思う生徒は11.0%、逆に「ほとんど」ないと感じている生徒は44.5%もいる。「授業の内容は学校で教えなくても、家庭で親から教わればよい」と思うことが「とてもよく」あると答えた生徒は1割にも達しない。

表4-2 家庭科の学習の楽しさ

(%)

	とても 楽しい	わりと 楽しい	あまり 楽しくない	ぜんぜん 楽しくない
1. 調理実習	59.3	25.3	7.8	3.4
	84.6			
2. 消費者教育(消費者の権利、消費者信用とクレジットカードなど)	9.2	39.5	38.4	10.3
	48.7			
3. 乳幼児の発達や子どもの成長	13.9	32.2	33.3	8.6
	46.1			
4. 青年期の生き方と愛や性・結婚	16.3	27.1	33.3	7.4
	43.4			
5. 栄養素や栄養所要量の知識	9.9	32.7	36.6	15.8
	42.6			
6. 異性とのつきあい方や避妊の知識	16.4	25.1	34.4	6.7
	41.5			
7. 生活設計(将来の仕事や家庭、社会福祉と生活保障)	6.6	34.6	41.1	12.6
	41.2			
8. 生活環境(ゴミや環境汚染など)について考える	11.6	28.8	36.2	10.8
	40.4			
9. 快適な住まいの工夫をする	14.0	25.7	31.4	8.6
	39.7			
10. 妊娠や出産	14.7	24.6	36.9	7.5
	39.3			
11. 外国の食生活や生活の様式を調べる	12.5	22.9	25.5	7.4
	35.4			
12. 高齢者の生活や介護・ボランティア	7.2	27.3	46.2	12.6
	34.5			
13. 家族の人間関係や家庭の機能・役割	5.4	28.0	52.5	10.5
	33.4			
14. 家族に関する法律(民法や家庭裁判所など)	5.6	27.1	43.8	17.3
	32.7			
15. 被服製作(シャツ・ベストやパンツなど)	12.4	20.1	29.3	13.2
	32.5			
16. 家庭の経済(収入・支出や、国や企業の経済との関係など)	4.9	25.8	47.6	17.1
	30.7			
17. パソコンを使って栄養計算や住居の設計をする	13.1	17.6	22.0	6.0
	30.7			
18. パソコンで生活情報を集め、生活に利用する	9.8	16.7	24.7	7.5
	26.5			
19. 衣服の洗濯や保管	3.1	20.2	39.3	15.1
	23.3			
20. 繊維の性質や機能の知識	1.5	14.9	39.4	21.1
	16.4			

\*「勉強していない」割合を除く

表4-3 家庭科の学習は高校で学ぶ必要があるか

(%)

	とても必要	わりと必要	あまり必要でない	ぜんぜん必要でない
1. 調理実習	57.4	30.2	8.9	3.5
2. 消費者教育(消費者の権利、消費者信用とクレジットカードなど)	47.3	40.9	8.5	3.3
3. 生活環境(ゴミや環境汚染など)について考える	44.8	39.3	12.1	3.8
4. 妊娠や出産	39.9	43.6	12.2	4.3
5. 異性とのつきあい方や避妊の知識	35.7	43.8	15.6	4.9
6. 乳幼児の発達や子どもの成長	34.9	47.7	13.0	4.4
7. 高齢者の生活や介護・ボランティア	34.4	45.8	15.5	4.3
8. 栄養素や栄養所要量の知識	33.1	47.9	14.2	4.8
9. 青年期の生き方と愛や性・結婚	31.4	43.7	19.0	5.9
10. 家庭の経済(収入・支出や、国や企業の経済との関係など)	30.7	50.4	14.9	4.0
11. 生活設計(将来の仕事や家庭、社会福祉と生活保障)	30.4	54.2	11.1	4.3
12. 家族に関する法律(民法や家庭裁判所など)	25.3	52.5	17.8	4.4
13. 衣服の洗濯や保管	22.1	50.6	22.3	5.0
14. 快適な住まいの工夫をする	19.5	49.6	24.3	6.6
15. 家族の人間関係や家庭の機能・役割	18.3	53.1	22.8	5.8
16. パソコンで生活情報を集め、生活に利用する	14.3	36.6	33.8	15.3
17. 被服製作(シャツ・ベストやパンツなど)	13.4	38.7	37.3	10.6
18. パソコンを使って栄養計算や住居の設計をする	12.1	32.9	37.5	17.5
19. 繊維の性質や機能の知識	10.2	40.0	38.4	11.4
20. 外国の食生活や生活の様式を調べる	9.6	36.6	36.7	17.1

表4-4 授業中の様子や授業を通して感じたこと

(%)

		とてもよくある	わりとある	ときどきある	ほとんどない
授業中の様子	1. 黒板に書かれたことはノートやプリントに書く	58.8	19.8	10.5	10.9
	2. 席の近い人とおしゃべりをする	21.0	24.3	33.5	21.2
	3. 授業中、居眠りをする	20.9	17.6	31.4	30.1
	4. 先生が話したことで大切だと思うことはノートにメモを取る	14.3	16.8	34.7	34.2
	5. 内職（他の教科の勉強など）をする	13.1	15.5	31.3	40.1
	6. マンガを描いたり文房具で遊ぶ	9.1	9.6	22.1	59.2
授業をした感想	1. 調理実習をして、毎日食事を作る親の大変さがわかる	33.0	25.5	23.7	17.8
	2. 調理実習した料理を家でも作りたい	26.6	28.6	24.0	20.8
	3. 現在の生活も精一杯なので、将来の家庭生活まで考えられない	11.0	16.3	28.2	44.5
	4. 授業の内容は学校で教えなくても、家庭で親から教われればよい	7.4	12.2	32.1	48.3
	5. 授業の内容が難しすぎる	5.9	13.7	32.5	47.9
	6. 授業の内容がやさしすぎる	3.9	14.0	33.9	48.2

トータルに考え家庭科の授業は楽しいかどうかたずねたのが表4 - 5である。「とても」楽しい14.9%、「わりと」を合わせると6割近くに達し、「ぜんぜん+あまり」楽しくないは16.6%にすぎない。性差はみられない。

そこでもう少し家庭科の授業を受けているときの気持ちを探ろうと、表4 - 6では家庭科の授業の居心地をたずねた。「とてもホッと」する時間」と答えた生徒は22.1%、「わりと」を合わせると7割の生徒がホッとできる時間であると答えており、表4 - 1の教科イ

メージ「家庭科が一番リラックスできる教科」の結果と重なる。居心地のよさでも性差はほとんどみられない。

こうした数値をみると、家庭科は居心地がよく楽しく、必要性が高い教科と捉えられていることがうかがえる。家庭科室に移動してくると、「ホッとする」「落ち着く」と話す生徒も多く、テストや提出プリントの裏に「読んでください。こんなこと家庭科だけしか書けないから」と自分の心境や進路のこと、異性との悩み、友だちや先生との関係、親との

表4 - 5 家庭科の授業は楽しいか × 性

(%)

		とても楽しい	わりと楽しい	少し楽しい	あまり楽しくない	ぜんぜん楽しくない
全 体		14.9	41.3	27.2	12.1	4.5
性 別	男 子	16.1	40.3	27.5	11.3	4.8
	女 子	13.4	42.7	26.8	13.0	4.1

表4 - 6 家庭科の時間は、ホッとする時間か × 性

(%)

		とてもそう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
全 体		22.1	47.8	23.5	6.6
性 別	男 子	21.3	44.6	26.0	8.1
	女 子	23.0	51.8	20.4	4.8

関係などを書いてくる生徒も多い。表4 - 1でもみたように、家庭科は成績や大学受験と関係なく、得意・不得意もあまりなく将来に役立つ教科である。そうしたこともリラックスする教科、居心地よい教科と重なっているのではないだろうか。

では、家庭科を学習することで理解できることは何なのだろうか。表4 - 7によれば、「悪徳商法などのことを知り、被害に遭わないようにする」が「とても+わりと」そう思う割合は77.0%で最も高く、次いで、「料理

が作れるようになる」「一人暮らしでも健康的な食生活ができる」が5割を超え、「異性とのつきあいや避妊の知識を学べる」「環境問題やゴミ問題に関心が持てる」「衣類の手入れやほころびの繕い・ボタンつけができる」「高齢者の介護・福祉や年金制度・社会保障について学べる」が約5割、まず自分自身のこと、異性や高齢者との関係、環境問題へと個人から社会的関心へと幅広く「生活」をトータルに捉え学べる教科と考えており、多くの不安を抱えてのスタートから5年、生

表4 - 7 高校で家庭科を学ぶことの意味

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	少し そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜん そう思わない
1. 悪徳商法などのことを知り、被害に遭わないようにする	47.4	29.6	16.3	3.4	3.3
	77.0				
2. 料理が作れるようになる	27.7	26.8	25.8	13.0	6.7
	54.5				
3. 一人暮らしでも健康的な食生活ができる	22.4	29.3	26.2	16.0	6.1
	51.7				
4. 異性とのつきあいや避妊の知識を学べる	19.5	30.3	30.3	14.0	5.9
	49.8				
5. 環境問題やゴミ問題に関心が持てる	20.6	27.5	29.0	15.8	7.1
	48.1				
6. 衣類の手入れやほころびの繕い・ボタンつけができる	21.6	24.4	30.3	14.1	9.6
	46.0				
7. 高齢者の介護・福祉や年金制度・社会保障について学べる	15.0	30.6	33.9	13.7	6.8
	45.6				
8. 親になったときの心構えができる	14.8	17.6	28.7	25.7	13.2
	32.4				
9. 将来、幸せな家庭を作れる	13.7	17.4	25.8	25.8	17.3
	31.1				
10. 親子関係や自分の生活を見直すことができる	9.0	20.4	37.1	25.3	8.2
	29.4				

徒たちは比較的肯定的に受け止めていることがわかる。

表4 - 8では、現在もしばしば問題にされる家庭科教育に対する意見を高校生にたずねてみた。「とても」そう思うの数値でみると、「大学受験を控えた高校生は、家庭科よりもっと受験に必要な教科を多く学びたい」が18.2%、「わりと」を含めると46.1%、「家庭科は、必修科目でなく全部選択科目でよい」「週5日制などで全体に単位数が少なくなっている中で、家庭科が4単位は多すぎる」もほぼ同様である。考えてみれば、この傾向は家庭科に限ったことではない。文系を志望している生徒は高校の数学は必要ないと考えているし、理系の生徒は芸術は履修したくないと考える生徒も多い。現状の大学入試が変わ

らない限り、生徒たちは少なからずこのように考えるであろう。現在高校では生徒の多様な進路実現のため、理系・文系にコースを分けた教育課程を組んだり選択教科を増やす努力をしているが、現状では大学入試を意識して選択する場合が多い。

次に、家庭科は高校で学ぶ必要がないという意見についてみてみよう。「家庭科の内容は、男子が高校で授業として学ぶほどの必要はない」「家庭科は高校の授業としては必要はない」と「とても」そう思うと答えた生徒は1割にも満たない。すでに小学校、中学校で男女で家庭科を学んできた生徒たちにとっては、家庭科を高校で学ぶのは当たり前のことなのかもしれない。「男子には必要ない」「進学校に必要ない」などと考えるのは、「男は

表4 - 8 家庭科に対する意見

(%)

	とても そう思う	わりと そう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜん そう思わない
1. 大学受験を控えた高校生は、家庭科よりもっと受験に必要な教科を多く学びたい	18.2	27.9	37.0	16.9
2. 週5日制などで全体に単位数が少なくなっている中で、家庭科が4単位は多すぎる	16.3	28.9	35.4	19.4
3. 家庭科は、必修科目でなく全部選択科目でよい	15.9	29.9	40.4	13.8
4. 家庭科の学習は、将来必要なことが多いので、必要になったとき、各々が学べばよい	10.3	30.7	43.4	15.6
5. 10年後は、家庭科も男性教師が5人に1人くらいの割合に増える	6.3	30.2	45.5	18.0
6. 家庭科の内容は、男子が高校で授業として学ぶほどの必要はない	6.0	15.5	46.4	32.1
7. 家庭科は高校の授業としては必要ない	5.1	10.9	45.8	38.2

仕事、女は家庭」にこだわる教員だけなのではないだろうか。

さらに、「10年後は、家庭科も男性教師が5人に1人くらいに増えるか」とたずねると、「とても」と「わりと」を合わせ36.5%、男性の家庭科教員の存在も肯定的に捉えている。現状では、導入時の教員不足から他教科から1年間の認定講習を受け家庭科教師になった男性教員がいる程度である。わずかだが、大学の家政学部や生活学科で学ぶ男子学生も増えてきており、将来家庭科の教師となることを考えている男子高校生もいる。実際に増えるかどうかは少々疑問であるが、少なくとも男女の教員がいて、男女で学ぶことに違和感を持たない生徒たちが育ちつつあるのは事実であろう。

ここで、今回の調査対象となった高校生の属性をみておこう。まず表は省略したが、高校卒業後の進路希望は、「就職」15.3%、「専修・専門学校」16.0%、「短期大学」5.6%、「4年制（私立）大学」33.6%、「4年制（国公立）大学」11.5%であった。成績は「上の方」12.5%、「中の上」21.1%、「中」32.1%、「中の下」18.0%、「下の方」16.3%である（詳しくは巻末集計表参照）

表4 - 9は、「高校時代とはどのように過ごす時期か」とたずねた結果である。「将来の生活や自分自身のことを考える」「友だちをたくさん作る」が「とても」そうと答えた生徒が半数を超え、「大学進学のための受験勉強をする」は2割である。

表4 - 9 高校時代とはどんな時期か

(%)

	とても そう	わりと そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
1. 将来の生活や自分自身のことを考える	51.7	33.4	12.1	2.8
2. 友だちをたくさん作る	50.7	38.5	9.0	1.8
3. 人間として生きていくための基本的な勉強をする	29.8	44.4	20.7	5.1
4. 部活動やスポーツをする	27.3	36.5	26.8	9.4
5. 大学進学のための受験勉強をする	20.8	36.2	29.5	13.5

## 2 生徒が家庭科に求める学力とは

これまでは、男女必修になってからの家庭科の現状をみてきた。ここで生徒たちが求める学習と「食物・被服」を中心とする家庭科の授業とにギャップが生じていることがわかった。しかし、高校現場では依然として「なぜ、男子が高校で家庭科を学ぶ必要があるのか」「男子に何を教えるというのか」「進学校では家庭科は不要だ」「家庭科の内容は家庭で学べばよい」などの声がある。そこでこうした意見について、属性と関連させ生徒の意識を探っていくことにしたい。

表4 - 10は家庭科の学習内容の楽しさと必要性を性別で示した。授業の楽しさを男女で10%以上差のある項目をみると「家族に関する法律」「家庭の経済」「消費者教育」「生活環境」「パソコンで生活情報を集め、生活に利用する」の授業が男子が楽しい割合が高く、女子は「高齢者の生活や介護・ボランティア」「被服製作」「衣服の洗濯や保管」「乳幼児の発達や子どもの成長」があげられる。

身につけたい「必要な学習」では、男子は「家族に関する法律」「青年期の生き方と愛や性・結婚」「生活環境」、女子は「被服製作」「乳幼児の発達や子どもの成長」「栄養素や栄養所要量の知識」に差がみられる。男子は家庭科を社会との関連の中で捉え進路選択、異性との関係、地域社会との関係に発展させ、女子は「食物・被服・保育」と従来の領域を中心とした学習を必要と考えており、ジェンダーを担った結果がみられる。

しかし、男女別に「とても」必要である割合の高い学習をあげると、「調理実習」「消費者教育」「生活環境」、続いて「妊娠や出産」「異性とのつきあい方や避妊の知識」が共通した内容となっている。

次に、家庭科の授業に対する意見を性差を中心にみてみよう。表4 - 11は「家庭科の内

容は、男子が高校で授業として学ぶほどの必要はない」かとたずねた結果を示した。「とても」そう思う割合は6.0%、「わりと」を合わせても2割、性差はみられない。さらに表4 - 12は「大学受験を控えた高校生は、家庭科よりもっと受験に必要な教科を多く学びたい」かとたずねたものである。「とても」そう思う18.2%、「わりと」を合わせ4割を超える。ここでも性差はほとんどみられない。表4 - 13は「家庭科は高校の授業としては必要ない」である。「とても」そう思うは5.1%、逆に「ぜんぜん」そう思わないがほぼ4割で、男女とも家庭科を学ぶことを肯定している様子が推察できる。

家庭科を学ぶ意義に性差がみられないが、家庭科で身につけたい必要な学力では性差が認められる。そこで、家庭科の学習の「必要性」に焦点を当て、成績、進路別の差からもう少し数値を追ってみよう。

家庭科の学習の必要性と成績・性別の結果を示したのは表4 - 14である。まず、男子の成績上位群は、「消費者教育」「調理実習」「生活環境」「妊娠や出産」「異性とのつきあい方や避妊の知識」が必要な学力と考えている。数値は低いですが、下位群も同様の傾向がみられる。一方、女子の成績上位群は、「調理実習」「消費者教育」「生活環境」「高齢者の生活や介護・ボランティア」「乳幼児の発達や子どもの成長」、下位群は「調理実習」「妊娠や出産」「異性とのつきあい方や避妊の知識」「乳幼児の発達や子どもの成長」「消費者教育」をあげている。

異性関係や妊娠・出産については男子の成績上位群と女子の下位群に学習の必要性が高い。こうした知識は、雑誌やメディアからの情報も多いが確かな知識と理解を授業に求めているためではないだろうか。

表4-10 家庭科の学習の楽しさと必要性 × 性

(%)

	楽しさ		必要性	
	男子	女子	男子	女子
1. 家族の人間関係や家庭の機能・役割	31.2	36.2	19.3	17.2
2. 家族に関する法律（民法や家庭裁判所など）	37.4	26.7	30.4	19.0
3. 家庭の経済（収入・支出や、国や企業の経済との関係など）	35.9	24.2	30.7	30.7
4. 生活設計（将来の仕事や家庭、社会福祉と生活保障）	38.5	44.6	30.0	31.0
5. 高齢者の生活や介護・ボランティア	28.8	42.0	31.3	38.4
6. 消費者教育（消費者の権利、消費者信用とクレジットカードなど）	55.0	40.7	49.7	44.2
7. 被服製作（シャツ・ベストやパンツなど）	20.1	48.3	8.9	19.1
8. 繊維の性質や機能の知識	15.4	17.6	10.3	10.1
9. 衣服の洗濯や保管	16.6	31.7	18.0	27.3
10. 栄養素や栄養所要量の知識	38.8	47.5	29.5	37.5
11. 調理実習	80.5	89.6	54.4	61.2
12. 異性とのつきあい方や避妊の知識	44.9	37.0	37.5	33.5
13. 青年期の生き方と愛や性・結婚	44.9	41.4	35.6	26.0
14. 妊娠や出産	36.9	42.5	39.3	40.5
15. 乳幼児の発達や子どもの成長	35.1	60.2	31.4	39.4
16. 快適な住まいの工夫をする	38.5	41.5	19.0	20.1
17. 生活環境（ゴミや環境汚染など）について考える	45.0	34.4	47.4	41.6
18. パソコンを使って栄養計算や住居の設計をする	32.5	28.5	13.1	10.9
19. パソコンで生活情報を集め、生活に利用する	31.0	20.6	16.1	12.1
20. 外国の食生活や生活の様式を調べる	34.5	36.4	11.5	7.1

楽しさ = 「とても」 + 「わりと」楽しい割合

必要性 = 「とても必要」の割合

内数字は順位

表4-11 家庭科の内容は、男子が高校で授業として学ぶほどの必要はない × 性  
(%)

		とても そう思う	わりと そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
全 体		6.0	15.5	46.4	32.1
性 別	男 子	7.9	14.7	46.8	30.6
	女 子	3.4	16.6	46.0	34.0

表4-12 大学受験を控えた高校生は、家庭科よりもっと受験に必要な教科を  
多く学びたい × 性  
(%)

		とても そう思う	わりと そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
全 体		18.2	27.9	37.0	16.9
性 別	男 子	19.9	29.3	33.5	17.3
	女 子	16.0	26.1	41.5	16.4

表4-13 家庭科は高校の授業としては必要ない × 性

(%)

		とても そう思う	わりと そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
全 体		5.1	10.9	45.8	38.2
性 別	男 子	7.4	11.8	42.5	38.3
	女 子	2.2	9.7	50.0	38.1

表4-14 家庭科の学習の必要性 × 成績・性

(%)

	男子			女子		
	上位	中位	下位	上位	中位	下位
1. 家族の人間関係や家庭の機能・役割	19.0	16.0	22.3	13.9	14.4	23.3
2. 家族に関する法律（民法や家庭裁判所など）	33.6	26.6	29.2	24.1	19.6	14.3
3. 家庭の経済（収入・支出や、国や企業の経済との関係など）	31.1	32.3	29.8	35.9	32.3	25.3
4. 生活設計（将来の仕事や家庭、社会福祉と生活保障）	32.2	34.4	24.8	34.2	37.1	22.2
5. 高齢者の生活や介護・ボランティア	32.0	37.6	25.4	43.6	43.3	29.7
6. 消費者教育（消費者の権利、消費者信用とクレジットカードなど）	57.4	51.1	41.2	51.9	46.4	36.3
7. 被服製作（シャツ・ベストやパンツなど）	9.8	8.9	6.1	19.0	20.8	17.8
8. 繊維の性質や機能の知識	7.4	10.8	12.3	10.3	11.3	8.8
9. 衣服の洗濯や保管	20.5	12.9	19.5	28.6	30.9	23.1
10. 栄養素や栄養所要量の知識	30.6	25.8	31.0	38.0	45.4	29.7
11. 調理実習	53.3	56.4	54.0	62.0	66.7	56.0
12. 異性とのつきあい方や避妊の知識	41.8	34.0	35.4	26.6	30.9	42.9
13. 青年期の生き方と愛や性・結婚	38.5	34.0	34.2	20.3	23.7	34.1
14. 妊娠や出産	43.8	35.1	38.6	36.7	35.1	50.5
15. 乳幼児の発達や子どもの成長	34.2	29.8	30.7	43.0	35.1	41.8
16. 快適な住まいの工夫をする	16.4	19.8	21.1	15.2	18.6	26.7
17. 生活環境（ゴミや環境汚染など）について考える	50.8	48.4	43.9	44.9	46.4	34.4
18. パソコンを使って栄養計算や住居の設計をする	13.3	18.5	8.8	10.4	12.4	10.0
19. パソコンで生活情報を集め、生活に利用する	15.0	18.9	15.5	9.2	15.5	11.2
20. 外国の食生活や生活の様式を調べる	10.7	13.0	11.4	7.6	6.2	7.7

「とても必要」の割合

○は最大値、最小値が5%以上差のある項目  
内数字は順位

表4 - 15は進路・性別を示した。男子の就職群が求める学習は「調理実習」「栄養素や栄養所要量の知識」「消費者教育」「妊娠や出産」、4年制大学進学群は「調理実習」「消費者教育」「生活環境について考える」である。「被服製作」に進路希望による差が開いているが、これは服飾関係に就職したり専門学校に進学する生徒が求める学力なのではないだろうか。全体でみると、4年制大学進学群の方が家庭科の学習を必要と考える割合が高い。女子も4年制大学進学群の方が学習の必要性は高く、「調理実習」「消費者教育」「栄養素や栄養所要量の知識」に就職群とに差がみられる。この結果から家庭科の学習はむしろ4年制大学進学群の男子にこそ学習の必要性を感じている者が多いことがわかる。

表4 - 16は、家庭科の授業の楽しさをたずねた。「とても」と「わりと」楽しい数値をみると、男子では、短大・専修・専門学校進学群が62.8%と最も高く、次いで4年制大学進学群が57.7%と就職群（54.6%）より楽しいと答えた生徒が多い。女子では、就職群が66.0%で、4年制大学進学群（47.4%）とに大きな差がみられる。

次に、家庭科をめぐるさまざまな意見を進路別でみていこう。表4 - 17によれば、「家庭科は高校の授業としては必要ない」と「とても+わりと」そう思うと考える生徒は、男女とも就職群に多くみられる。逆に、「あまり+ぜんぜん」そう思わない割合をみると、4年制大学進学群は男女とも8割を超え、高校の授業としての必要性を感じている。しかし表4 - 18にみるように、「大学受験を控え

た高校生は、家庭科よりもっと受験に必要な教科を多く学びたい」と答える4年制大学進学群の男子は「とても」そう思う23.3%、「わりと」を合わせ5割を超える。女子も同様の傾向がみられる。今回調査対象校の男子で3年生で4単位履修している学校もあり、この学校の生徒はこうした考えを持っている生徒が多かった。確かに受験を控え、週4時間の家庭科の授業は、受ける生徒側からみれば率直な意見であろう。むしろそうした状況から考えれば、この数値は少ないとみることできるだろう。

一方、女子の4年制大学進学群の数値が高いのは、大学進学群が望んでいる授業と実際の家庭科の学習、例えば「被服製作」などの授業との差があるのではないだろうか。それが表4 - 16でみたように4年制大学進学群の授業の楽しさを減少させている結果とつながるのではないだろうか。

表4 - 19は家庭科の授業がホッとする時間をたずねた。男子の4年制大学進学群は「とても」ホッとする24.7%、「わりと」を合わせ72.0%、女子でもほぼ同様で「わりと」を合わせると8割近くがホッとする時間になっていることがわかる。確かに生徒たちをみると、目前に迫った大学受験は精神的にかなり緊張度の高い生活のようだ。特に、高校入試が推薦制度の導入や内申書が重視され、比較的楽になったと言われる。そうした生徒がはじめて挑戦する本格的な受験ともいえるのが大学入試である。その中で「ゆとり」をもたらす教科として家庭科の存在が大きく機能していることがわかる。

表4-15 家庭科の学習の必要性 × 進路・性

(%)

	男子			女子		
	就職	短大、 専修・専門学校	4年制大学	就職	短大、 専修・専門学校	4年制大学
1. 家族の人間関係や家庭の機能・役割	19.0	19.4	17.7	25.5	12.1	17.9
2. 家族に関する法律（民法や家庭裁判所など）	18.6	33.3	34.8	17.0	15.2	26.9
3. 家庭の経済（収入・支出や、国や企業の経済との関係など）	23.3	40.0	31.9	39.1	25.0	39.0
4. 生活設計（将来の仕事や家庭、社会福祉と生活保障）	27.9	28.6	31.0	41.3	26.1	39.7
5. 高齢者の生活や介護・ボランティア	30.2	37.1	33.5	51.1	32.6	46.8
6. 消費者教育（消費者の権利、消費者信用とクレジットカードなど）	37.2	47.2	58.5	36.2	42.4	55.1
7. 被服製作（シャツ・ベストやパンツなど）	16.3	11.4	5.9	24.4	15.2	21.8
8. 繊維の性質や機能の知識	14.0	8.3	9.1	12.8	12.0	9.0
9. 衣服の洗濯や保管	27.9	22.2	15.1	39.1	26.1	29.9
10. 栄養素や栄養所要量の知識	41.5	27.8	28.3	31.9	34.8	50.0
11. 調理実習	53.5	55.6	62.6	51.1	59.3	66.7
12. 異性とのつきあい方や避妊の知識	30.2	25.0	45.5	27.7	34.8	35.9
13. 青年期の生き方と愛や性・結婚	34.9	27.8	41.5	21.3	25.0	26.9
14. 妊娠や出産	37.2	30.6	46.5	34.0	44.6	39.7
15. 乳幼児の発達や子どもの成長	34.9	13.9	38.2	42.6	38.0	47.4
16. 快適な住まいの工夫をする	16.7	25.7	18.7	27.7	10.9	22.1
17. 生活環境（ゴミや環境汚染など）について考える	31.0	52.8	53.2	38.3	38.5	48.7
18. パソコンを使って栄養計算や住居の設計をする	23.8	25.0	10.3	10.6	9.8	12.0
19. パソコンで生活情報を集め、生活に利用する	19.0	20.6	15.7	8.5	9.8	17.6
20. 外国の食生活や生活の様式を調べる	14.3	19.4	10.2	4.3	6.5	9.0

「とても必要」の割合

○は最大値、最小値が10%以上差のある項目  
内数字は順位

表4-16 家庭科の授業は楽しいか × 進路・性

(%)

		とても楽しい	わりと楽しい	少し楽しい	あまり楽しくない	ぜんぜん楽しくない
男子	就職	18.1	36.5	25.0	13.6	6.8
	54.6					
	短大、専修・専門学校	14.3	48.5	22.9	11.4	2.9
62.8						
4年制大学		15.5	42.2	25.7	13.4	3.2
57.7						
女子	就職	17.0	49.0	23.4	10.6	0.0
	66.0					
	短大、専修・専門学校	12.0	44.5	26.1	12.0	5.4
56.5						
4年制大学		11.5	35.9	32.1	16.7	3.8
47.4						

表4-17 家庭科は高校の授業としては必要ない × 進路・性

(%)

		とてもそう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
男子	就職	15.9	13.6	38.7	31.8
	70.5				
	短大、専修・専門学校	2.8	16.7	44.4	36.1
80.5					
4年制大学		5.3	10.1	43.3	41.3
84.6					
女子	就職	2.1	12.8	46.8	38.3
	85.1				
	短大、専修・専門学校	3.3	8.8	58.2	29.7
87.9					
4年制大学		2.6	9.0	46.1	42.3
88.4					

○は最大値

表4-18 大学受験を控えた高校生は、家庭科よりもっと受験に必要な教科を多く学びたい × 進路・性 ( % )

		とても そう思う	わりと そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない
男 子	就職	22.7	20.5	38.6	18.2
	短大、専修・ 専門学校	16.7	30.6	44.4	8.3
	4年制大学	23.3	31.2	32.8	12.7
女 子	就職	6.5	28.3	45.6	19.6
	短大、専修・ 専門学校	15.2	21.7	49.0	14.1
	4年制大学	20.5	33.3	35.9	10.3

表4-19 家庭科の時間は、ホッとする時間か × 進路・性 ( % )

		とても そう思う	わりと そう思う	あまり そう思わない	ぜんぜん そう思わない	
男 子	就職	18.2	43.1	27.3	11.4	
			61.3			
	短大、専修・ 専門学校	11.4	51.4	34.3	2.9	
		62.8				
4年制大学		24.7	47.3	22.6	5.4	
		72.0				
女 子	就職	19.1	57.5	23.4	0.0	
			76.6			
	短大、専修・ 専門学校	22.8	50.0	20.7	6.5	
		72.8				
4年制大学		24.4	53.8	19.2	2.6	
		78.2				

○は最大値

最後に、家庭科の学習の必要性和高校時代の過ごし方をみてみよう。表4 - 20は高校時代の過ごし方の「とても」そうと答えた生徒と学習の必要性和のクロスである。「人間として生きていくための基本的な勉強をする」「大学受験のための勉強をする」「部活動やスポーツをする」「友だちをたくさん作る」「将来の生活や自分自身のことを考える」など、どのような過ごし方に重点を置いても、家庭科学習の「調理実習」「消費者教育」「生活環境について考える」「異性とのつきあい方や避妊の知識」「妊娠や出産」が必要であると考える割合が高い。

家庭科を学ぶことについてのさまざまな意見については、性差や卒業後の進路による差はみられない。生徒たちが身につけたい学力は、「調理実習」「消費者教育」「生活環境に

ついて考える」「異性とのつきあい方と避妊の知識」「青年期の生き方と愛や性・結婚」「妊娠や出産」など、どのようなライフスタイルをとろうが必要であることに変わりがないが、他の領域では、性差や進路・成績による差が認められる。そして、自ら求める学習の授業は楽しくもあり、ホッとできる時間にもなっている。

さらに、「男子や進学校に家庭科が不要」「なぜ、家庭科を高校で学ばなければならないのか」という意見に対し、生徒たちは家庭科の必要性を認めている。男子や進学校に不要と考えたり、家庭科を高校で学ぶ必要はないという意見を持つ人々は、家庭科を従来の「食物・被服」を中心とした学習と考えているからではないだろうか。

表4-20 家庭科の学習の必要性 × 高校時代の過ごし方

(%)

	人間として生きていくための基本的な勉強をする	大学受験のための勉強をする	部活動やスポーツをする	友だちをたくさん作る	将来の生活や自分自身のことを考える
1. 家族の人間関係や家庭の機能・役割	31.6	24.6	24.8	21.1	24.4
2. 家族に関する法律（民法や家庭裁判所など）	30.2	33.0	32.5	24.9	30.0
3. 家庭の経済（収入・支出や、国や企業の経済との関係など）	38.3	39.2	33.5	32.0	33.9
4. 生活設計（将来の仕事や家庭、社会福祉と生活保障）	39.5	41.9	36.2	30.0	38.2
5. 高齢者の生活や介護・ボランティア	45.0	41.6	42.1	40.7	42.1
6. 消費者教育（消費者の権利、消費者信用とクレジットカードなど）	52.2	56.8	56.1	51.3	53.4
7. 被服製作（シャツ・ベストやパンツなど）	26.3	22.6	18.0	16.2	18.2
8. 繊維の性質や機能の知識	17.3	14.5	14.1	12.5	12.9
9. 衣服の洗濯や保管	32.8	28.5	26.5	27.2	27.8
10. 栄養素や栄養所要量の知識	43.9	42.4	46.6	39.2	38.9
11. 調理実習	66.1	64.2	70.7	69.8	63.9
12. 異性とのつきあい方や避妊の知識	47.2	48.0	45.7	45.8	44.1
13. 青年期の生き方と愛や性・結婚	41.7	40.0	43.3	42.5	40.2
14. 妊娠や出産	50.0	46.4	50.6	52.3	47.6
15. 乳幼児の発達や子どもの成長	47.2	38.4	39.0	43.5	41.2
16. 快適な住まいの工夫をする	30.3	27.4	23.6	23.8	25.6
17. 生活環境（ゴミや環境汚染など）について考える	56.1	51.2	54.3	49.5	51.8
18. パソコンを使って栄養計算や住居の設計をする	20.2	22.0	16.9	14.6	14.0
19. パソコンで生活情報を集め、生活に利用する	26.1	21.0	18.5	16.8	18.4
20. 外国の食生活や生活の様式を調べる	21.1	21.0	16.6	13.4	14.1

「とても」必要の割合  
内数字は順位

### 3 家庭科の今後の課題

家庭科の楽しさや学習の必要性、家庭科に向けられたさまざまな意見を検証した結果、生徒たちが身につけたい学力は「調理実習」「消費者教育」「生活環境問題」「異性とのつきあい方や避妊の知識」「青年期の生き方と愛や性・結婚」「妊娠や出産」であり、家庭科は「ゆとり」をもたらす教科となっている。また、しばしば指摘される「家庭科不要論」は生徒たちの中にはほとんどみられない。

この生徒たちが身につけたい学力を現行の高等学校学習指導要領から履修内容をみてみよう。「家庭一般」では、「家族と家庭生活」「家庭の経済と消費」「衣生活の設計と被服製作」「食生活の設計と調理」「住居の設計と住居の管理」「乳幼児の保育と親の役割」を学習する。「生活技術」「生活一般」では「家庭生活と情報」や「家庭園芸」も加えられた内容となる。そして「家庭一般」では、4単位140時間という年間指導計画の中で「食生活・衣生活」が占める時間数はほぼ半分と、従来通りの「食物・被服」を重視する内容となっている。「被服製作」としては、パンツやベスト、スカート、バッグなどを製作している学校が多い。一方、「生活一般」ではほぼ同様の内容に「家庭生活と情報」を加え、2単位分で「家族や家庭生活」「家庭の経済と消費」「子どもの成長と親の役割」「家族の健康管理（衣・食・住生活）」の基本的な内容を履修し、「被服製作」「調理」「住居」「保育」「情報」の中から2、3の内容を選択し、2単位分履修することができる。

「家庭一般」を履修している学校が圧倒的に多い現状では、「食物・被服」を重視した内容を学んでいるといえる。生徒たちが身につけたい「必要な学力」と考える「調理実習」

「消費者教育」「生活環境問題」「異性とのつきあい方や避妊の知識」「青少年の生き方と愛や性・結婚」「妊娠や出産」と、現実の家庭科の授業で重視されている「食物・被服」の内容とに大きなギャップが認められる。

今後、このギャップをどう埋めていくかが、家庭科教育充実と高校教育の中で肯定的に認められるために必要な課題ではないだろうか。

そのために、まず家庭科の中心を占めていた「食物・被服」重視という意識を変えることが必要であろう。そして、例えばどのようなライフスタイルの生徒でも必要な学力と考える「調理実習」「消費者教育」「生活環境問題」「異性とのつきあい方や避妊の知識」「青年期の生き方と愛や性・結婚」「妊娠や出産」を基本的な学力として必修、「被服製作」など個々に興味・関心の差の大きい内容は進路選択との関連や趣味的・技能的な領域として、選択科目に位置づける。生徒たちの発達課題と進路実現を視野に入れ、これらの基本的な学力をいつ学習するのか、3年間を見通して生徒自身がこれらの領域を選択履修できる教育課程とする。家庭科が学校生活の中で「ゆとり」をもたらす教科としての機能を充実させ、この「ゆとり」の中で感性に訴えるような「性に関する問題や生き方」「ボランティア活動」などについて十分考え実践できるようにするなどの配慮ができないだろうか。

いずれにしても、現行の「食物・被服」を中心とした家庭科からいかに転換が図れるか、教科書や単位数のあり方も含めた検討こそが、今後の家庭科教育の方向性に大きな影響を与えるのではないだろうか。

# まとめに代えて

- 「生活のための学力」への転換を -

## 1 自発的に加われる内容を

調査を始める前に、結果に多少の懸念を抱いていた。生徒たちに学習内容のことをたずねても、はっきりとした回答は得られないのではないかという不安である。

これまで、さまざまな調査を行ってきて、きちんとした設問をすれば、生徒はちゃんと答えてくれるという気持ちを強めてきた。最近号でいえば、援助交際なども難航が予想されたテーマだが、結果はすでに報告した通り、生徒たちが真面目に考えて答えてくれたので、内容的に優れたものをまとめることができた。

今回の調査結果もわかりやすい。改めて、結論にあたる部分をまとめてみよう。

英語 = 受験英語でなく、ヒアリングを中心とした話せる英語を学びたい。

社会 = 暗記ものの「歴史」より、話し

合ったり、考えをまとめたりする「公民」的な学習を習いたい。

音楽 = 学校の音楽は退屈だ。ふだん聴いている音楽を扱ってほしい。

家庭科 = 被服などより、調理の実習を大事にしてほしい。

一口にいって、受験のための学習には興味を持たない。現在の自分に身近な、役に立つ学習をしたいというのが生徒たちの反応となる。「受験を目指した勉強から生活に役立つ勉強」への転換である。しかも、こうした意識は学業成績のよい生徒にも認められるのはすでに本文でふれた通りである。

英語にせよ、社会科にせよ、同じ勉強をするなら、勉強をする意味がわかり、自分が積極的に加わっていける勉強をしたいと多くの生徒は答えている。

## 2 生涯学習の中へ位置づけよう

こうした結果を読み取りながら、生徒たちの意見に共感するものを感じた。英語の難しい本を読む予定はないが、ヒアリングをしていれば、外国へ行ったとき役立ちそうだ。被服を縫う気はないが、料理を覚えておけば、結婚してからはむしろ、一人のときにも便利だ。

自分との距離が身近な学習をしたい。生徒たちが思っているかどうかはともあれ、実学志向が強い。これまでの高校の勉強は、生活に関係なく、直接的には受験の際出題される内容であり、より大きくいえば専門的な職業につくのに必要と思われるものの体系だった。

しかしすでにふれたように、高校が普通学校化してくると、専門職志向が強く、一流大学を目指す生徒は全体の少数にとどまる。もちろん、大学進学率が5割に近づき、少子化の影響もあって、一流大学が存在しているかどうかも疑問だ。それに、進学にあたって、推薦の枠が多くなり、内申は気になっても、受験のための学力に生徒たちが取り組まなくなったのは確かであろう。

そうした現実的な動きはともあれ、生徒たちのような生活に役立つ勉強をもう少し真剣に取り上げていように思う。英語を例にするなら、外国に行って日常生活で不自由

しない会話力と基本的な文章力を中心に据える。そして、社会科では現代の社会生活を掘り下げて考えるような探求学習の性格を強める。そして、音楽ではそれぞれの演奏に多くの時間を割く。

そうなれば、高校生活は生徒たちにとって充実した場となる。こうした形で生徒たちが自主的に学ぶ態度を身につけるようになれば、その態度はそれから先の生活にも役立つ。

生涯学習時代とは、学びたい人がいつでもどこでも学べることを意味していよう。学ぶ姿勢があれば、いつでも学べるので、仮に古典的な知識が必要となったら、そのときに学べばいい。

そうした意味では学ぶことの楽しさの感じられる高校教育を望みたいと思う。実をいうと、筆者は大学のゼミを受けるようになってから、勉強が面白いと感じるようになった。そして、大学院に入り、自主的な学習が必要になって、さらに学ぶことの楽しさを感じ始めた。筆者に限らず、自主的に取り組んだことは楽しく、そして、得るものが多く、忘れがたいという思い出があろう。そうした意味では、教育課程編成にあたって、生徒の声を聞くことも大事だと思った。

〔社会科・英語・音楽調査〕

---

## アンケートのお願い

---

このアンケートは、高校生の皆さんの教科（社会科・英語・音楽）についての気持ちをお聞きする目的で作られたものです。テストではありませんので、自由に思った通りに教えてください。よろしくお願いいたします。

（お名前はいりませんので、ありのままをお答えください。）

高校教育研究会

尚美学園短期大学教授

上智大学教授

明治学院大学教授

深谷 昌志

武内 清

望月 重信

((回答のしかた)) 特にことわりのない場合は、あてはまる数字に1つだけ をつけてください。

## 資料1 調査票見本①

I . まず、あなたのことをおたずねします。

① あなたの学校、学年、性別についておたずねします。

- 1) 学校名...( ) 高等学校  
 2) 学 年.....( ) 年  
 3) 性 別...( 1 . 男子      2 . 女子)      をつけてください

II . 高校での生活全体についておたずねします。

② 次の1～9について、もっともあてはまる教科を      の中から選んで、その番号を( )の中に入れてください。

- |        |           |        |         |
|--------|-----------|--------|---------|
| 1 . 国語 | 2 . 地歴・公民 | 3 . 数学 | 4 . 理科  |
| 5 . 英語 | 6 . 芸術    | 7 . 体育 | 8 . 家庭科 |

- 1 . 一番好きな教科( )  
 2 . 一番嫌いな教科( )  
 3 . 一番得意な教科( )  
 4 . 一番苦手な教科( )  
 5 . 成績がよいと一番うれしい教科( )  
 6 . 勉強していて一番楽しい教科( )  
 7 . 社会に出てから一番役に立つ教科( )  
 8 . 大学受験に一番役に立つ教科( )  
 9 . 年をとってからも勉強したいと思う教科( )

③ 受験を意識しないで、自由に選択するとしたら、あなたはどの科目を勉強したいですか。      の中から1科目だけ選んで、番号で教えてください。

- |             |             |                     |           |           |
|-------------|-------------|---------------------|-----------|-----------|
| 1 . 国語      | 2 . 国語表現    | 3 . 現代文             | 4 . 古典    | 5 . 世界史   |
| 6 . 日本史     | 7 . 地理      | 8 . 現代社会            | 9 . 倫理    | 10 . 政治経済 |
| 11 . 数学     | 12 . 物理     | 13 . 化学             | 14 . 生物   | 15 . 地学   |
| 16 . 体育     | 17 . 保健     | 18 . 音楽             | 19 . 美術   | 20 . 工芸   |
| 21 . 書道     | 22 . 英語     | 23 . オーラル・コミュニケーション |           |           |
| 24 . リーディング | 25 . ライティング | 26 . 家庭一般           | 27 . 生活技術 | 28 . 生活一般 |

- 1 . ぜひとも取りたい科目 ( )  
 2 . あまり取りたくない科目 ( )

④ 習熟度別の授業について、あなたの意見を聞かせてください。

1) あなたの学校では、教科によって学力による習熟度別の授業をやっていますか。

1. やっている      2. やっていない

SQ. やっている教科に をつけてください。

1. 国語      2. 地歴・公民      3. 数学      4. 理科  
5. 英語      6. 芸術      7. 体育      8. 家庭科

2) あなたは、学力による習熟度別の授業に賛成ですか。

- |           |           |               |              |               |
|-----------|-----------|---------------|--------------|---------------|
| とても<br>賛成 | わりと<br>賛成 | どちらとも<br>いえない | あまり<br>賛成でない | まったく<br>賛成でない |
| 1         | 2         | 3             | 4            | 5             |

⑤ あなたは成績の評価について、次のような意見をどう思いますか。

- |                                |             |             |               |                |
|--------------------------------|-------------|-------------|---------------|----------------|
|                                | とても<br>そう思う | わりと<br>そう思う | あまり<br>そう思わない | まったく<br>そう思わない |
| 1. 評価(評定)は、テストの成績を基本にする.....   | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 2. 評価に発言や質問回数などの態度・意欲を加える..... | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 3. 評価には出席点も加える.....            | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 4. 評価にはノートの取り方も加える.....        | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 5. 評価には生徒自身の自己評価を加える.....      | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 6. レポートなどを出したら評価に加える.....      | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 7. 無遅刻・無欠課の場合は評価を上げる.....      | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 8. 自主的な研究レポートやよい発表は評価を上げる..... | 1           | 2           | 3             | 4              |

⑥ あなたは教科書について、次のような意見をどう思いますか。

- |                                |             |             |               |               |                |
|--------------------------------|-------------|-------------|---------------|---------------|----------------|
|                                | とても<br>そう思う | わりと<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまり<br>そう思わない | まったく<br>そう思わない |
| 1. 教科書は最後まで終わらせてほしい.....       | 1           | 2           | 3             | 4             | 5              |
| 2. 教科書は受験勉強に役立つ.....           | 1           | 2           | 3             | 4             | 5              |
| 3. 高校卒業後も、教科書は大切に保存しておきたい..... | 1           | 2           | 3             | 4             | 5              |
| 4. 教科書より資料集や参考書の方が役立つ.....     | 1           | 2           | 3             | 4             | 5              |

## 資料1 調査票見本①

5. 教科書はわかりやすい ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5  
とても わりと どちらとも あまり まったく  
 そう思う そう思う いえない そう思わない そう思わない
6. 教科書は読んでもつまらない ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5
7. 教科書の内容は多すぎる ..... 1 — 2 — 3 — 4 — 5

## 7] あなたの成績は、どのくらいですか。

- 上の方          中の上          中          中の下          下の方  
 1 ——— 2 ——— 3 ——— 4 ——— 5

## 8] 現在、あなたがもっとも希望している卒業後の進路はどれですか。次の中から1つだけ選んで をつけてください。

1. 4年制大学（国公立）へ進学
2. 4年制大学（私立）へ進学
3. 短期大学へ進学
4. 専修・専門学校へ進学
5. 就職
6. 未定

## SQ. あなたは、どんな学部・学科・専門に進学したいと思っていますか。

1つだけ選んで をつけてください。

1. 人文・社会系（文学・語学・心理学・福祉など）
2. 法経系（法学・経済学など）
3. 理工系（理学・工学など）
4. 医薬系（医学・薬学など）
5. 教員養成系
6. 家政系
7. 芸術系
8. その他
9. 未定

Ⅲ．ここからは、社会科(地歴科・公民科)についておたずねします。

- 9] あなたは高校で、社会科のどの「科目」を受けてきましたか(必修・選択の両方合わせて)。また、受験予定の「科目」は何ですか。

	世界史	日本史	地理	倫理	政治経済	現代社会						
1. 1年生のとき.....	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	
2. 2年生のとき.....	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	
3. 受験予定.....	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6	..... 7

社会科では  
受験しない

- 10] あなたは社会科が好きですか。

	とても 好き	かなり 好き	やや 好き	あまり 好きでない	まったく 好きでない			
1	—	2	—	3	—	4	—	5

- 11] 社会科に関して、あなたは次のようなことについてどう思いますか。

	とても そう思う	少し そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない			
1. 暗記することが多い .....	1	—	2	—	3	—	4
2. 受験を意識した内容が多い .....	1	—	2	—	3	—	4
3. 先生だけが説明している .....	1	—	2	—	3	—	4
4. 内容に興味を持ってない .....	1	—	2	—	3	—	4
5. 教えられることが多すぎる .....	1	—	2	—	3	—	4
6. 社会の動きに関心を持てるようになった.....	1	—	2	—	3	—	4
7. 専門的な知識が得られる .....	1	—	2	—	3	—	4
8. 先生はいろいろ工夫している .....	1	—	2	—	3	—	4

- 12] 次のような社会科の授業方法について、あなたはどのように考えますか。

	とても よい	少し よい	あまり よくない	ぜんぜん よくない			
1. 生徒同士の討論や話し合いのある授業 .....	1	—	2	—	3	—	4
2. 生徒による発表や報告のある授業 .....	1	—	2	—	3	—	4
3. ビデオなど視聴覚教材を使った授業 .....	1	—	2	—	3	—	4
4. 講義中心の授業 .....	1	—	2	—	3	—	4
5. 問題演習中心の授業 .....	1	—	2	—	3	—	4

## 資料1 調査票見本①

- |                              | とても<br>よい | 少し<br>よい | あまり<br>よくない | ぜんぜん<br>よくない |
|------------------------------|-----------|----------|-------------|--------------|
| 6. 受験対策中心の授業 .....           | 1         | 2        | 3           | 4            |
| 7. いろいろと考えさせられる機会のある授業 ..... | 1         | 2        | 3           | 4            |
| 8. 専門的な知識を得られる授業 .....       | 1         | 2        | 3           | 4            |
| 9. 教養を高められる授業 .....          | 1         | 2        | 3           | 4            |

- 13 社会科の中の各「科目」について、次のようなことはどの「科目」に一番あてはまるとお思いますか（受けたことのない科目については、想像できる範囲で答えてください）。

- |                               | 世界史 | 日本史 | 地理 | 倫理 | 政治経済 | 現代社会 |
|-------------------------------|-----|-----|----|----|------|------|
| 1. 一番好きな科目 .....              | 1   | 2   | 3  | 4  | 5    | 6    |
| 2. 一番嫌いな科目 .....              | 1   | 2   | 3  | 4  | 5    | 6    |
| 3. 受験に一番役立ちそうな科目 .....        | 1   | 2   | 3  | 4  | 5    | 6    |
| 4. 受験に一番役立ちそうにない科目 .....      | 1   | 2   | 3  | 4  | 5    | 6    |
| 5. 将来一番役立ちそうな科目 .....         | 1   | 2   | 3  | 4  | 5    | 6    |
| 6. いろいろ考えさせられることが一番多い科目 ..... | 1   | 2   | 3  | 4  | 5    | 6    |
| 7. 一番教養を高めることができそうな科目 .....   | 1   | 2   | 3  | 4  | 5    | 6    |
| 8. 一番進度が速そうな科目 .....          | 1   | 2   | 3  | 4  | 5    | 6    |

IV. 次に英語についておたずねします。

- 14 あなたが学校で習う語学（英語）の授業はどのようなですか。

- 1) 現在、週あたりの英語の総授業時間数は何時間ですか。

4時間以下	5時間	6時間	7時間	8時間	9時間	10時間	11時間以上
1	2	3	4	5	6	7	8

- 2) 外国人の先生に教わる授業時間数は、1か月あたり何時間ですか。

教わらない	1～2時間	3～4時間	5～6時間	7時間以上
1	2	3	4	5



## 資料1 調査票見本①

- 16 次に、あなたのふだんの英語の学習についておたずねします。  
あなたは、英語の勉強をどのようにしていますか。  
(英語Ⅰ、英語Ⅱのケースを考えて教えてください)

## 1) 授業中のノート

必ずとる            まあとる            あまりとらない    ぜんぜんとらない  
1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_

## 2) 授業の復習

必ずやる            まあやる            あまりやらない    ぜんぜんやらない  
1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_

## 3) 予習にかける時間

やらない            30分以下            30分～1時間            1時間～1時間30分            1時間30分～2時間            2時間以上  
1 \_\_\_\_\_ 2 \_\_\_\_\_ 3 \_\_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_ 5 \_\_\_\_\_ 6 \_\_\_\_\_

- 17 あなたは、テレビやラジオなどの語学番組を視聴していますか。

1. いつも視聴している
2. ときどき視聴している
3. 視聴していない

- 18 あなたは、英語に関する次の意見についてどう思いますか。

- |                                              | とても<br>そう思う | かなり<br>そう思う | あまり<br>そう思わない | ぜんぜん<br>そう思わない |
|----------------------------------------------|-------------|-------------|---------------|----------------|
| 1. 英語は得意な人が勉強すればよい .....                     | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 2. 大学入試では、辞書を持ち込んでよい.....                    | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 3. 教科書ガイドはあった方がよい .....                      | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 4. 英語は大学受験の必須科目にしない .....                    | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 5. 学校で勉強するだけでは英語を話せるように<br>ならない.....         | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 6. 授業より、外国のホームステイの方が力がつく ...                 | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 7. 学力に合わせて「習熟度別」にクラスを編成する<br>方が力がつく .....    | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 8. 1クラスを15人くらいの少人数クラスにする .....               | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 9. アジア近隣諸国の言葉も学校で習える.....                    | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 10. 英検(実用英語技能検定)などの資格は、学校の<br>成績の評価にする ..... | 1           | 2           | 3             | 4              |

㊦ 小学校から英語の勉強が始まりますが、どう思いますか。

- |                               |   |             |             |               |                |
|-------------------------------|---|-------------|-------------|---------------|----------------|
|                               |   | とても<br>そう思う | かなり<br>そう思う | あまり<br>そう思わない | ぜんぜん<br>そう思わない |
| 1. 小学校高学年くらいから始めればよい .....    | 1 | —           | 2           | —             | 3 — 4          |
| 2. 幼稚園くらいから始めれば力がつくだろう .....  | 1 | —           | 2           | —             | 3 — 4          |
| 3. 英語嫌いを多くするだけだ .....         | 1 | —           | 2           | —             | 3 — 4          |
| 4. 日本語をしっかりとやる方が重要だ .....     | 1 | —           | 2           | —             | 3 — 4          |
| 5. 私立中学の受験で、受験英語をおおるだけだ ..... | 1 | —           | 2           | —             | 3 — 4          |

㊧ あなたはこれまでに外国へ行ったことがどれくらいありますか。

- |          |    |    |    |           |
|----------|----|----|----|-----------|
| 行ったことがない | 1回 | 2回 | 3回 | 4回以上      |
| 1        | —  | 2  | —  | 3 — 4 — 5 |

SQ. 外国へ行ったことのある人におたずねします。

- 1) それはどこの国ですか。(2回以上行ったことのある人は、最長のときで答え  
てください。また、ツアーなどで複数の国を回った場合はすべての国名を書い  
てください)

国名( )

- 2) そのときはどのくらいの期間、滞在しましたか。

- |       |       |       |        |       |       |               |
|-------|-------|-------|--------|-------|-------|---------------|
| 1週間以内 | 1~2週間 | 1か月以内 | 1か月~半年 | 半年~1年 | 1年~2年 | 2年以上          |
| 1     | —     | 2     | —      | 3     | —     | 4 — 5 — 6 — 7 |

V. 次に音楽についておたずねします。

㊨ あなたは現在、音楽の授業を履修していますか。

1. 必修科目で履修している
2. 選択科目で履修している
3. 履修していない

## 資料1 調査票見本①

音楽の授業を履修している人は、22~32までの質問にお答えください。  
履修していない人は、3132に進んでください。

- 22 21で2(選択科目で履修)と答えた人におたずねします。あなたが音楽を選択した理由は何ですか。あてはまる番号すべてに をつけてください。

1. 音楽が好きだから
2. 音楽の授業が楽しそうだったから
3. 仲のいい友だちが履修するので一緒にとろうと思ったから
4. 音楽の授業が楽そうだったから
5. 試験がなさそうだったから
6. 持ち物が少なそうだったから
7. 他の選択科目(美術や書道など)が嫌いだったから
8. 他の選択科目(美術や書道など)を希望していたがとれなかったから
9. その他( )

- 23 音楽の授業は、週に何時間ありますか。

( )時間

- 24 この1年間、音楽の授業では、どのような活動を中心に学習してきましたか。  
の中からよく扱っていた活動を2つまで選んで、番号でお答えください。

- |                |           |       |       |
|----------------|-----------|-------|-------|
| 1. 歌唱          | 2. 器楽     | 3. 鑑賞 | 4. 創作 |
| 5. 音楽理論や音楽史の学習 | 6. その他( ) |       |       |

1. 一番よく扱った活動( )
2. 二番目によく扱った活動( )

- 25 この1年間、音楽の授業の歌唱や鑑賞では、主にどんなジャンルの音楽を扱ってきましたか。の中からよく扱っていたジャンルを3つまで選んで、番号でお答えください。

- |               |                         |                             |             |
|---------------|-------------------------|-----------------------------|-------------|
| 1. クラシック      | 2. 現代音楽                 | 3. 日本の伝統音楽(雅楽、三味線、お琴、歌舞伎など) |             |
| 4. 民族音楽       | 5. 日本のロック               | 6. 日本のフォーク、ニューミュージック        |             |
| 7. 日本の歌謡曲     | 8. 日本の演歌                | 9. 外国のロック                   | 10. 外国のポップス |
| 11. ジャズ       | 12. フュージョン              | 13. ヘビーメタル                  | 14. パンク     |
| 15. ダンスミュージック | 16. テレビ・映画・劇などの主題歌やテーマ曲 |                             |             |
| 17. その他( )    |                         |                             |             |

1. 一番よく扱ったジャンル( )
2. 二番目によく扱ったジャンル( )
3. 三番目によく扱ったジャンル( )

26 音楽の授業を受けているときのあなたの様子はどんなふうですか。

- |                                         | よく<br>ある | ときどき<br>ある | あまり<br>ない | ほとんど<br>ない |
|-----------------------------------------|----------|------------|-----------|------------|
| 1. 授業中に発言したり質問したりする .....               | 1        | 2          | 3         | 4          |
| 2. 授業の内容が難しいと感じる .....                  | 1        | 2          | 3         | 4          |
| 3. 授業の内容が簡単だと感じる .....                  | 1        | 2          | 3         | 4          |
| 4. 授業中に居眠りをする .....                     | 1        | 2          | 3         | 4          |
| 5. おしゃべりなどで、授業以外のことに関心が<br>向いている .....  | 1        | 2          | 3         | 4          |
| 6. 内職（他の科目の勉強など）をする .....               | 1        | 2          | 3         | 4          |
| 7. ポーっと他のことを考えている .....                 | 1        | 2          | 3         | 4          |
| 8. 楽しく歌ったり演奏したりする .....                 | 1        | 2          | 3         | 4          |
| 9. みんなで歌ったり演奏したりしているときに<br>参加しない .....  | 1        | 2          | 3         | 4          |
| 10. 自分ではやろうと思っているが、技術が<br>ついていけない ..... | 1        | 2          | 3         | 4          |

27 あなたは、音楽の授業でどのような活動を中心にしてほしいですか。中心にしてほしい活動を の中から2つまで選んで、番号でお答えください。

- |                |           |       |       |
|----------------|-----------|-------|-------|
| 1. 歌唱          | 2. 器楽     | 3. 鑑賞 | 4. 創作 |
| 5. 音楽理論や音楽史の学習 | 6. その他( ) |       |       |

1. 一番中心にしてほしい活動( )  
2. 二番目に中心にしてほしい活動( )

28 あなたは、音楽の授業の歌唱や鑑賞でどんなジャンルの音楽を扱ってほしいですか。扱ってほしいジャンルを の中から3つまで選んで、番号でお答えください。

- |                             |                      |            |            |
|-----------------------------|----------------------|------------|------------|
| 1. クラシック                    | 2. 現代音楽              |            |            |
| 3. 日本の伝統音楽（雅楽、三味線、お琴、歌舞伎など） | 4. 民族音楽              |            |            |
| 5. 日本のロック                   | 6. 日本のフォーク、ニューミュージック |            |            |
| 7. 日本の歌謡曲                   | 8. 日本の演歌             | 9. 外国のロック  |            |
| 10. 外国のポップス                 | 11. ジャズ              | 12. フュージョン | 13. ヘビーメタル |
| 14. パンク                     | 15. ダンスミュージック        |            |            |
| 16. テレビ・映画・劇などの主題歌やテーマ曲     |                      |            |            |
| 17. その他( )                  |                      |            |            |

1. 一番扱ってほしいジャンル( )  
2. 二番目に扱ってほしいジャンル( )  
3. 三番目に扱ってほしいジャンル( )

## 資料1 調査票見本①

29 あなたは1年間音楽の授業を受けてきて、音楽の授業についてどんな感想を持っていますか。

- |                               | とても<br>そう思う | やや<br>そう思う | あまり<br>そう思わない | まったく<br>そう思わない |
|-------------------------------|-------------|------------|---------------|----------------|
| 1. 音楽の授業は楽しい .....            | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 2. 音楽の授業は退屈だ .....            | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 3. 音楽の授業は安らげる(リラックスできる) ..... | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 4. 音楽の授業は難しい .....            | 1           | 2          | 3             | 4              |

30 あなたは、音楽を学校で勉強する意味についてどう考えていますか。

- |                               | とても<br>そう思う | やや<br>そう思う | あまり<br>そう思わない | まったく<br>そう思わない |
|-------------------------------|-------------|------------|---------------|----------------|
| 1. 楽譜が読めるようになる .....          | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 2. 歌がうまくなる .....              | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 3. たくさんのジャンルの音楽を知ることができる...   | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 4. なにかの楽器が演奏できるようになる .....    | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 5. 合唱や合奏を通して、友だちとの連帯感が強まる ... | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 6. 豊かな教養が身につく、人間の幅が広がる.....   | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 7. 進学に役立つ.....                | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 8. 仕事に活かせる .....              | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 9. 日本の伝統文化に触れることができる.....     | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 10. 日本の伝統文化の理解に役立つ .....      | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 11. 外国文化に触れることができる .....      | 1           | 2          | 3             | 4              |
| 12. 外国人や外国文化の理解に役立つ .....     | 1           | 2          | 3             | 4              |

31 あなたはこれまでに学校の音楽の授業以外で、音楽を習ったりやったりしたことがありますか。あてはまる番号1つに をつけてください。

1. 現在習っている
2. 以前習っていたことがある
3. 現在やっている
4. 以前やっていたことがある
5. 現在習ったりやったりしている
6. 以前習ったりやったりしたことがある
7. 学校の音楽の授業以外では習ったこともやったこともない

SQ. 1～6を選んだ人だけにおたずねします。

1) どこで習ったりやったりしています(した)か。あてはまるものすべてに つつけてください。

1. 個人レッスン
2. 音楽教室
3. 学校の課外活動
4. 地域の活動(ジュニアオーケストラなど)
5. 友だち同士
6. その他( )

2) 習ったりやったりしている(いた)楽器は何ですか。あてはまるものすべてに つつけてください。

1. バンド系の楽器(エレキギター、エレキベース、ドラムスなど)
2. ピアノ
3. ピアノ以外の鍵盤楽器(エレクトーンなど)
4. バイオリン
5. バイオリン以外の弦楽器
6. クラシックギター
7. 管楽器
8. 打楽器
9. 邦楽器(三味線、琴など)
10. その他( )

③2 あなたがふだんよくCDを聴いたり、コンサートやライブに行ったりする音楽のジャンルは何ですか。あてはまるものすべてに つつけてください。

1. クラシック
2. 現代音楽
3. 日本の伝統音楽(雅楽、三味線、お琴、歌舞伎など)
4. 民族音楽
5. 日本のロック
6. 日本のフォーク、ニューミュージック
7. 日本の歌謡曲
8. 日本の演歌
9. 外国のロック
10. 外国のポップス
11. ジャズ
12. フュージョン
13. ヘビーメタル
14. パンク
15. ダンスミュージック
16. テレビ・映画・劇などの主題歌やテーマ曲
17. その他( )

～以上で終わりです。長い間ありがとうございました。～

## 資料1 調査票見本②

## 〔家庭科調査〕

① まず、あなたの学校、学年、性別についておたずねします。

- 1) 学校名.....( )高等学校  
 2) 学 年.....( )年  
 3) 性 別.....( 1.男子 2.女子) をつけてください

② 次の1～11について、もっともあてはまる教科を の中から選んで、その番号を( )の中に入れてください。

1. 国語	2. 地歴・公民	3. 数学	4. 理科
5. 英語	6. 芸術	7. 体育	8. 家庭科

1. 一番好きな教科( )  
 2. 一番嫌いな教科( )  
 3. 一番得意な教科( )  
 4. 一番苦手な教科( )  
 5. 成績がよいと一番うれしい教科( )  
 6. 授業中、一番リラックスできる教科( )  
 7. 勉強していて一番楽しい教科( )  
 8. 社会に出てから一番役に立つ教科( )  
 9. 大学受験に一番役に立つ教科( )  
 10. 年をとってからも勉強したいと思う教科( )  
 11. 親と一番話をする教科( )

③ ここからは、家庭科の授業についておたずねします。

1) あなたは、家庭一般、生活一般、生活技術の3科目の中で、どの科目を学んでいますか。

1. 家庭一般 2. 生活一般 3. 生活技術

2) それは、何年生でどのくらい学んでいますか。

1. 1年生( )単位 2. 2年生( )単位 3. 3年生( )単位

④ 次にあげる内容は、高等学校家庭科の学習内容です。あなたは、次のような勉強を楽しんでいると思いますか。

1. 家族の人間関係や家庭の機能・役割 ..... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5  
とても わりと あまり ぜんぜん 勉強  
 楽しい 楽しい 楽しくない 楽しくない していない
2. 家族に関する法律(民法や家庭裁判所など) ... 1 — 2 — 3 — 4 ..... 5

資料1 調査票見本②

	とても 楽しい	わりと 楽しい	あまり 楽しくない	ぜんぜん 楽しくない	勉強 していない
3. 家庭の経済（収入・支出や、国や企業の経済との関係など）.....	1	2	3	4	5
4. 生活設計（将来の仕事や家庭、社会福祉と生活保障）.....	1	2	3	4	5
5. 高齢者の生活や介護・ボランティア.....	1	2	3	4	5
6. 消費者教育（消費者の権利、消費者信用とクレジットカードなど）.....	1	2	3	4	5
7. 被服製作（シャツ・ベストやパンツなど）.....	1	2	3	4	5
8. 繊維の性質や機能の知識.....	1	2	3	4	5
9. 衣服の洗濯や保管.....	1	2	3	4	5
10. 栄養素や栄養所要量の知識.....	1	2	3	4	5
11. 調理実習.....	1	2	3	4	5
12. パソコンを使って栄養計算や住居の設計をする.....	1	2	3	4	5
13. 異性とのつきあい方や避妊の知識.....	1	2	3	4	5
14. 青年期の生き方と愛や性・結婚.....	1	2	3	4	5
15. 妊娠や出産.....	1	2	3	4	5
16. 乳幼児の発達や子どもの成長.....	1	2	3	4	5
17. 快適な住まいの工夫をする.....	1	2	3	4	5
18. 生活環境（ゴミや環境汚染など）について考える.....	1	2	3	4	5
19. パソコンで生活情報を集め、生活に利用する.....	1	2	3	4	5
20. 外国の食生活や生活の様式を調べる.....	1	2	3	4	5

⑤ ではあなたは、次のような家庭科の学習は高等学校で学ぶ必要があると思いますか。

	とても 必要	わりと 必要	あまり 必要でない	ぜんぜん 必要でない
1. 家族の人間関係や家庭の機能・役割.....	1	2	3	4
2. 家族に関する法律（民法や家庭裁判所など）.....	1	2	3	4
3. 家庭の経済（収入・支出や、国や企業の経済との関係など）.....	1	2	3	4

資料1 調査票見本②

	とても 必要	わりと 必要	あまり 必要でない	ぜんぜん 必要でない
4. 生活設計（将来の仕事や家庭、社会福祉と生活保障）.....	1	2	3	4
5. 高齢者の生活や介護・ボランティア .....	1	2	3	4
6. 消費者教育（消費者の権利、消費者信用とクレジットカードなど）.....	1	2	3	4
7. 被服製作（シャツ・ベストやパンツなど）.....	1	2	3	4
8. 繊維の性質や機能の知識 .....	1	2	3	4
9. 衣服の洗濯や保管.....	1	2	3	4
10. 栄養素や栄養所要量の知識 .....	1	2	3	4
11. 調理実習.....	1	2	3	4
12. パソコンを使って栄養計算や住居の設計をする.....	1	2	3	4
13. 異性とのつきあい方や避妊の知識 .....	1	2	3	4
14. 青年期の生き方と愛や性・結婚 .....	1	2	3	4
15. 妊娠や出産 .....	1	2	3	4
16. 乳幼児の発達や子どもの成長 .....	1	2	3	4
17. 快適な住まいの工夫をする .....	1	2	3	4
18. 生活環境（ゴミや環境汚染など）について考える ...	1	2	3	4
19. パソコンで生活情報を集め、生活に利用する.....	1	2	3	4
20. 外国の食生活や生活の様式を調べる .....	1	2	3	4

6 あなたは、家庭科の授業で、次のように思ったりすることがありますか。

	とても よくある	わりと ある	ときどき ある	ほとんど ない
1. 授業の内容がやさしすぎる .....	1	2	3	4
2. 授業の内容が難しすぎる .....	1	2	3	4
3. 調理実習した料理を家でも作りたい .....	1	2	3	4
4. 調理実習をして、毎日食事を作る親の大変さがわかった .....	1	2	3	4
5. 授業の内容は学校で教えなくても、家庭で親から教わればよい .....	1	2	3	4
6. 現在の生活も精一杯なので、将来の家庭生活まで考えられない .....	1	2	3	4

資料1 調査票見本②

- |                                           | とても<br>よくある | わりと<br>ある | ときどき<br>ある | ほとんど<br>ない |
|-------------------------------------------|-------------|-----------|------------|------------|
| 7. 授業中、居眠りをする .....                       | 1           | 2         | 3          | 4          |
| 8. マンガを描いたり文房具で遊ぶ .....                   | 1           | 2         | 3          | 4          |
| 9. 席の近い人とおしゃべりをする .....                   | 1           | 2         | 3          | 4          |
| 10. 内職（他の教科の勉強など）をする .....                | 1           | 2         | 3          | 4          |
| 11. 黒板に書かれたことはノートやプリントに書く.....            | 1           | 2         | 3          | 4          |
| 12. 先生が話したことで大切だと思うことは<br>ノートにメモを取る ..... | 1           | 2         | 3          | 4          |

7] あなたは、トータルに考えて、現在学んでいる家庭科についてどう思いますか。

1) 家庭科の授業は楽しい

- | とても<br>楽しい | わりと<br>楽しい | 少し<br>楽しい | あまり<br>楽しくない | ぜんぜん<br>楽しくない |
|------------|------------|-----------|--------------|---------------|
| 1          | 2          | 3         | 4            | 5             |

2) 家庭科の時間は、何となくホッとする時間である

- | とても<br>そう思う | わりと<br>そう思う | あまり<br>そう思わない | ぜんぜん<br>そう思わない |
|-------------|-------------|---------------|----------------|
| 1           | 2           | 3             | 4              |

8] 高等学校で家庭科を学ぶことについて、次のようなことをどう思いますか。

- |                                         | とても<br>そう思う | わりと<br>そう思う | 少し<br>そう思う | あまりそう<br>思わない | ぜんぜん<br>そう思わない |
|-----------------------------------------|-------------|-------------|------------|---------------|----------------|
| 1. 親子関係や自分の生活を見直すことが<br>できる.....        | 1           | 2           | 3          | 4             | 5              |
| 2. 悪徳商法などのことを知り、被害に<br>遭わないようにする .....  | 1           | 2           | 3          | 4             | 5              |
| 3. 一人暮らしでも健康的な食生活ができる .....             | 1           | 2           | 3          | 4             | 5              |
| 4. 料理が作れるようになる .....                    | 1           | 2           | 3          | 4             | 5              |
| 5. 高齢者の介護・福祉や年金制度・<br>社会保障について学べる ..... | 1           | 2           | 3          | 4             | 5              |
| 6. 衣類の手入れやほころびの繕い・<br>ボタンつけができる .....   | 1           | 2           | 3          | 4             | 5              |
| 7. 異性とのつきあいや避妊の知識を学べる...                | 1           | 2           | 3          | 4             | 5              |
| 8. 将来、幸せな家庭を作れる .....                   | 1           | 2           | 3          | 4             | 5              |
| 9. 親になったときの心構えができる .....                | 1           | 2           | 3          | 4             | 5              |
| 10. 環境問題やゴミ問題に関心が持てる.....               | 1           | 2           | 3          | 4             | 5              |

## 資料1 調査票見本②

9 あなたは、家庭科に対する次のような意見をどう思いますか。

- |                                                     | とても<br>そう思う | わりと<br>そう思う | あまり<br>そう思わない | ぜんぜん<br>そう思わない |
|-----------------------------------------------------|-------------|-------------|---------------|----------------|
| 1. 家庭科は、必修科目でなく全部選択科目でよい.....                       | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 2. 家庭科の学習は、将来必要なことが多いので、<br>必要になったとき、各々が学べばよい ..... | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 3. 大学受験を控えた高校生は、家庭科より<br>もっと受験に必要な教科を多く学びたい .....   | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 4. 家庭科の内容は、男子が高校で授業として<br>学ぶほどの必要はない.....           | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 5. 週5日制などで全体に単位数が少なくなって<br>いる中で、家庭科が4単位は多すぎる .....  | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 6. 10年後は、家庭科も男性教師が5人に1人<br>くらいの割合に増える .....         | 1           | 2           | 3             | 4              |
| 7. 家庭科は高校の授業としては必要ない .....                          | 1           | 2           | 3             | 4              |

10 現在、あなたが希望している卒業後の進路はどれですか。

1. 就職
2. 専修・専門学校へ進学
3. 短期大学へ進学
4. 4年制大学（私立）へ進学
5. 4年制大学（国公立）へ進学
6. 未定

11 あなたは、高校生活とは、どんなことをする時期だと考えますか。

- |                              | とても<br>そう | わりと<br>そう | あまり<br>そうでない | ぜんぜん<br>そうでない |
|------------------------------|-----------|-----------|--------------|---------------|
| 1. 人間として生きていくための基本的な勉強をする... | 1         | 2         | 3            | 4             |
| 2. 大学進学のための受験勉強をする .....     | 1         | 2         | 3            | 4             |
| 3. 部活動やスポーツをする .....         | 1         | 2         | 3            | 4             |
| 4. 友だちをたくさんつくる .....         | 1         | 2         | 3            | 4             |
| 5. 将来の生活や自分自身のことを考える .....   | 1         | 2         | 3            | 4             |

12 あなたの成績は、どのくらいですか。

- | 上の方 | 中の上 | 中 | 中の下 | 下の方 |
|-----|-----|---|-----|-----|
| 1   | 2   | 3 | 4   | 5   |

～以上で終わります。長い間ありがとうございました。～

資料2 基礎集計表①

〔調査票① 社会・英語・音楽調査〕

単位：サンプル数以外はパーセント

質問項目		全 体	性 別		学 年 別			
			男 子	女 子	1 年	2 年		
①	サンプル数	1,718	984	734	690	1,028		
②	教科 に つ い て	一番好きな教科	1. 国語	7.5	5.2	10.5	6.9	7.9
			2. 地歴・公民	15.1	17.7	11.5	12.0	17.1
			3. 数学	16.9	21.3	10.9	17.3	16.6
			4. 理科	12.0	14.3	8.8	14.5	10.3
			5. 英語	14.4	10.0	20.2	14.3	14.4
			6. 芸術	10.5	5.9	16.7	11.8	9.7
			7. 体育	20.4	24.4	15.7	20.9	20.3
			8. 家庭科	3.2	1.2	5.7	2.3	3.7
		一番嫌いな教科	1. 国語	16.2	20.5	10.5	20.9	13.1
			2. 地歴・公民	10.2	7.0	14.6	11.5	9.4
			3. 数学	23.5	19.1	29.1	21.5	24.6
			4. 理科	13.0	9.6	17.8	10.5	14.8
			5. 英語	16.2	20.5	10.4	14.9	17.0
			6. 芸術	7.2	9.9	3.6	7.4	7.1
			7. 体育	6.5	4.4	9.3	5.6	7.1
			8. 家庭科	7.2	9.0	4.7	7.7	6.9
		一番得意な教科	1. 国語	15.3	11.4	20.5	13.9	16.3
			2. 地歴・公民	14.4	18.0	9.6	13.0	15.4
			3. 数学	19.3	23.3	14.1	20.2	18.7
			4. 理科	10.2	13.3	5.8	13.6	7.7
			5. 英語	17.7	14.2	22.4	17.8	17.6
			6. 芸術	8.6	5.2	13.2	9.4	8.1
			7. 体育	11.1	13.1	8.5	9.8	12.0
			8. 家庭科	3.4	1.5	5.9	2.3	4.2
		一番苦手な教科	1. 国語	17.1	22.4	10.1	21.4	14.2
			2. 地歴・公民	7.5	5.4	10.4	7.7	7.4
			3. 数学	31.0	25.7	37.9	30.4	31.4
			4. 理科	10.1	8.1	12.8	8.0	11.5
			5. 英語	21.5	24.7	17.2	19.1	23.1
			6. 芸術	3.4	4.6	1.8	3.8	3.1
			7. 体育	6.9	5.4	9.0	6.3	7.4
			8. 家庭科	2.5	3.7	0.8	3.3	1.9
		一番うれしい教科	1. 国語	6.3	6.9	5.6	7.6	5.5
			2. 地歴・公民	4.1	4.8	3.1	3.1	4.8
			3. 数学	56.2	55.6	57.0	67.7	48.4
			4. 理科	4.9	5.5	4.0	3.8	5.6
			5. 英語	24.0	22.3	26.4	13.6	31.0
			6. 芸術	1.5	1.2	1.8	0.7	2.0
			7. 体育	2.5	3.1	1.8	3.4	2.0
			8. 家庭科	0.5	0.6	0.3	0.1	0.7
一番楽しい教科	1. 国語	5.4	4.3	6.7	4.7	5.8		
	2. 地歴・公民	18.5	21.5	14.4	13.2	22.0		
	3. 数学	25.7	29.0	21.6	26.0	25.6		
	4. 理科	14.4	17.5	10.3	17.6	12.3		
	5. 英語	18.8	13.8	25.7	20.2	17.9		
	6. 芸術	7.3	4.3	11.3	7.2	7.4		
	7. 体育	8.1	8.3	7.7	10.4	6.5		
	8. 家庭科	1.8	1.3	2.3	0.7	2.5		

資料2 基礎集計表①

質問項目			全 体	性 別		学 年 別		
				男 子	女 子	1 年	2 年	
2	教 科 に つ い て	社会で役立つ教科	1. 国語	9.3	10.1	8.2	8.2	10.1
			2. 地歴・公民	12.5	13.7	10.9	18.0	8.8
			3. 数学	4.1	5.4	2.3	3.6	4.4
			4. 理科	4.3	5.8	2.3	3.9	4.6
			5. 英語	46.0	42.8	50.2	46.4	45.6
			6. 芸術	1.6	1.3	2.0	2.5	1.1
			7. 体育	2.6	3.8	1.1	2.3	2.8
			8. 家庭科	19.6	17.1	23.0	15.1	22.6
		受験に役立つ教科	1. 国語	3.7	3.5	4.1	5.5	2.5
			2. 地歴・公民	2.3	3.2	1.2	2.3	2.3
			3. 数学	34.2	37.4	30.0	48.8	24.6
			4. 理科	3.9	3.9	4.0	4.7	3.4
			5. 英語	54.3	50.8	58.8	37.0	65.8
			6. 芸術	0.7	0.4	1.1	1.2	0.4
			7. 体育	0.4	0.5	0.1	0.1	0.5
			8. 家庭科	0.5	0.3	0.7	0.4	0.5
		学年をとってからも勉強したい教科	1. 国語	5.9	5.6	6.3	6.2	5.7
			2. 地歴・公民	15.6	18.4	11.9	15.8	15.5
			3. 数学	5.0	6.5	3.2	4.6	5.4
			4. 理科	9.3	12.5	5.1	10.2	8.7
			5. 英語	29.7	24.8	35.8	30.0	29.3
			6. 芸術	22.6	20.4	25.5	22.1	22.9
			7. 体育	5.6	8.0	2.5	5.5	5.7
			8. 家庭科	6.3	3.8	9.7	5.6	6.8
3	受 験 を 意 識 し な い な ら	ぜ ひ と も 取 り た い 科 目	1. 国語	1.6	1.8	1.4	1.7	1.6
			2. 国語表現	1.5	1.3	1.8	1.2	1.8
			3. 現代文	1.8	1.6	2.1	1.5	2.1
			4. 古典	1.5	0.9	2.3	1.6	1.5
			5. 世界史	5.6	5.4	5.8	4.4	6.4
			6. 日本史	7.7	9.5	5.3	9.3	6.6
			7. 地理	1.8	2.6	0.7	1.9	1.7
			8. 現代社会	0.8	1.0	0.5	0.7	0.9
			9. 倫理	2.9	3.1	2.7	1.9	3.6
			10. 政治経済	3.4	4.8	1.5	4.4	2.7
			11. 数学	8.1	10.3	5.1	7.6	8.2
			12. 物理	4.3	6.1	1.9	4.4	4.3
			13. 化学	4.1	4.7	3.3	5.4	3.2
			14. 生物	5.0	4.9	5.1	7.7	3.6
			15. 地学	1.6	1.9	1.2	1.6	1.7
			16. 体育	8.0	10.9	4.4	8.3	7.8
			17. 保健	0.7	0.6	0.8	0.3	1.0
			18. 音楽	7.4	5.2	10.3	8.0	6.9
			19. 美術	5.7	3.5	8.6	4.4	6.6
			20. 工芸	3.0	2.5	3.8	1.6	4.0
			21. 書道	1.7	0.9	2.7	1.5	1.9
			22. 英語	6.6	6.2	7.0	8.4	5.3
			23. オーラル・コミュニケーション	7.2	4.3	11.2	7.1	7.2
			24. リーディング	0.8	0.7	1.0	1.0	0.7
			25. ライティング	0.6	0.7	0.4	0.7	0.5
			26. 家庭一般	3.1	0.9	6.0	2.2	3.7
			27. 生活技術	2.3	3.1	1.2	1.3	2.9
			28. 生活一般	1.2	0.6	1.9	0.6	1.6

資料2 基礎集計表①

質問項目			全 体	性 別		学 年 別		
				男 子	女 子	1 年	2 年	
3	受験を意識しないなら	あまり取りたくない科目	1. 国語	2.8	3.7	1.5	3.9	2.0
			2. 国語表現	2.0	2.0	1.9	1.9	2.1
			3. 現代文	2.9	3.4	2.2	5.1	1.4
			4. 古典	7.8	11.7	2.6	8.7	7.2
			5. 世界史	4.5	3.4	5.9	4.9	4.1
			6. 日本史	1.5	0.8	2.3	1.0	1.8
			7. 地理	0.4	0.5	0.3	0.1	0.6
			8. 現代社会	0.6	0.1	1.4	0.9	0.5
			9. 倫理	4.7	5.2	4.0	5.5	4.1
			10. 政治経済	2.9	2.9	2.9	3.1	2.7
			11. 数学	14.6	11.3	19.2	14.3	15.0
			12. 物理	10.5	6.1	16.4	8.2	12.1
			13. 化学	7.4	5.4	10.1	6.8	7.7
			14. 生物	1.2	0.8	1.6	1.2	1.2
			15. 地学	1.1	0.8	1.4	0.7	1.3
			16. 体育	3.7	2.7	5.1	2.9	4.2
			17. 保健	1.0	0.6	1.5	0.7	1.2
			18. 音楽	2.5	3.2	1.6	2.9	2.3
			19. 美術	4.3	5.2	3.0	4.5	4.1
			20. 工芸	1.5	2.3	0.5	1.5	1.6
			21. 書道	4.0	5.2	2.5	3.9	4.1
			22. 英語	5.4	6.7	3.7	4.4	6.1
			23. オーラル・コミュニケーション	3.9	5.3	2.1	5.5	2.8
			24. リーディング	1.5	1.8	1.1	1.6	1.5
			25. ライティング	2.7	3.2	2.1	2.0	3.1
			26. 家庭一般	2.1	2.9	1.0	1.5	2.5
			27. 生活技術	0.9	0.8	1.0	0.6	1.1
			28. 生活一般	1.6	2.0	1.1	1.7	1.6
4	習熟度別についての意見	習熟度別	1. やっている	2.0	1.8	2.2	0.4	3.0
		2. やっていない	98.0	98.2	97.8	99.6	97.0	
		やっている教科	1. 国語	0.3	0.2	0.2	0.0	0.4
			2. 地歴・公民	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
			3. 数学	1.2	1.3	0.6	0.5	1.6
			4. 理科	0.3	0.3	0.1	0.0	0.4
			5. 英語	0.4	0.2	0.5	0.0	0.7
			6. 芸術	0.1	0.2	0.0	0.0	0.2
			7. 体育	0.4	0.0	0.6	0.0	0.6
			8. 家庭科	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
		業に賛成か	1. とても賛成	9.2	11.6	6.1	8.4	9.6
			2. わりと賛成	27.1	24.0	30.9	25.0	28.5
			3. どちらともいえない	46.7	44.0	50.4	44.2	48.5
4. あまり賛成でない	9.3		8.9	9.8	11.9	7.6		
5. まったく賛成でない	7.7		11.5	2.8	10.5	5.8		
5	成績評価について	本に成績を基とする	1. とてもそう思う	31.9	36.2	26.1	30.1	33.0
			2. わりとそう思う	52.1	47.3	58.6	50.3	53.5
			3. あまりそう思わない	12.7	11.9	13.8	16.1	10.4
			4. まったくそう思わない	3.3	4.6	1.5	3.5	3.1
		態度・意欲を加える	1. とてもそう思う	9.9	10.9	8.5	12.3	8.2
			2. わりとそう思う	33.4	30.0	37.9	37.3	30.8
			3. あまりそう思わない	39.3	37.7	41.5	33.9	43.0
			4. まったくそう思わない	17.4	21.4	12.1	16.5	18.0

資料2 基礎集計表①

質問項目			全 体	性 別		学 年 別		
				男 子	女 子	1 年	2 年	
5	成績評価について	出席点も加える	1. とてもそう思う	22.8	23.8	21.5	21.9	23.4
			2. わりとそう思う	41.9	36.6	49.0	37.9	44.5
			3. あまりそう思わない	23.4	24.4	22.0	26.7	21.2
			4. まったくそう思わない	11.9	15.2	7.5	13.5	10.9
		ノート加える方も	1. とてもそう思う	2.7	3.4	1.9	3.6	2.1
			2. わりとそう思う	9.5	7.4	12.2	11.5	8.1
			3. あまりそう思わない	37.0	34.7	40.0	35.4	38.0
			4. まったくそう思わない	50.8	54.5	45.9	49.5	51.8
		生徒自身を評価する	1. とてもそう思う	8.7	10.8	5.9	9.3	8.3
			2. わりとそう思う	18.3	17.9	18.9	18.0	18.5
			3. あまりそう思わない	40.0	36.2	44.9	39.9	40.0
			4. まったくそう思わない	33.0	35.1	30.3	32.8	33.2
		レポートを出しただけを加える	1. とてもそう思う	28.0	25.8	30.9	35.3	23.0
			2. わりとそう思う	51.4	48.0	55.9	49.6	52.7
			3. あまりそう思わない	13.1	15.0	10.7	8.9	16.0
			4. まったくそう思わない	7.5	11.2	2.5	6.2	8.3
無遅刻無欠席を評価する	1. とてもそう思う	13.3	15.6	10.2	13.2	13.4		
	2. わりとそう思う	26.0	24.6	27.7	22.5	28.3		
	3. あまりそう思わない	34.9	30.4	41.1	35.1	34.7		
	4. まったくそう思わない	25.8	29.4	21.0	29.2	23.6		
自主的にレポートを上げる評価	1. とてもそう思う	21.3	22.5	19.7	25.9	18.2		
	2. わりとそう思う	43.3	39.8	48.1	41.7	44.6		
	3. あまりそう思わない	23.9	22.9	25.2	21.5	25.4		
	4. まったくそう思わない	11.5	14.8	7.0	10.9	11.8		
6	教科書についての意見	最後まで読んでいる	1. とてもそう思う	28.1	30.3	25.2	28.3	28.0
			2. わりとそう思う	28.6	27.7	29.7	28.3	28.7
			3. どちらともいえない	27.3	25.6	29.5	27.5	27.2
			4. あまりそう思わない	11.1	9.2	13.8	11.3	11.0
			5. まったくそう思わない	4.9	7.2	1.8	4.6	5.1
		受験勉強に役立つ	1. とてもそう思う	14.1	14.3	13.8	13.9	14.2
			2. わりとそう思う	39.8	37.6	42.9	37.0	41.7
			3. どちらともいえない	28.9	28.3	29.7	31.4	27.2
			4. あまりそう思わない	12.7	12.9	12.4	14.5	11.5
			5. まったくそう思わない	4.5	6.9	1.2	3.2	5.4
		卒業後も大切に保存したい	1. とてもそう思う	8.9	7.8	10.2	10.3	7.9
			2. わりとそう思う	18.1	16.1	20.8	21.1	16.1
			3. どちらともいえない	28.6	27.3	30.3	25.7	30.5
			4. あまりそう思わない	24.1	23.9	24.5	23.4	24.6
			5. まったくそう思わない	20.3	24.9	14.2	19.5	20.9
		資料集や参考書の方が役立つ	1. とてもそう思う	13.4	16.4	9.3	11.6	14.5
			2. わりとそう思う	29.1	29.2	28.9	29.7	28.7
			3. どちらともいえない	44.7	40.5	50.5	42.6	46.3
			4. あまりそう思わない	10.1	10.3	9.8	12.9	8.2
			5. まったくそう思わない	2.7	3.6	1.5	3.2	2.3
教科書はわかりやすい	1. とてもそう思う	6.8	8.0	5.2	9.0	5.4		
	2. わりとそう思う	26.2	26.1	26.2	28.8	24.4		
	3. どちらともいえない	41.1	38.9	44.1	39.0	42.4		
	4. あまりそう思わない	19.7	18.3	21.6	17.5	21.2		
	5. まったくそう思わない	6.2	8.7	2.9	5.7	6.6		

資料2 基礎集計表①

質問項目		全 体	性 別		学 年 別			
			男 子	女 子	1 年	2 年		
6	教科書についての意見 読んでいないもつまらない	1. とてもそう思う	17.1	20.3	12.8	16.4	17.6	
		2. わりとそう思う	26.6	25.5	28.1	26.7	26.6	
		3. どちらともいえない	35.6	34.2	37.5	36.1	35.2	
		4. あまりそう思わない	16.4	14.4	19.1	16.2	16.6	
		5. まったくそう思わない	4.3	5.6	2.5	4.6	4.0	
	は多すぎる	1. とてもそう思う	10.5	11.6	9.0	10.3	10.6	
		2. わりとそう思う	16.2	15.2	17.6	14.5	17.3	
		3. どちらともいえない	44.1	42.4	46.4	43.4	44.7	
		4. あまりそう思わない	22.2	22.5	21.8	24.7	20.5	
		5. まったくそう思わない	7.0	8.3	5.2	7.1	6.9	
7	成 績	1. 上の方	6.3	7.5	4.6	5.9	6.5	
		2. 中の上	19.8	18.9	21.0	20.1	19.6	
		3. 中	33.6	30.2	38.4	33.9	33.6	
		4. 中の下	21.9	21.8	21.9	21.3	22.2	
		5. 下の方	18.4	21.6	14.1	18.8	18.1	
8	希望する卒業後の進路	1. 4年制大学(国公立)	71.8	74.7	68.0	85.3	62.7	
		2. 4年制大学(私立)	20.6	18.9	22.8	5.8	30.6	
		3. 短期大学	0.8	0.0	1.9	0.3	1.2	
		4. 専修・専門学校	1.9	1.1	2.9	1.0	2.4	
		5. 就職	0.5	0.7	0.3	0.6	0.5	
		6. 未定	4.4	4.6	4.1	7.0	2.6	
	門	希望する学部・学科・専	1. 人文・社会系	24.2	15.9	35.4	19.4	27.5
		2. 法経系	13.7	18.6	7.3	11.5	15.2	
		3. 理工系	26.0	38.6	9.0	23.7	27.5	
		4. 医薬系	15.4	11.2	21.0	21.8	11.0	
		5. 教員養成系	5.7	4.1	7.8	5.4	5.9	
		6. 家政系	1.8	0.0	4.1	0.7	2.4	
		7. 芸術系	3.0	1.3	5.3	3.8	2.5	
		8. その他	5.1	4.6	5.9	4.4	5.7	
9. 未定	5.1	5.7	4.2	9.3	2.3			
9	どの科目を受けているか	1年生のとき	1. 世界史	54.8	57.3	51.9	44.9	61.5
			2. 日本史	0.5	0.8	0.0	0.0	0.8
			3. 地理	2.7	1.1	4.9	0.4	4.3
			4. 倫理	20.6	21.0	19.9	50.3	0.7
			5. 政治経済	1.8	1.4	2.2	4.4	0.0
			6. 現代社会	19.6	18.4	21.1	0.0	32.7
	2年生のとき	1. 世界史	56.6	49.5	65.7	48.6	59.2	
		2. 日本史	17.4	19.0	15.3	20.7	16.3	
		3. 地理	25.9	31.4	19.0	30.7	24.4	
		4. 倫理	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		5. 政治経済	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		6. 現代社会	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1	
	受験予定	1. 世界史	24.5	21.8	27.9	28.1	23.0	
		2. 日本史	30.0	29.0	31.1	27.1	31.0	
		3. 地理	30.5	35.6	24.0	33.4	29.4	
		4. 倫理	1.5	1.5	1.6	0.7	1.9	
		5. 政治経済	3.1	3.0	3.2	2.9	3.2	
	6. 現代社会	0.1	0.2	0.0	0.2	0.1		
	7. 社会科では受験しない	10.3	8.9	12.2	7.6	11.4		

資料2 基礎集計表①

質問項目			全 体	性 別		学 年 別		
				男 子	女 子	1 年	2 年	
10	好きか 社会科が	1. とても好き	14.1	17.3	9.8	14.0	14.2	
		2. かなり好き	19.4	22.8	14.8	18.8	19.7	
		3. やや好き	38.7	35.3	43.2	38.7	38.7	
		4. あまり好きでない	19.8	16.8	23.9	20.5	19.4	
		5. まったく好きでない	8.0	7.8	8.3	8.0	8.0	
11	社会科についてどう思うか	とが暗記するこ が多い	1. とてもそう思う	74.3	72.4	76.9	71.3	76.3
		2. 少しそう思う	22.5	22.9	22.0	24.2	21.4	
		3. あまりそう思わない	2.4	3.5	1.0	3.8	1.5	
		4. まったくそう思わない	0.8	1.2	0.1	0.7	0.8	
		容識受 が多験を い内意	1. とてもそう思う	12.5	12.6	12.4	9.0	14.9
		2. 少しそう思う	35.5	35.3	35.6	26.7	41.4	
		3. あまりそう思わない	46.9	45.6	48.7	56.5	40.4	
		4. まったくそう思わない	5.1	6.5	3.3	7.8	3.3	
		てが先生 い説生だ る明しけ	1. とてもそう思う	40.9	41.7	39.8	45.8	37.5
		2. 少しそう思う	41.6	40.3	43.2	39.4	43.0	
		3. あまりそう思わない	15.6	15.7	15.6	13.2	17.3	
		4. まったくそう思わない	1.9	2.3	1.4	1.6	2.2	
		を内容に 持てに興 てない味	1. とてもそう思う	12.0	12.0	11.9	14.5	10.3
		2. 少しそう思う	22.6	20.7	25.1	24.8	21.1	
		3. あまりそう思わない	44.4	44.4	44.6	39.7	47.6	
		4. まったくそう思わない	21.0	22.9	18.4	21.0	21.0	
		多る教 すこと えら ざる がれ	1. とてもそう思う	30.3	30.2	30.4	28.8	31.3
		2. 少しそう思う	38.9	39.0	38.9	38.6	39.1	
		3. あまりそう思わない	25.2	23.8	27.0	26.2	24.5	
		4. まったくそう思わない	5.6	7.0	3.7	6.4	5.1	
		よ関社 う心会 にな持 る動 たるに	1. とてもそう思う	15.2	16.5	13.4	22.9	10.0
		2. 少しそう思う	36.9	36.1	38.1	40.9	34.4	
		3. あまりそう思わない	34.9	33.1	37.3	25.8	41.0	
		4. まったくそう思わない	13.0	14.3	11.2	10.4	14.6	
ら知専 れ識門 るが的 得な	1. とてもそう思う	20.2	23.5	15.8	24.8	17.2		
2. 少しそう思う	43.3	40.4	47.0	43.9	42.7			
3. あまりそう思わない	29.7	27.5	32.7	25.1	32.9			
4. まったくそう思わない	6.8	8.6	4.5	6.2	7.2			
てい先生 いる工 は夫 し	1. とてもそう思う	11.9	12.0	11.6	12.3	11.5		
2. 少しそう思う	34.6	34.8	34.4	36.4	33.4			
3. あまりそう思わない	37.9	35.9	40.6	36.8	38.7			
4. まったくそう思わない	15.6	17.3	13.4	14.5	16.4			
12	どのような授業方法がよいか	の論生徒 あるや話同 授業し士の 合いの討	1. とてもよい	20.4	21.7	18.6	24.2	17.8
		2. 少しよい	38.7	36.9	41.0	38.4	38.8	
		3. あまりよくない	28.5	27.2	30.3	27.5	29.2	
		4. ぜんぜんよくない	12.4	14.2	10.1	9.9	14.2	
		の発生徒 ある表徒 授業やによる 報告	1. とてもよい	14.0	14.1	13.9	16.4	12.4
		2. 少しよい	34.9	34.1	35.9	37.2	33.3	
		3. あまりよくない	35.5	34.6	36.8	34.1	36.5	
		4. ぜんぜんよくない	15.6	17.2	13.4	12.3	17.8	
		業を視 使聴 った算 授材	1. とてもよい	37.3	33.9	41.8	39.2	36.0
		2. 少しよい	45.5	45.5	45.6	43.4	47.0	
		3. あまりよくない	13.0	14.6	10.8	13.5	12.6	
		4. ぜんぜんよくない	4.2	6.0	1.8	3.9	4.4	

資料2 基礎集計表①

質問項目			全 体	性 別		学 年 別		
				男 子	女 子	1 年	2 年	
12	どのような授業方法がよいか	講義中心の授業	1. とてもよい	8.7	8.7	8.7	6.5	10.2
			2. 少しよい	35.9	35.3	36.7	30.1	39.8
			3. あまりよくない	42.7	42.3	43.3	45.9	40.6
			4. ぜんぜんよくない	12.7	13.7	11.3	17.5	9.4
		問題演習中心の授業	1. とてもよい	7.9	10.2	4.8	6.5	8.8
			2. 少しよい	28.4	29.4	27.2	20.6	33.7
			3. あまりよくない	42.8	39.4	47.2	43.0	42.6
			4. ぜんぜんよくない	20.9	21.0	20.8	29.9	14.9
		受験対策中心の授業	1. とてもよい	13.8	15.6	11.4	8.3	17.5
			2. 少しよい	37.5	35.9	39.7	30.1	42.6
			3. あまりよくない	31.4	29.8	33.6	36.7	27.8
			4. ぜんぜんよくない	17.3	18.7	15.3	24.9	12.1
考える機会を確保する授業	1. とてもよい	39.4	37.8	41.7	44.4	36.1		
	2. 少しよい	43.8	42.3	45.7	40.9	45.7		
	3. あまりよくない	12.0	13.7	9.7	10.3	13.1		
	4. ぜんぜんよくない	4.8	6.2	2.9	4.4	5.1		
専門的な知識を得られない授業	1. とてもよい	22.5	24.8	19.4	25.5	20.5		
	2. 少しよい	48.5	45.6	52.6	45.9	50.2		
	3. あまりよくない	23.6	22.3	25.3	24.1	23.3		
	4. ぜんぜんよくない	5.4	7.3	2.7	4.5	6.0		
教養を高める授業	1. とてもよい	41.4	39.1	44.6	45.3	38.8		
	2. 少しよい	46.5	45.2	48.1	42.5	49.2		
	3. あまりよくない	8.8	10.7	6.2	9.3	8.4		
	4. ぜんぜんよくない	3.3	5.0	1.1	2.9	3.6		
13	社会科の科目のイメージ	一番好きな科目	1. 世界史	21.0	17.3	26.0	13.3	26.2
			2. 日本史	33.5	35.5	30.7	34.5	32.8
			3. 地理	24.4	26.9	21.1	26.4	23.1
			4. 倫理	8.3	7.4	9.4	6.3	9.6
			5. 政治経済	10.3	11.2	9.2	17.5	5.5
			6. 現代社会	2.5	1.7	3.6	2.0	2.8
		一番嫌いな科目	1. 世界史	22.3	21.6	23.3	23.6	21.5
			2. 日本史	11.0	11.9	9.7	7.5	13.3
			3. 地理	13.1	11.6	15.0	11.3	14.3
			4. 倫理	23.7	28.3	17.5	27.8	21.0
			5. 政治経済	20.4	17.1	24.8	19.8	20.7
			6. 現代社会	9.5	9.5	9.7	10.0	9.2
		受験に一番役立つ科目	1. 世界史	26.3	21.6	32.6	27.3	25.7
			2. 日本史	27.5	25.6	30.0	23.4	30.2
			3. 地理	31.7	36.2	26.0	33.5	30.5
			4. 倫理	3.4	4.0	2.5	3.3	3.4
			5. 政治経済	8.9	10.5	6.6	9.5	8.5
			6. 現代社会	2.2	2.1	2.3	3.0	1.7
受験に一番役立たない科目	1. 世界史	8.8	10.2	6.9	9.5	8.3		
	2. 日本史	9.0	9.8	7.8	6.1	10.8		
	3. 地理	6.8	6.6	7.1	4.6	8.3		
	4. 倫理	45.2	46.5	43.4	52.0	40.8		
	5. 政治経済	8.0	7.4	8.9	8.9	7.4		
	6. 現代社会	22.2	19.5	25.9	18.9	24.4		

資料2 基礎集計表①

質問項目		全体	性別		学年別			
			男子	女子	1年	2年		
13	社会科の科目のイメージ	将来一番役立ちそうな科目	1.世界史	4.8	4.3	5.5	3.7	5.6
			2.日本史	4.2	5.1	2.9	3.4	4.7
			3.地理	13.0	14.3	11.3	11.3	14.2
			4.倫理	7.9	9.0	6.3	8.0	7.7
			5.政治経済	53.3	51.9	55.2	55.9	51.5
			6.現代社会	16.8	15.4	18.8	17.7	16.3
		科目が考えさせられることが多い	1.世界史	7.9	7.0	9.2	5.1	9.8
			2.日本史	7.5	8.5	6.2	6.3	8.4
			3.地理	3.4	4.0	2.5	1.8	4.4
			4.倫理	35.4	37.3	33.1	38.8	33.2
			5.政治経済	24.0	24.7	22.9	34.1	17.1
			6.現代社会	21.8	18.5	26.1	13.9	27.1
		一番教養を高められそうな科目	1.世界史	10.0	7.9	12.8	8.1	11.3
			2.日本史	10.5	10.9	10.0	10.4	10.6
			3.地理	7.5	8.5	6.3	6.1	8.5
			4.倫理	22.6	24.6	19.9	25.5	20.7
			5.政治経済	34.1	32.5	36.2	37.9	31.5
			6.現代社会	15.3	15.6	14.8	12.0	17.4
一番進度が速そうな科目	1.世界史	41.4	37.0	47.3	48.9	36.4		
	2.日本史	21.1	22.1	19.8	18.4	22.9		
	3.地理	12.3	12.8	11.6	10.4	13.5		
	4.倫理	6.4	8.5	3.6	5.6	6.9		
	5.政治経済	10.5	11.5	9.2	9.6	11.2		
	6.現代社会	8.3	8.1	8.5	7.1	9.1		
14	学校で習う語学(英語)の授業	時間数 週あたりの総授業	1.4時間以下	6.7	7.0	6.2	5.0	7.8
			2.5時間	37.1	37.0	37.2	27.1	43.8
			3.6時間	45.6	46.3	44.6	64.0	33.3
			4.7時間	4.4	4.7	4.0	1.3	6.5
			5.8時間	1.6	1.7	1.5	0.1	2.7
			6.9時間	2.8	1.9	4.0	1.3	3.7
			7.10時間	0.6	0.3	1.1	0.0	1.0
			8.11時間以上	1.2	1.1	1.4	1.2	1.2
		外国語の授業の時間数/月	1.教わらない	41.6	41.1	42.1	11.5	61.4
			2.1~2時間	37.8	38.3	37.2	44.8	33.2
			3.3~4時間	8.8	8.6	9.2	19.6	1.7
			4.5~6時間	9.0	10.0	7.7	22.0	0.4
			5.7時間以上	2.8	2.0	3.8	2.1	3.3
		英語が好きか	1.とても好き	7.1	4.6	10.4	8.7	6.0
			2.かなり好き	12.4	10.0	15.7	14.0	11.4
			3.やや好き	37.8	35.9	40.3	40.0	36.3
			4.あまり好きでない	30.7	32.7	27.9	26.2	33.8
			5.まったく好きでない	12.0	16.8	5.7	11.1	12.5
中学時代	1.とても好き	26.4	19.7	35.3	27.9	25.4		
	2.かなり好き	19.4	18.8	20.2	18.8	19.8		
	3.やや好き	29.4	30.1	28.5	28.5	30.0		
	4.あまり好きでない	17.0	19.9	13.3	16.7	17.3		
	5.まったく好きでない	7.8	11.5	2.7	8.1	7.5		
英語以外に言いたい語	1.ある	59.8	53.6	68.1	56.5	62.0		
	2.ない	40.2	46.4	31.9	43.5	38.0		

資料2 基礎集計表①

質問項目		全 体	性 別		学 年 別			
			男 子	女 子	1 年	2 年		
15	英語の授業に望むこと	進めゆつくり度	1. とても望む	21.1	23.0	18.5	24.3	18.9
			2. まあ望む	44.8	43.1	47.1	45.2	44.5
			3. あまり望まない	27.9	27.4	28.6	25.3	29.8
			4. ぜんぜん望まない	6.2	6.5	5.8	5.2	6.8
		るを教える内容	1. とても望む	13.8	17.0	9.5	14.1	13.6
			2. まあ望む	23.5	24.1	22.6	22.9	23.9
			3. あまり望まない	49.1	45.5	53.8	49.8	48.6
			4. ぜんぜん望まない	13.6	13.4	14.1	13.2	13.9
		必ず訳す	1. とても望む	28.7	32.1	24.1	27.2	29.7
			2. まあ望む	34.6	32.9	37.0	30.7	37.3
			3. あまり望まない	26.5	24.5	29.2	30.2	24.0
			4. ぜんぜん望まない	10.2	10.5	9.7	11.9	9.0
		をやる	1. とても望む	14.5	14.4	14.6	13.2	15.3
			2. まあ望む	35.1	33.0	37.9	30.5	38.2
			3. あまり望まない	35.6	35.8	35.3	38.2	33.9
			4. ぜんぜん望まない	14.8	16.8	12.2	18.1	12.6
つとやる	1. とても望む	28.9	28.8	29.0	22.9	32.9		
	2. まあ望む	42.9	42.9	43.0	38.7	45.8		
	3. あまり望まない	20.5	18.5	23.1	28.0	15.4		
	4. ぜんぜん望まない	7.7	9.8	4.9	10.4	5.9		
授業	1. とても望む	30.0	32.4	26.7	19.0	37.4		
	2. まあ望む	43.4	40.6	47.1	42.0	44.2		
	3. あまり望まない	19.1	17.4	21.4	28.1	13.1		
	4. ぜんぜん望まない	7.5	9.6	4.8	10.9	5.3		
入会	1. とても望む	20.5	17.6	24.4	23.0	18.8		
	2. まあ望む	31.3	28.3	35.2	34.3	29.2		
	3. あまり望まない	29.8	30.7	28.6	28.0	31.0		
	4. ぜんぜん望まない	18.4	23.4	11.8	14.7	21.0		
に外	1. とても望む	24.8	18.0	34.0	27.0	23.4		
	2. まあ望む	35.7	32.3	40.0	35.5	35.6		
	3. あまり望まない	25.9	31.1	19.0	25.7	26.2		
	4. ぜんぜん望まない	13.6	18.6	7.0	11.8	14.8		
をビ	1. とても望む	20.5	16.1	26.4	20.1	20.7		
	2. まあ望む	33.8	29.4	39.8	35.5	32.7		
	3. あまり望まない	30.8	34.2	26.1	30.6	30.9		
	4. ぜんぜん望まない	14.9	20.3	7.7	13.8	15.7		
をバ	1. とても望む	32.7	30.7	35.3	35.1	31.2		
	2. まあ望む	31.6	29.3	34.8	33.0	30.6		
	3. あまり望まない	22.1	23.2	20.6	20.3	23.2		
	4. ぜんぜん望まない	13.6	16.8	9.3	11.6	15.0		
16	ふだんの英語の学習	ノート	1. 必ずとる	41.3	30.8	55.3	48.3	36.5
			2. まあとる	32.8	33.5	31.9	29.9	34.8
			3. あまりとらない	15.9	20.9	9.1	13.0	17.8
			4. ぜんぜんとらない	10.0	14.8	3.7	8.8	10.9
		授業の復習	1. 必ずやる	4.4	3.8	5.2	4.6	4.2
			2. まあやる	24.7	21.7	28.6	28.4	22.2
			3. あまりやらない	47.9	47.4	48.6	46.7	48.7
			4. ぜんぜんやらない	23.0	27.1	17.6	20.3	24.9

資料2 基礎集計表①

質問項目			全 体	性 別		学 年 別		
				男 子	女 子	1 年	2 年	
16	学習 ふだんの英語の 予習にかける時間	1. やらない	16.8	21.9	9.9	12.5	19.7	
		2. 30分以下	21.4	24.5	17.3	15.4	25.5	
		3. 30分～1時間	38.3	35.8	41.7	38.6	38.1	
		4. 1時間～1時間30分	17.3	13.3	22.6	25.0	12.1	
		5. 1時間30分～2時間	4.7	3.0	7.1	7.2	3.1	
		6. 2時間以上	1.5	1.5	1.4	1.3	1.5	
17	番組のオヤテ 組語なラレ 学どジビ	1. いつも視聴している	5.2	4.8	5.7	5.4	5.1	
		2. とときどき視聴している	21.1	14.7	29.7	19.7	22.0	
		3. 視聴していない	73.7	80.5	64.6	74.9	72.9	
18	英 語 に 関 す る 意 見	すな英語は れ人が勉 が得意 よ強意	1. とてもそう思う	7.6	10.4	4.0	7.0	8.1
			2. かなりそう思う	12.0	13.9	9.5	11.2	12.6
			3. あまりそう思わない	56.6	50.4	64.9	54.3	58.0
			4. ぜんぜんそう思わない	23.8	25.3	21.6	27.5	21.3
		ん辞大 でも書学 もを持入 よ持ち試 い込では	1. とてもそう思う	40.4	44.6	34.7	38.8	41.5
			2. かなりそう思う	28.0	22.1	36.0	27.2	28.6
			3. あまりそう思わない	21.7	21.6	21.8	22.2	21.4
			4. ぜんぜんそう思わない	9.9	11.7	7.5	11.8	8.5
		方ド教 がは科 よは書 いあガ ったイ	1. とてもそう思う	22.2	26.4	16.5	17.7	25.2
			2. かなりそう思う	29.2	30.5	27.3	25.8	31.4
			3. あまりそう思わない	35.6	30.2	42.8	38.0	34.0
			4. ぜんぜんそう思わない	13.0	12.9	13.4	18.5	9.4
		に験英 しは語 ない必 須は 科目大 目受	1. とてもそう思う	19.7	25.6	11.9	19.7	19.7
			2. かなりそう思う	19.6	20.1	18.9	17.1	21.3
			3. あまりそう思わない	38.9	34.3	45.0	38.3	39.3
			4. ぜんぜんそう思わない	21.8	20.0	24.2	24.9	19.7
		な話学 らせる校 よだけ うには	1. とてもそう思う	69.6	68.8	70.6	65.1	72.6
			2. かなりそう思う	23.4	22.8	24.2	26.7	21.2
			3. あまりそう思わない	6.0	6.7	4.9	7.0	5.2
			4. ぜんぜんそう思わない	1.0	1.7	0.3	1.2	1.0
		がム授 力がステ業 がイより つくホ の方	1. とてもそう思う	59.3	56.9	62.4	54.9	62.2
			2. かなりそう思う	26.2	25.3	27.4	28.0	25.0
			3. あまりそう思わない	12.1	14.4	9.1	14.6	10.5
			4. ぜんぜんそう思わない	2.4	3.4	1.1	2.5	2.3
がの「 力がク習 がラス熟 つくス度 の方別	1. とてもそう思う	16.0	17.8	13.7	14.2	17.2		
	2. かなりそう思う	27.8	27.3	28.5	23.2	30.9		
	3. あまりそう思わない	42.6	37.4	49.5	45.2	40.8		
	4. ぜんぜんそう思わない	13.6	17.5	8.3	17.4	11.1		
少人 に数 する クラ	1. とてもそう思う	26.4	23.8	29.9	23.5	28.3		
	2. かなりそう思う	27.4	25.4	30.0	25.9	28.4		
	3. あまりそう思わない	35.0	35.8	33.8	35.9	34.3		
	4. ぜんぜんそう思わない	11.2	15.0	6.3	14.7	9.0		
も諸ア 学校国ジ で言ア 近 葉隣	1. とてもそう思う	20.9	16.2	27.1	19.7	21.7		
	2. かなりそう思う	21.9	19.8	24.8	19.6	23.5		
	3. あまりそう思わない	36.1	37.2	34.7	35.7	36.4		
	4. ぜんぜんそう思わない	21.1	26.8	13.4	25.0	18.4		
評資英 価格検 はな に成 する績の	1. とてもそう思う	7.8	8.6	6.8	7.6	8.0		
	2. かなりそう思う	15.3	16.2	13.2	14.0	16.1		
	3. あまりそう思わない	44.5	39.6	51.3	43.7	45.1		
	4. ぜんぜんそう思わない	32.4	35.6	28.7	34.7	30.8		

資料2 基礎集計表①

質問項目			全 体	性 別		学 年 別		
				男 子	女 子	1 年	2 年	
19	小学校からの英語の勉強について	小学校から始める	1. とてもそう思う	17.4	18.9	15.4	17.0	17.7
			2. かなりそう思う	31.4	27.0	37.2	30.5	32.0
			3. あまりそう思わない	35.4	33.3	38.3	33.6	36.5
			4. ぜんぜんそう思わない	15.8	20.8	9.1	18.9	13.8
		幼稚園から始める	1. とてもそう思う	31.0	34.1	26.9	27.4	33.5
			2. かなりそう思う	22.1	20.5	24.1	19.7	23.6
			3. あまりそう思わない	25.1	21.5	30.0	25.1	25.1
			4. ぜんぜんそう思わない	21.8	23.9	19.0	27.8	17.8
		多言語嫌いだ	1. とてもそう思う	17.8	22.9	11.1	20.3	16.1
			2. かなりそう思う	19.6	20.3	18.6	20.8	18.8
			3. あまりそう思わない	47.1	41.8	54.2	44.0	49.3
			4. ぜんぜんそう思わない	15.5	15.0	16.1	14.9	15.8
つわりや重要だ	1. とてもそう思う	32.1	36.0	26.9	35.2	30.0		
	2. かなりそう思う	31.8	30.2	33.8	29.6	33.2		
	3. あまりそう思わない	29.7	26.6	33.8	26.2	32.1		
	4. ぜんぜんそう思わない	6.4	7.2	5.5	9.0	4.7		
受検英語だけ	1. とてもそう思う	34.6	40.5	26.7	36.7	33.2		
	2. かなりそう思う	31.1	28.1	35.1	29.5	32.2		
	3. あまりそう思わない	27.0	22.6	32.9	26.2	27.6		
	4. ぜんぜんそう思わない	7.3	8.8	5.3	7.6	7.0		
20	外国へ行った経験	どこへ行ったか	1. 行ったことがない	78.1	81.9	72.7	76.7	78.8
			2. 1回	13.6	10.6	17.7	13.5	13.7
			3. 2回	4.4	3.6	5.5	4.8	4.1
			4. 3回	1.6	1.3	2.1	1.9	1.5
			5. 4回以上	2.3	2.6	2.0	3.1	1.9
	滞在したか	どのくらいの期間	1. 1週間以内	35.4	39.4	31.8	48.8	25.7
			2. 1～2週間	41.1	37.2	44.4	30.6	48.6
			3. 1か月以内	10.6	7.3	13.7	5.6	14.2
			4. 1か月～半年	2.6	2.2	3.0	2.5	2.8
			5. 半年～1年	1.3	1.7	1.0	3.1	0.0
			6. 1年～2年	1.9	3.3	0.5	2.5	1.4
			7. 2年以上	7.1	8.9	5.6	6.9	7.3
	21	履修の音楽の	1. 必修科目で履修している	1.3	1.1	1.5	0.7	1.7
			2. 選択科目で履修している	31.9	29.5	35.2	35.8	29.4
3. 履修していない			66.8	69.4	63.3	63.5	68.9	
22	音楽を選択した理由	1. 音楽が好きだから	63.3	52.4	75.6	67.2	60.3	
		2. 授業が楽しそうだから	29.0	24.1	34.4	24.5	32.4	
		3. 友だちと一緒に履修	3.2	3.7	2.7	5.4	1.6	
		4. 授業が楽しそうだから	25.4	27.9	22.5	24.9	25.7	
		5. 試験がなさそうだから	8.3	11.9	4.2	9.1	7.6	
		6. 持ち物が少なそうだから	10.8	10.9	10.7	8.3	12.7	
		7. 他の選択科目が嫌いだから	37.4	42.9	31.3	40.7	34.9	
		8. 他の選択科目がとれなかったから	1.8	2.7	0.8	0.0	3.2	
9. その他	6.7	6.1	7.3	7.1	6.3			
23	授業あたりの週あたりの	1. 1時間	16.8	17.2	16.2	5.9	25.0	
		2. 2時間	80.7	80.4	81.1	88.6	74.7	
		3. 3時間	1.8	1.4	2.3	3.8	0.3	
		4. 4時間	0.7	1.0	0.4	1.7	0.0	

資料2 基礎集計表①

質問項目			全 体	性 別		学 年 別		
				男 子	女 子	1 年	2 年	
24	よく扱っていた活動	活動 一番よく扱った	1. 歌唱	50.8	49.9	52.1	45.3	55.2
		2. 器楽	19.8	20.0	19.6	36.6	6.9	
		3. 鑑賞	22.0	21.0	23.0	16.9	25.9	
		4. 創作	0.2	0.3	0.0	0.0	0.3	
		5. 音楽理論や音楽史	6.3	7.1	5.3	0.8	10.4	
		6. その他	0.9	1.7	0.0	0.4	1.3	
	扱った活動	二番目によく	1. 歌唱	21.8	23.3	20.1	39.5	8.2
		2. 器楽	36.6	39.2	33.7	48.6	27.4	
		3. 鑑賞	27.1	24.3	30.3	9.1	41.1	
		4. 創作	1.3	1.4	1.1	1.6	0.9	
		5. 音楽理論や音楽史	12.7	10.8	14.8	0.8	21.8	
		6. その他	0.5	1.0	0.0	0.4	0.6	
25	よく扱っていたジャンル	一番よく扱ったジャンル	1. クラシック	69.1	67.8	70.8	67.5	70.7
		2. 現代音楽	10.6	10.6	10.6	13.8	8.3	
		3. 日本の伝統音楽	0.5	0.7	0.4	0.0	0.9	
		4. 民族音楽	5.8	6.5	4.9	2.1	8.6	
		5. 日本のロック	0.4	0.7	0.0	0.0	0.6	
		6. 日本のフォーク	1.1	0.7	1.5	2.1	0.3	
		7. 日本の歌謡曲	2.5	2.7	2.3	4.6	0.9	
		8. 日本の演歌	0.4	0.7	0.0	0.4	0.3	
		9. 外国のロック	0.4	0.3	0.4	0.0	0.6	
		10. 外国のポップス	3.6	4.1	3.0	3.3	3.8	
		11. ジャズ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		12. フュージョン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		13. ヘビメタル	0.4	0.7	0.0	0.4	0.3	
		14. パンク	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		15. ダンスミュージック	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		16. 主題歌	3.8	3.1	4.6	5.0	2.8	
		17. その他	1.4	1.4	1.5	0.8	1.9	
	扱ったジャンル	一番目によく扱ったジャンル	1. クラシック	16.1	17.7	14.3	16.1	16.1
		2. 現代音楽	20.2	22.6	17.1	25.1	16.4	
		3. 日本の伝統音楽	4.0	4.3	3.7	2.7	5.0	
		4. 民族音楽	13.2	14.1	12.2	2.2	21.6	
		5. 日本のロック	0.8	0.7	0.8	1.3	0.3	
		6. 日本のフォーク	3.6	3.6	3.7	5.4	2.3	
		7. 日本の歌謡曲	6.1	5.1	7.3	7.1	5.4	
		8. 日本の演歌	0.2	0.4	0.0	0.0	0.3	
		9. 外国のロック	1.3	2.2	0.4	1.8	1.0	
		10. 外国のポップス	13.4	11.9	15.1	24.1	5.4	
		11. ジャズ	1.9	1.1	2.9	0.4	3.0	
		12. フュージョン	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		13. ヘビメタル	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		14. パンク	0.2	0.4	0.0	0.0	0.3	
		15. ダンスミュージック	1.0	1.8	0.0	0.0	1.7	
		16. 主題歌	15.1	11.6	19.2	11.6	17.8	
		17. その他	2.9	2.5	3.3	2.2	3.4	

## 資料2 基礎集計表①

質問項目		全 体	性 別		学 年 別			
			男 子	女 子	1 年	2 年		
25	よく扱っていたジャンル 二 番目によく扱ったジャンル	1.クラシック	8.4	7.6	9.3	8.9	8.1	
		2.現代音楽	15.4	13.4	17.8	17.8	13.6	
		3.日本の伝統音楽	16.8	15.2	18.7	9.9	21.7	
		4.民族音楽	11.3	11.5	11.1	6.4	14.6	
		5.日本のロック	0.2	0.4	0.0	0.5	0.0	
		6.日本のフォーク	3.9	4.2	3.6	5.9	2.5	
		7.日本の歌謡曲	6.2	6.1	6.2	9.4	3.9	
		8.日本の演歌	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
		9.外国のロック	1.2	2.3	0.0	3.0	0.0	
		10.外国のポップス	10.5	11.5	9.3	14.4	7.7	
		11.ジャズ	3.1	3.8	2.2	0.0	5.3	
		12.フュージョン	0.4	0.4	0.4	0.5	0.4	
		13.ヘビーメタル	0.4	0.4	0.4	0.5	0.4	
		14.パンク	0.6	1.1	0.0	1.0	0.4	
		15.ダンスミュージック	3.5	3.4	3.6	3.0	3.9	
		16.主題歌	14.2	13.0	15.6	16.8	12.2	
		17.その他	3.9	5.7	1.8	2.0	5.3	
26	音楽の授業を受けているときの様子	たり発 り質言 す問し るした	1.よくある	1.1	2.0	0.0	0.4	1.6
			2.ときどきある	3.6	4.4	2.6	4.9	2.5
			3.あまりない	12.5	12.5	12.4	11.9	12.9
			4.ほとんどない	82.8	81.1	85.0	82.8	83.0
		感が授 難業の じる業の しい内 と容	1.よくある	14.8	21.0	7.9	16.9	13.2
			2.ときどきある	17.5	22.7	11.7	18.1	17.0
			3.あまりない	28.0	25.1	31.2	23.0	31.8
			4.ほとんどない	39.7	31.2	49.2	42.0	38.0
		感が授 簡単の じる業の 単内 だ容	1.よくある	10.6	8.5	12.9	12.0	9.5
			2.ときどきある	23.1	19.7	27.0	24.4	22.2
			3.あまりない	40.0	38.6	41.5	34.3	44.2
			4.ほとんどない	26.3	33.2	18.6	29.3	24.1
		する居 眠りを	1.よくある	13.7	18.3	8.6	11.5	15.4
			2.ときどきある	28.5	27.1	30.1	23.0	32.7
			3.あまりない	19.8	16.3	23.7	20.2	19.5
			4.ほとんどない	38.0	38.3	37.6	45.3	32.4
		いて授 業以外 るにの 関心が 向こ	1.よくある	19.6	23.0	15.8	25.5	15.0
			2.ときどきある	30.2	27.3	33.4	35.0	26.6
			3.あまりない	27.4	26.7	28.2	24.7	29.6
			4.ほとんどない	22.8	23.0	22.6	14.8	28.8
内職 をする	1.よくある	16.8	18.7	14.6	19.3	14.8		
	2.ときどきある	24.1	19.7	28.8	30.1	19.5		
	3.あまりない	25.3	25.2	25.5	23.9	26.4		
	4.ほとんどない	33.8	36.4	31.1	26.7	39.3		
いるポ ーッと ことを 考えて 他の	1.よくある	28.9	33.6	23.7	31.0	27.3		
	2.ときどきある	36.7	30.8	43.3	37.2	36.3		
	3.あまりない	19.9	20.2	19.5	19.7	20.1		
	4.ほとんどない	14.5	15.4	13.5	12.1	16.3		
する楽 しく歌 った	1.よくある	20.6	14.3	27.7	22.7	19.0		
	2.ときどきある	30.6	29.4	31.7	34.3	27.6		
	3.あまりない	21.5	24.2	18.6	28.1	16.5		
	4.ほとんどない	27.3	32.1	22.0	14.9	36.9		

資料2 基礎集計表①

質問項目			全 体	性 別		学 年 別		
				男 子	女 子	1 年	2 年	
26	音楽の授業を受けているときの様子	歌や演奏に参加しないが技術がつかないと思う	1.よくある	3.1	4.8	1.1	2.1	3.9
			2.ときどきある	8.9	10.7	6.9	9.9	8.1
			3.あまりない	28.1	33.4	22.2	29.3	27.2
			4.ほとんどない	59.9	51.1	69.8	58.7	60.8
			1.よくある	17.5	24.7	9.5	19.5	16.0
			2.ときどきある	23.7	27.5	19.5	25.3	22.4
			3.あまりない	27.5	23.7	31.7	27.4	27.6
			4.ほとんどない	31.3	24.1	39.3	27.8	34.0
27	中心にしてほしい活動	1.歌唱	39.2	31.8	47.6	34.7	42.7	
		2.器楽	27.4	23.3	31.8	26.4	28.0	
		3.鑑賞	24.7	32.7	15.7	28.1	22.1	
		4.創作	5.2	8.1	1.9	5.8	4.7	
		5.音楽理論や音楽史	2.1	2.7	1.5	2.5	1.9	
		6.その他	1.4	1.4	1.5	2.5	0.6	
	してほしい活動に一番目に中心に	1.歌唱	23.7	20.1	27.7	23.0	24.2	
		2.器楽	30.3	30.1	30.6	28.0	32.1	
		3.鑑賞	27.1	25.3	29.2	29.3	25.5	
		4.創作	9.0	12.6	4.9	8.4	9.4	
		5.音楽理論や音楽史	9.2	11.9	6.1	10.0	8.5	
		6.その他	0.7	0.0	1.5	1.3	0.3	
28	扱ってほしいジャンル	1.クラシック	25.8	23.7	28.0	25.0	26.6	
		2.現代音楽	8.8	8.1	9.5	8.3	9.1	
		3.日本の伝統音楽	1.6	1.0	2.3	2.1	1.3	
		4.民族音楽	2.1	2.4	1.9	1.7	2.5	
		5.日本のロック	5.0	7.1	2.7	5.4	4.7	
		6.日本のフォーク	13.6	16.2	10.6	17.0	11.0	
		7.日本の歌謡曲	5.2	5.7	4.6	5.0	5.3	
		8.日本の演歌	0.5	0.7	0.4	0.4	0.6	
		9.外国のロック	4.1	7.1	0.8	4.1	4.1	
		10.外国のポップス	9.8	7.4	12.5	12.0	8.2	
		11.ジャズ	3.8	3.4	4.2	2.9	4.4	
		12.フュージョン	0.4	0.7	0.0	0.4	0.3	
		13.ヘビーマタル	1.1	1.7	0.4	1.2	0.9	
		14.パンク	1.8	2.7	0.8	1.2	2.2	
		15.ダンスミュージック	2.5	2.4	2.7	1.7	3.1	
		16.主題歌	13.2	9.4	17.5	10.4	15.4	
		17.その他	0.7	0.3	1.1	1.2	0.3	

資料2 基礎集計表①

質問項目		全 体	性 別		学 年 別		
			男 子	女 子	1 年	2 年	
28	扱ってほしいジャンル 二番目に扱ってほしいジャンル	1.クラシック	11.5	8.8	14.6	7.5	14.5
		2.現代音楽	11.7	12.5	10.8	9.2	13.6
		3.日本の伝統音楽	4.7	3.7	5.8	3.8	5.4
		4.民族音楽	4.3	3.4	5.4	3.3	5.1
		5.日本のロック	5.4	8.1	2.3	5.9	5.1
		6.日本のフォーク	9.2	10.5	7.7	11.7	7.3
		7.日本の歌謡曲	5.9	6.1	5.8	6.3	5.7
		8.日本の演歌	0.4	0.7	0.0	0.8	0.0
		9.外国のロック	5.0	7.1	2.7	5.4	4.7
		10.外国のポップス	14.8	13.0	16.9	17.3	13.0
		11.ジャズ	5.4	5.4	5.4	5.9	5.1
		12.フュージョン	0.4	0.7	0.0	0.4	0.3
		13.ヘビーメタル	2.2	3.4	0.8	2.5	1.9
		14.パンク	2.0	3.4	0.4	2.1	1.9
		15.ダンスミュージック	2.9	2.7	3.1	3.3	2.5
		16.主題歌	13.7	9.5	18.3	13.8	13.6
		17.その他	0.5	1.0	0.0	0.8	0.3
	扱ってほしいジャンル 三番目に扱ってほしいジャンル	1.クラシック	12.2	12.1	12.4	13.9	10.9
		2.現代音楽	10.0	9.3	10.8	8.4	11.2
		3.日本の伝統音楽	5.5	6.6	4.2	5.5	5.4
		4.民族音楽	6.4	5.9	6.9	4.6	7.7
		5.日本のロック	4.0	5.9	1.9	5.1	3.2
		6.日本のフォーク	5.5	5.2	5.8	5.5	5.4
		7.日本の歌謡曲	4.7	4.5	5.0	5.9	3.8
		8.日本の演歌	0.7	1.0	0.4	0.8	0.6
		9.外国のロック	4.4	7.6	0.8	4.2	4.5
		10.外国のポップス	12.2	9.3	15.4	11.0	13.1
		11.ジャズ	5.3	5.2	5.4	3.8	6.4
		12.フュージョン	0.9	1.0	0.8	0.8	1.0
		13.ヘビーメタル	1.1	2.1	0.0	0.8	1.3
		14.パンク	2.6	2.8	2.3	3.8	1.6
		15.ダンスミュージック	7.1	7.9	6.2	6.8	7.4
		16.主題歌	16.7	12.9	20.9	18.7	15.5
		17.その他	0.7	0.7	0.8	0.4	1.0
29	楽しい	1.とてもそう思う	14.6	13.7	15.7	12.8	16.0
		2.ややそう思う	29.8	28.7	31.2	33.5	27.0
		3.あまりそう思わない	29.5	31.3	27.3	31.0	28.3
		4.まったくそう思わない	26.1	26.3	25.8	22.7	28.7
	退屈だ	1.とてもそう思う	30.9	34.1	27.3	26.9	34.0
		2.ややそう思う	32.5	31.1	34.1	35.1	30.5
		3.あまりそう思わない	24.6	23.9	25.5	26.0	23.6
		4.まったくそう思わない	12.0	10.9	13.1	12.0	11.9
	（リラックスできる） 安らげる	1.とてもそう思う	22.5	24.9	19.9	27.3	18.9
		2.ややそう思う	34.8	30.7	39.3	29.4	39.0
		3.あまりそう思わない	28.9	28.7	29.2	29.3	28.6
		4.まったくそう思わない	13.8	15.7	11.6	14.0	13.5
	難しい	1.とてもそう思う	12.9	18.4	6.8	13.2	12.6
		2.ややそう思う	19.9	24.2	15.0	19.4	20.2
		3.あまりそう思わない	34.3	32.5	36.5	28.1	39.1
		4.まったくそう思わない	32.9	24.9	41.7	39.3	28.1

資料2 基礎集計表①

質問項目		全 体	性 別		学 年 別		
			男 子	女 子	1 年	2 年	
30 音楽を学 校で勉 強する 意味	楽譜が読めるようになる	1. とてもそう思う	11.7	11.8	11.6	14.3	9.7
		2. ややそう思う	31.2	28.7	34.0	31.1	31.3
		3. あまりそう思わない	32.8	32.8	32.8	37.4	29.4
		4. まったくそう思わない	24.3	26.7	21.6	17.2	29.6
	歌がうまくなる	1. とてもそう思う	9.8	10.8	8.6	11.1	8.8
		2. ややそう思う	29.3	28.7	30.0	27.6	30.6
		3. あまりそう思わない	36.9	34.5	39.7	44.4	31.2
		4. まったくそう思わない	24.0	26.0	21.7	16.9	29.4
	たくさんさんのシロを知る	1. とてもそう思う	27.1	23.0	31.7	24.2	29.4
		2. ややそう思う	42.1	39.8	44.4	39.3	44.0
		3. あまりそう思わない	20.9	23.3	18.3	25.4	17.5
		4. まったくそう思わない	9.9	13.9	5.6	11.1	9.1
	楽器が演奏できる	1. とてもそう思う	13.8	13.5	14.2	19.3	9.7
		2. ややそう思う	33.2	30.4	36.1	40.9	27.2
		3. あまりそう思わない	31.2	28.7	34.0	27.5	34.0
		4. まったくそう思わない	21.8	27.4	15.7	12.3	29.1
	友達と一緒に	1. とてもそう思う	12.5	9.5	15.8	14.4	11.0
		2. ややそう思う	36.3	34.1	38.7	36.6	36.0
		3. あまりそう思わない	32.7	34.4	30.8	36.2	30.1
		4. まったくそう思わない	18.5	22.0	14.7	12.8	22.9
	幅が広がる	1. とてもそう思う	12.6	13.2	12.0	15.2	10.7
		2. ややそう思う	33.5	32.4	34.6	30.0	36.1
		3. あまりそう思わない	39.1	35.8	42.9	39.2	39.1
		4. まったくそう思わない	14.8	18.6	10.5	15.6	14.1
	役立ち	1. とてもそう思う	2.3	2.0	2.6	2.1	2.5
		2. ややそう思う	2.5	2.4	2.6	2.9	2.2
		3. あまりそう思わない	36.6	33.3	40.2	39.4	34.5
		4. まったくそう思わない	58.6	62.3	54.6	55.6	60.8
仕事に活か	1. とてもそう思う	3.9	4.1	3.8	5.3	2.8	
	2. ややそう思う	10.5	8.4	12.8	12.3	9.1	
	3. あまりそう思わない	39.3	37.5	41.4	41.7	37.6	
	4. まったくそう思わない	46.3	50.0	42.0	40.7	50.5	
日本に触れる	1. とてもそう思う	5.0	4.1	6.0	3.7	6.0	
	2. ややそう思う	26.9	20.3	34.3	19.8	32.4	
	3. あまりそう思わない	40.5	43.5	37.1	44.8	37.1	
	4. まったくそう思わない	27.6	32.1	22.6	31.7	24.5	
日本文化の理解	1. とてもそう思う	4.4	4.4	4.5	2.9	5.6	
	2. ややそう思う	21.5	15.9	27.8	16.0	25.7	
	3. あまりそう思わない	44.2	46.3	41.8	45.3	43.3	
	4. まったくそう思わない	29.9	33.4	25.9	35.8	25.4	
外国文化に	1. とてもそう思う	8.9	7.4	10.5	7.4	10.0	
	2. ややそう思う	38.2	33.4	43.7	32.5	42.7	
	3. あまりそう思わない	31.9	32.8	30.8	36.2	28.5	
	4. まったくそう思わない	21.0	26.4	15.0	23.9	18.8	
外国文化の理解	1. とてもそう思う	6.8	6.1	7.5	5.3	7.8	
	2. ややそう思う	29.5	26.0	33.5	25.1	32.9	
	3. あまりそう思わない	40.0	40.9	39.1	43.3	37.7	
	4. まったくそう思わない	23.7	27.0	19.9	26.3	21.6	

## 資料2 基礎集計表①

質問項目		全 体	性 別		学 年 別		
			男 子	女 子	1 年	2 年	
31	学校の授業以外で習った音楽活動	1. 現在習っている	9.3	4.0	16.5	11.8	7.6
		2. 以前習っていた	25.6	15.9	38.6	24.7	26.2
		3. 現在やっている	8.0	9.2	6.4	7.5	8.4
		4. 以前やっていた	6.2	6.6	5.6	6.9	5.7
		5. 現在習ったりやったり	2.8	1.1	5.2	3.5	2.4
		6. 以前習ったりやったり	10.9	6.1	17.3	12.6	9.8
		7. 経験がない	37.2	57.1	10.4	33.0	39.9
	どこで習ったか	1. 個人レッスン	54.6	39.1	64.5	53.5	55.5
		2. 音楽教室	38.0	30.2	42.9	37.3	38.5
		3. 学校の課外活動	26.2	18.8	31.0	27.0	25.6
習ったりやったりする楽器	4. 地域の活動	3.3	2.0	4.1	3.7	2.9	
	5. 友だち同士	11.6	21.6	5.2	11.3	11.8	
	6. その他	6.6	9.9	4.5	6.7	6.6	
	1. バンド系の楽器	16.2	32.1	5.6	15.9	16.3	
	2. ピアノ	71.6	52.3	84.4	74.0	69.9	
	3. ピアノ以外の鍵盤楽器	18.1	15.6	19.8	16.2	19.5	
	4. バイオリン	3.8	5.1	2.9	5.7	2.4	
	5. バイオリン以外の弦楽器	2.2	1.7	2.6	3.2	1.5	
	6. クラシックギター	5.3	10.2	2.1	5.7	5.1	
	7. 管楽器	23.0	15.3	28.1	24.6	21.9	
8. 打楽器	7.0	5.8	7.7	6.8	7.1		
9. 邦楽器	2.2	2.2	2.3	1.8	2.5		
10. その他	4.5	6.1	3.5	3.9	5.1		
32	ふだんよくCDを聴いたり、コンサートやライブに行ったりする音楽のジャンル	1. クラシック	27.5	22.4	34.1	28.1	27.1
		2. 現代音楽	21.4	20.7	22.3	20.9	21.6
		3. 日本の伝統音楽	2.4	3.6	0.9	3.1	2.0
		4. 民族音楽	3.1	4.0	1.9	4.2	2.3
		5. 日本のロック	41.3	50.8	29.0	40.8	41.7
		6. 日本のフォーク	37.7	38.1	37.1	38.9	36.8
		7. 日本の歌謡曲	26.1	20.8	33.0	21.6	29.1
		8. 日本の演歌	2.5	3.6	1.0	2.8	2.3
		9. 外国のロック	22.7	28.2	15.5	23.4	22.2
		10. 外国のポップス	33.4	29.6	38.2	35.0	32.3
		11. ジャズ	6.1	7.1	4.7	5.6	6.3
		12. フュージョン	2.1	3.2	0.6	1.3	2.6
		13. ヘビーマタル	4.6	7.3	1.0	4.2	4.8
		14. パンク	7.4	10.2	3.7	7.5	7.3
		15. ダンスミュージック	9.9	11.2	8.3	8.9	10.6
		16. 主題歌	36.5	32.0	42.2	42.0	32.8
		17. その他	6.2	8.8	2.7	7.0	5.6

資料2 基礎集計表②

〔調査票② 家庭科調査〕

単位：サンプル数以外はパーセント

質問項目		全 体	性 別			
			男 子	女 子		
①	サンプル数	618	347	271		
②	教 科	1. 一番好きな教科	1. 国語	11.6	12.0	11.2
			2. 地歴・公民	10.5	13.8	6.2
			3. 数学	9.6	10.2	8.9
			4. 理科	7.9	8.7	6.9
			5. 英語	8.8	6.9	11.2
			6. 芸術	17.7	10.5	27.0
			7. 体育	26.6	31.6	20.1
			8. 家庭科	7.3	6.3	8.5
	イ	2. 一番嫌いな教科	1. 国語	11.8	12.3	11.1
			2. 地歴・公民	16.1	13.5	19.5
			3. 数学	27.7	27.7	27.8
			4. 理科	8.7	9.6	7.6
			5. 英語	22.0	25.8	17.2
			6. 芸術	4.4	4.8	3.8
			7. 体育	6.6	3.0	11.1
			8. 家庭科	2.7	3.3	1.9
	エ	3. 一番得意な教科	1. 国語	16.6	14.6	19.2
			2. 地歴・公民	10.1	15.2	3.5
			3. 数学	16.8	17.6	15.7
			4. 理科	7.5	7.6	7.5
			5. 英語	12.3	11.9	12.9
			6. 芸術	14.6	9.1	21.6
			7. 体育	16.3	19.1	12.5
			8. 家庭科	5.8	4.9	7.1
オ	4. 一番苦手な教科	1. 国語	7.8	8.4	7.2	
		2. 地歴・公民	12.7	9.0	17.4	
		3. 数学	26.8	25.7	28.2	
		4. 理科	11.7	11.9	11.3	
		5. 英語	28.4	33.3	21.9	
		6. 芸術	4.0	5.4	2.3	
		7. 体育	6.8	3.6	10.9	
		8. 家庭科	1.8	2.7	0.8	
カ	5. 成績がよいと一番うれしい教科	1. 国語	6.0	6.0	6.0	
		2. 地歴・公民	5.3	6.0	4.5	
		3. 数学	39.6	27.8	54.3	
		4. 理科	7.7	8.1	7.2	
		5. 英語	30.2	39.2	18.9	
		6. 芸術	3.7	4.2	3.0	
		7. 体育	6.7	7.5	5.7	
		8. 家庭科	0.8	1.2	0.4	
キ	6. 授業中、一番リラックスできる授業	1. 国語	11.2	13.0	9.0	
		2. 地歴・公民	8.0	8.8	7.1	
		3. 数学	4.9	6.3	3.0	
		4. 理科	2.2	0.6	4.1	
		5. 英語	3.4	2.7	4.1	
		6. 芸術	25.3	23.3	27.8	
		7. 体育	12.9	14.5	10.9	
		8. 家庭科	32.1	30.8	34.0	

資料2 基礎集計表②

質問項目		全 体	性 別			
			男 子	女 子		
②	教 科	7. 勉強していて一番 楽しい教科	1. 国語	7.4	8.2	6.2
			2. 地歴・公民	11.6	16.2	5.8
			3. 数学	16.1	16.2	16.0
			4. 理科	9.6	9.1	10.1
			5. 英語	9.1	8.2	10.1
			6. 芸術	14.5	10.1	20.2
			7. 体育	19.9	19.5	20.7
			8. 家庭科	11.8	12.5	10.9
	イ	8. 社会に出てから 一番役に立つ教科	1. 国語	17.0	15.5	18.8
			2. 地歴・公民	9.5	11.3	7.3
			3. 数学	10.7	12.8	8.0
			4. 理科	2.5	2.7	2.3
			5. 英語	31.4	30.9	32.2
			6. 芸術	1.2	1.5	0.8
			7. 体育	2.4	2.7	1.9
			8. 家庭科	25.3	22.6	28.7
	メ	9. 大学受験に一番 役に立つ教科	1. 国語	8.6	6.7	11.1
			2. 地歴・公民	3.1	3.9	2.0
			3. 数学	33.1	33.0	33.2
			4. 理科	3.3	2.7	4.0
			5. 英語	50.2	51.3	48.9
			6. 芸術	0.7	1.2	0.0
			7. 体育	0.5	0.3	0.8
			8. 家庭科	0.5	0.9	0.0
I	10. 年をとってからも 勉強したいと思う 教科	1. 国語	9.3	11.0	7.2	
		2. 地歴・公民	14.4	18.8	8.8	
		3. 数学	3.2	3.4	2.8	
		4. 理科	4.8	6.0	3.2	
		5. 英語	27.6	28.2	27.0	
		6. 芸術	21.0	18.5	24.1	
		7. 体育	6.3	7.5	4.8	
		8. 家庭科	13.4	6.6	22.1	
ジ	11. 親と一番話をする 教科	1. 国語	8.1	9.1	6.8	
		2. 地歴・公民	14.5	18.5	9.8	
		3. 数学	21.6	18.9	24.8	
		4. 理科	2.4	2.2	2.6	
		5. 英語	16.3	19.7	12.4	
		6. 芸術	6.3	5.1	7.7	
		7. 体育	15.5	10.9	20.9	
		8. 家庭科	15.3	15.6	15.0	
③	履修のしかた (4単位をどの学年で履修しているか)	1) 履修科目	1. 家庭一般	100.0	100.0	100.0
			2. 生活一般	0.0	0.0	0.0
			3. 生活技術	0.0	0.0	0.0
		2) 履修単位数	1. 1年生で2単位	74.0	53.9	100.0
2. 2年生で2単位						
3. 3年生で4単位	26.0		46.1			
④	授業内容の 楽しさ	1. 家族の人間関係や 家庭の機能・役割	1. とても楽しい	5.4	6.1	4.5
			2. わりと楽しい	28.0	25.1	31.7
			3. あまり楽しくない	52.5	55.4	48.7
			4. ぜんぜん楽しくない	10.5	9.6	11.7
			5. 勉強していない	3.6	3.8	3.4

資料2 基礎集計表②

質問項目		全 体	性 別			
			男 子	女 子		
4	授業内容の楽しさ	2. 家族に関する法律 (民法や家庭裁判所など)	1. とても楽しい	5.6	8.2	2.2
			2. わりと楽しい	27.1	29.2	24.5
			3. あまり楽しくない	43.8	44.8	42.4
			4. ぜんぜん楽しくない	17.3	14.3	21.2
			5. 勉強していない	6.2	3.5	9.7
		3. 家庭の経済(収入・支出や、国や企業の経済との関係など)	1. とても楽しい	4.9	7.4	1.9
			2. わりと楽しい	25.8	28.5	22.3
			3. あまり楽しくない	47.6	46.5	49.0
			4. ぜんぜん楽しくない	17.1	12.9	22.3
			5. 勉強していない	4.6	4.7	4.5
		4. 生活設計(将来の仕事や家庭、社会福祉と生活保障)	1. とても楽しい	6.6	7.0	6.0
2. わりと楽しい	34.6		31.5	38.6		
3. あまり楽しくない	41.1		44.8	36.3		
4. ぜんぜん楽しくない	12.6		12.0	13.5		
5. 勉強していない	5.1		4.7	5.6		
5. 高齢者の生活や介護・ボランティア	1. とても楽しい	7.2	7.0	7.5		
	2. わりと楽しい	27.3	21.8	34.5		
	3. あまり楽しくない	46.2	52.6	37.8		
	4. ぜんぜん楽しくない	12.6	13.4	11.6		
	5. 勉強していない	6.7	5.2	8.6		
6. 消費者教育(消費者の権利、消費者信用とクレジットカードなど)	1. とても楽しい	9.2	12.8	4.5		
	2. わりと楽しい	39.5	42.2	36.2		
	3. あまり楽しくない	38.4	33.1	45.2		
	4. ぜんぜん楽しくない	10.3	10.2	10.4		
	5. 勉強していない	2.6	1.7	3.7		
7. 被服製作(シャツ・ベストやパンツなど)	1. とても楽しい	12.4	5.8	20.8		
	2. わりと楽しい	20.1	14.3	27.5		
	3. あまり楽しくない	29.3	30.9	27.1		
	4. ぜんぜん楽しくない	13.2	12.8	13.8		
	5. 勉強していない	25.0	36.2	10.8		
8. 繊維の性質や機能の知識	1. とても楽しい	1.5	2.3	0.4		
	2. わりと楽しい	14.9	13.1	17.2		
	3. あまり楽しくない	39.4	35.5	44.6		
	4. ぜんぜん楽しくない	21.1	17.4	25.8		
	5. 勉強していない	23.1	31.7	12.0		
9. 衣服の洗濯や保管	1. とても楽しい	3.1	2.6	3.7		
	2. わりと楽しい	20.2	14.0	28.0		
	3. あまり楽しくない	39.3	37.2	42.2		
	4. ぜんぜん楽しくない	15.1	14.3	16.0		
	5. 勉強していない	22.3	31.9	10.1		
10. 栄養素や栄養所要量の知識	1. とても楽しい	9.9	9.6	10.3		
	2. わりと楽しい	32.7	29.2	37.2		
	3. あまり楽しくない	36.6	37.9	35.0		
	4. ぜんぜん楽しくない	15.8	17.2	14.1		
	5. 勉強していない	5.0	6.1	3.4		
11. 調理実習	1. とても楽しい	59.3	53.1	67.0		
	2. わりと楽しい	25.3	27.4	22.6		
	3. あまり楽しくない	7.8	9.9	5.2		
	4. ぜんぜん楽しくない	3.4	3.5	3.3		
	5. 勉強していない	4.2	6.1	1.9		

資料2 基礎集計表②

質問項目		全 体	性 別			
			男 子	女 子		
4	業 内 容 の 楽 し さ	12. パソコンを使って 栄養計算や住居の 設計をする	1. とても楽しい	13.1	15.2	10.4
			2. わりと楽しい	17.6	17.3	18.1
			3. あまり楽しくない	22.0	21.1	23.2
			4. ぜんぜん楽しくない	6.0	5.3	6.9
			5. 勉強していない	41.3	41.1	41.4
		13. 異性とのつきあい 方や避妊の知識	1. とても楽しい	16.4	18.1	14.2
			2. わりと楽しい	25.1	26.8	22.8
			3. あまり楽しくない	34.4	32.4	37.1
			4. ぜんぜん楽しくない	6.7	5.8	7.9
			5. 勉強していない	17.4	16.9	18.0
	14. 青年期の生き方と 愛や性・結婚	1. とても楽しい	16.3	17.3	14.9	
		2. わりと楽しい	27.1	27.6	26.5	
		3. あまり楽しくない	33.3	31.6	35.4	
		4. ぜんぜん楽しくない	7.4	6.5	8.6	
		5. 勉強していない	15.9	17.0	14.6	
	15. 妊娠や出産	1. とても楽しい	14.7	15.7	13.4	
		2. わりと楽しい	24.6	21.2	29.1	
		3. あまり楽しくない	36.9	37.9	35.5	
		4. ぜんぜん楽しくない	7.5	8.1	6.7	
		5. 勉強していない	16.3	17.1	15.3	
16. 乳幼児の発達や子 どもの成長	1. とても楽しい	13.9	11.1	17.4		
	2. わりと楽しい	32.2	24.0	42.8		
	3. あまり楽しくない	33.3	38.3	26.9		
	4. ぜんぜん楽しくない	8.6	11.4	4.9		
	5. 勉強していない	12.0	15.2	8.0		
17. 快適な住まいの工 夫をする	1. とても楽しい	14.0	15.0	12.8		
	2. わりと楽しい	25.7	23.5	28.7		
	3. あまり楽しくない	31.4	27.8	35.8		
	4. ぜんぜん楽しくない	8.6	8.2	9.1		
	5. 勉強していない	20.3	25.5	13.6		
18. 生活環境（ゴミや 環境汚染など）に ついて考える	1. とても楽しい	11.6	15.1	7.1		
	2. わりと楽しい	28.8	29.9	27.3		
	3. あまり楽しくない	36.2	32.4	41.2		
	4. ぜんぜん楽しくない	10.8	11.0	10.5		
	5. 勉強していない	12.6	11.6	13.9		
19. パソコンで生活情 報を集め、生活に 利用する	1. とても楽しい	9.8	11.4	7.8		
	2. わりと楽しい	16.7	19.6	12.8		
	3. あまり楽しくない	24.7	24.0	25.6		
	4. ぜんぜん楽しくない	7.5	5.0	10.9		
	5. 勉強していない	41.3	40.0	42.9		
20. 外国の食生活や生 活の様式を調べる	1. とても楽しい	12.5	11.7	13.5		
	2. わりと楽しい	22.9	22.8	22.9		
	3. あまり楽しくない	25.5	24.0	27.4		
	4. ぜんぜん楽しくない	7.4	7.0	7.9		
	5. 勉強していない	31.7	34.5	28.3		
5	の授 必要 業内 度容	1. 家族の人間関係や 家庭の機能・役割	1. とても必要	18.3	19.3	17.2
2. わりと必要			53.1	51.3	55.2	
3. あまり必要でない			22.8	22.0	23.9	
4. ぜんぜん必要でない			5.8	7.4	3.7	

資料2 基礎集計表②

質問項目		全 体	性 別		
			男 子	女 子	
5	2. 家族に関する法律 (民法や家庭裁判所 など)	1. とても必要	25.3	30.4	19.0
		2. わりと必要	52.5	47.2	59.1
		3. あまり必要でない	17.8	17.7	17.8
		4. ぜんぜん必要でない	4.4	4.7	4.1
	3. 家庭の経済(収入 ・支出や、国や企 業の経済との関係 など)	1. とても必要	30.7	30.7	30.7
		2. わりと必要	50.4	49.9	51.4
		3. あまり必要でない	14.9	15.3	14.2
		4. ぜんぜん必要でない	4.0	4.1	3.7
	4. 生活設計(将来の 仕事や家庭、社会 福祉と生活保障)	1. とても必要	30.4	30.0	31.0
		2. わりと必要	54.2	51.6	57.5
		3. あまり必要でない	11.1	12.5	9.3
		4. ぜんぜん必要でない	4.3	5.9	2.2
	5. 高齢者の生活や介 護・ボランティア	1. とても必要	34.4	31.3	38.4
		2. わりと必要	45.8	46.6	44.8
3. あまり必要でない		15.5	16.2	14.6	
4. ぜんぜん必要でない		4.3	5.9	2.2	
6. 消費者教育(消費 者の権利、消費者 信用とクレジット カードなど)	1. とても必要	47.3	49.7	44.2	
	2. わりと必要	40.9	37.4	45.4	
	3. あまり必要でない	8.5	8.8	8.2	
	4. ぜんぜん必要でない	3.3	4.1	2.2	
7. 被服製作(シャツ ・ベストやパンツ など)	1. とても必要	13.4	8.9	19.1	
	2. わりと必要	38.7	33.6	44.9	
	3. あまり必要でない	37.3	43.5	29.6	
	4. ぜんぜん必要でない	10.6	14.0	6.4	
8. 繊維の性質や機能 の知識	1. とても必要	10.2	10.3	10.1	
	2. わりと必要	40.0	34.8	46.6	
	3. あまり必要でない	38.4	41.3	34.7	
	4. ぜんぜん必要でない	11.4	13.6	8.6	
9. 衣服の洗濯や保管	1. とても必要	22.1	18.0	27.3	
	2. わりと必要	50.6	45.0	57.7	
	3. あまり必要でない	22.3	29.3	13.5	
	4. ぜんぜん必要でない	5.0	7.7	1.5	
10. 栄養素や栄養所要 量の知識	1. とても必要	33.1	29.5	37.5	
	2. わりと必要	47.9	47.6	48.4	
	3. あまり必要でない	14.2	16.4	11.5	
	4. ぜんぜん必要でない	4.8	6.5	2.6	
11. 調理実習	1. とても必要	57.4	54.4	61.2	
	2. わりと必要	30.2	31.1	29.1	
	3. あまり必要でない	8.9	10.9	6.3	
	4. ぜんぜん必要でない	3.5	3.6	3.4	
12. パソコンを使って 栄養計算や住居の 設計をする	1. とても必要	12.1	13.1	10.9	
	2. わりと必要	32.9	35.2	30.1	
	3. あまり必要でない	37.5	35.2	40.2	
	4. ぜんぜん必要でない	17.5	16.5	18.8	
13. 異性とのつきあい 方や避妊の知識	1. とても必要	35.7	37.5	33.5	
	2. わりと必要	43.8	43.0	44.5	
	3. あまり必要でない	15.6	14.2	17.5	
	4. ぜんぜん必要でない	4.9	5.3	4.5	
14. 青年期の生き方と 愛や性・結婚	1. とても必要	31.4	35.6	26.0	
	2. わりと必要	43.7	42.0	45.7	
	3. あまり必要でない	19.0	17.1	21.6	
	4. ぜんぜん必要でない	5.9	5.3	6.7	

資料2 基礎集計表②

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
5	授業内容の必要度	15. 妊娠や出産	1. とても必要	39.9	39.3	40.5
			2. わりと必要	43.6	41.8	46.1
			3. あまり必要でない	12.2	14.2	9.7
			4. ぜんぜん必要でない	4.3	4.7	3.7
		16. 乳幼児の発達や子どもの成長	1. とても必要	34.9	31.4	39.4
			2. わりと必要	47.7	49.1	45.7
	3. あまり必要でない		13.0	13.9	11.9	
	4. ぜんぜん必要でない		4.4	5.6	3.0	
	17. 快適な住まいの工夫をする	1. とても必要	19.5	19.0	20.1	
		2. わりと必要	49.6	49.6	49.7	
		3. あまり必要でない	24.3	23.7	25.0	
		4. ぜんぜん必要でない	6.6	7.7	5.2	
	18. 生活環境(ゴミや環境汚染など)について考える	1. とても必要	44.8	47.4	41.6	
		2. わりと必要	39.3	36.7	42.7	
		3. あまり必要でない	12.1	11.5	12.7	
		4. ぜんぜん必要でない	3.8	4.4	3.0	
	19. パソコンで生活情報を集め、生活に利用する	1. とても必要	14.3	16.1	12.1	
		2. わりと必要	36.6	40.3	31.8	
		3. あまり必要でない	33.8	30.3	38.3	
		4. ぜんぜん必要でない	15.3	13.3	17.8	
20. 外国の食生活や生活の様式を調べる	1. とても必要	9.6	11.5	7.1		
	2. わりと必要	36.6	39.3	33.1		
	3. あまり必要でない	36.7	31.7	43.1		
	4. ぜんぜん必要でない	17.1	17.5	16.7		
6	家庭科の授業中の様子や感想	1. 授業の内容がやさしすぎる	1. とてもよくある	3.9	5.3	2.2
			2. わりとある	14.0	15.2	12.4
			3. ときどきある	33.9	33.7	34.1
			4. ほとんどない	48.2	45.8	51.3
		2. 授業の内容が難しすぎる	1. とてもよくある	5.9	8.2	3.0
			2. わりとある	13.7	15.0	12.0
			3. ときどきある	32.5	30.9	34.5
	4. ほとんどない		47.9	45.9	50.5	
	3. 調理実習した料理を家でも作りたい	1. とてもよくある	26.6	21.3	33.3	
		2. わりとある	28.6	27.9	29.6	
		3. ときどきある	24.0	25.7	21.7	
		4. ほとんどない	20.8	25.1	15.4	
	4. 調理実習をして、毎日食事を作る親の大変さがわかった	1. とてもよくある	33.0	29.4	37.5	
		2. わりとある	25.5	25.7	25.3	
		3. ときどきある	23.7	25.4	21.6	
		4. ほとんどない	17.8	19.5	15.6	
	5. 授業の内容は学校で教えなくても、家庭で親から教わればよい	1. とてもよくある	7.4	8.5	6.0	
		2. わりとある	12.2	10.6	14.2	
		3. ときどきある	32.1	28.8	36.2	
		4. ほとんどない	48.3	52.1	43.6	
	6. 現在の生活も精一杯なので、将来の家庭生活まで考えられない	1. とてもよくある	11.0	13.3	8.2	
2. わりとある		16.3	15.7	17.1		
3. ときどきある		28.2	28.4	27.9		
4. ほとんどない		44.5	42.6	46.8		
7. 授業中、居眠りする	1. とてもよくある	20.9	23.8	17.2		
	2. わりとある	17.6	19.4	15.3		
	3. ときどきある	31.4	28.9	34.7		
	4. ほとんどない	30.1	27.9	32.8		

資料2 基礎集計表②

質問項目		全 体	性 別			
			男 子	女 子		
6	家庭科の授業中の様子や感想	8. マンガを描いたり文房具で遊ぶ	1. とてもよくある	9.1	10.9	6.7
			2. わりとある	9.6	7.7	11.9
			3. ときどきある	22.1	22.1	22.0
			4. ほとんどない	59.2	59.3	59.4
	9. 席の近い人とおしゃべりする	1. とてもよくある	21.0	21.8	20.1	
		2. わりとある	24.3	20.3	29.4	
		3. ときどきある	33.5	33.5	33.4	
		4. ほとんどない	21.2	24.4	17.1	
	10. 内職(他の教科の勉強など)をする	1. とてもよくある	13.1	14.3	11.7	
		2. わりとある	15.5	15.2	15.8	
		3. ときどきある	31.3	28.9	34.3	
		4. ほとんどない	40.1	41.6	38.2	
	11. 黒板に書かれたことはノートやプリントに書く	1. とてもよくある	58.8	46.7	74.0	
		2. わりとある	19.8	20.4	19.0	
		3. ときどきある	10.5	16.3	3.3	
		4. ほとんどない	10.9	16.6	3.7	
	12. 先生が話したことで大切だと思うことはノートにメモを取る	1. とてもよくある	14.3	12.1	17.1	
		2. わりとある	16.8	14.5	19.7	
		3. ときどきある	34.7	32.4	37.5	
		4. ほとんどない	34.2	41.0	25.7	
7	家庭科全体の印象	1. 家庭科の授業は楽しいか	1. とても楽しい	14.9	16.1	13.4
			2. わりと楽しい	41.3	40.3	42.7
			3. 少し楽しい	27.2	27.5	26.8
			4. あまり楽しくない	12.1	11.3	13.0
			5. ぜんぜん楽しくない	4.5	4.8	4.1
	2. 家庭科の時間は、何となくホッとする時間である	1. とてもそう思う	22.1	21.3	23.0	
		2. わりとそう思う	47.8	44.6	51.8	
		3. あまりそう思わない	23.5	26.0	20.4	
		4. ぜんぜんそう思わない	6.6	8.1	4.8	
		8	家庭科を学ぶ意味	1. 親子関係や自分の生活を見直すことができる	1. とてもそう思う	9.0
2. わりとそう思う	20.4				21.8	18.6
3. 少しそう思う	37.1				35.9	38.7
4. あまりそう思わない	25.3				23.8	27.1
5. ぜんぜんそう思わない	8.2				8.5	7.8
2. 悪徳商法などのことを知り、被害に遭わないようにする	1. とてもそう思う		47.4	52.0	41.7	
	2. わりとそう思う		29.6	29.6	29.5	
	3. 少しそう思う		16.3	11.4	22.4	
	4. あまりそう思わない		3.4	3.5	3.4	
	5. ぜんぜんそう思わない		3.3	3.5	3.0	
3. 一人暮らしでも健康的な食生活ができる	1. とてもそう思う	22.4	26.2	17.5		
	2. わりとそう思う	29.3	28.2	31.0		
	3. 少しそう思う	26.2	24.7	28.0		
	4. あまりそう思わない	16.0	14.4	17.9		
	5. ぜんぜんそう思わない	6.1	6.5	5.6		
4. 料理が作れるようになる	1. とてもそう思う	27.7	27.9	27.5		
	2. わりとそう思う	26.8	27.6	25.7		
	3. 少しそう思う	25.8	26.8	24.5		
	4. あまりそう思わない	13.0	11.2	15.2		
	5. ぜんぜんそう思わない	6.7	6.5	7.1		

## 資料2 基礎集計表②

質問項目		全 体	性 別			
			男 子	女 子		
8	家庭科を学ぶ意味	5. 高齢者の介護・福祉や年金制度・社会保障について学べる	1. とてもそう思う	15.0	16.1	13.5
		2. わりとそう思う	30.6	30.8	30.5	
		3. 少しそう思う	33.9	36.3	30.9	
		4. あまりそう思わない	13.7	10.3	18.0	
		5. ぜんぜんそう思わない	6.8	6.5	7.1	
	6. 衣類の手入れやほころびの繕い・ボタンつけができる	1. とてもそう思う	21.6	13.1	32.1	
	2. わりとそう思う	24.4	18.2	32.1		
	3. 少しそう思う	30.3	36.5	22.7		
	4. あまりそう思わない	14.1	18.5	8.6		
	5. ぜんぜんそう思わない	9.6	13.7	4.5		
7. 異性とのつきあいや避妊の知識を学べる	1. とてもそう思う	19.5	22.4	16.0		
2. わりとそう思う	30.3	30.8	29.5			
3. 少しそう思う	30.3	29.7	31.0			
4. あまりそう思わない	14.0	12.1	16.4			
5. ぜんぜんそう思わない	5.9	5.0	7.1			
8. 将来、幸せな家庭を作れる	1. とてもそう思う	13.7	14.4	12.7		
2. わりとそう思う	17.4	17.9	16.8			
3. 少しそう思う	25.8	29.2	21.6			
4. あまりそう思わない	25.8	23.5	28.8			
5. ぜんぜんそう思わない	17.3	15.0	20.1			
9. 親になったときの心構えができる	1. とてもそう思う	14.8	14.2	15.7		
2. わりとそう思う	17.6	20.1	14.6			
3. 少しそう思う	28.7	29.7	27.2			
4. あまりそう思わない	25.7	25.1	26.5			
5. ぜんぜんそう思わない	13.2	10.9	16.0			
10. 環境問題やゴミ問題に関心が持てる	1. とてもそう思う	20.6	27.1	12.3		
2. わりとそう思う	27.5	29.0	25.7			
3. 少しそう思う	29.0	26.8	31.9			
4. あまりそう思わない	15.8	12.1	20.4			
5. ぜんぜんそう思わない	7.1	5.0	9.7			
9	家庭科教育への意見	1. 家庭科は、必修科目でなく全部選択科目でよい	1. とてもそう思う	15.9	17.9	13.4
		2. わりとそう思う	29.9	29.4	30.5	
		3. あまりそう思わない	40.4	37.4	44.2	
		4. ぜんぜんそう思わない	13.8	15.3	11.9	
		2. 家庭科の学習は、将来必要なことが多いので、必要になったとき、各々が学べばよい	1. とてもそう思う	10.3	12.0	8.2
	2. わりとそう思う	30.7	29.9	31.6		
	3. あまりそう思わない	43.4	40.5	47.2		
	4. ぜんぜんそう思わない	15.6	17.6	13.0		
	3. 大学受験を控えた高校生は、家庭科よりもっと受験に必要な教科を多く学びたい	1. とてもそう思う	18.2	19.9	16.0	
	2. わりとそう思う	27.9	29.3	26.1		
	3. あまりそう思わない	37.0	33.5	41.5		
	4. ぜんぜんそう思わない	16.9	17.3	16.4		
	4. 家庭科の内容は、男子が高校で授業として学ぶほどの必要はない	1. とてもそう思う	6.0	7.9	3.4	
	2. わりとそう思う	15.5	14.7	16.6		
	3. あまりそう思わない	46.4	46.8	46.0		
4. ぜんぜんそう思わない	32.1	30.6	34.0			
5. 週5日制などで全体に単位数が少なくなっている中で、家庭科が4単位は多すぎる	1. とてもそう思う	16.3	18.6	13.4		
2. わりとそう思う	28.9	32.1	24.9			
3. あまりそう思わない	35.4	31.0	40.9			
4. ぜんぜんそう思わない	19.4	18.3	20.8			

## 資料2 基礎集計表②

質問項目		全体	性別			
			男子	女子		
9	家庭科教育への意見	6. 10年後は、家庭科も男性教師が5人に1人くらいの割合に増える	1. とてもそう思う	6.3	7.7	4.5
			2. わりとそう思う	30.2	30.1	30.3
			3. あまりそう思わない	45.5	43.6	48.0
			4. ぜんぜんそう思わない	18.0	18.6	17.2
	7. 家庭科は高校の授業としては必要ない	1. とてもそう思う	5.1	7.4	2.2	
		2. わりとそう思う	10.9	11.8	9.7	
		3. あまりそう思わない	45.8	42.5	50.0	
		4. ぜんぜんそう思わない	38.2	38.3	38.1	
10	高校卒業後の進路	1. 就職	15.3	13.5	17.7	
		2. 専修・専門学校へ進学	16.0	10.4	22.9	
		3. 短期大学へ進学	5.6	0.6	11.7	
		4. 4年制大学(私立)へ進学	33.6	41.9	23.3	
		5. 4年制大学(国公立)へ進学	11.5	15.9	6.0	
		6. 未定	18.0	17.7	18.4	
11	高校時代はどんなことをする時期か	1. 人間として生きていくための基本的な勉強をする	1. とてもそう	29.8	29.6	30.1
			2. わりとそう	44.4	44.5	44.3
			3. あまりそうでない	20.7	19.4	22.3
			4. ぜんぜんそうでない	5.1	6.5	3.3
		2. 大学進学のための受験勉強をする	1. とてもそう	20.8	23.2	17.6
			2. わりとそう	36.2	36.0	36.7
			3. あまりそうでない	29.5	27.6	31.8
			4. ぜんぜんそうでない	13.5	13.2	13.9
		3. 部活動やスポーツをする	1. とてもそう	27.3	33.7	19.1
			2. わりとそう	36.5	39.9	32.2
			3. あまりそうでない	26.8	20.2	35.2
			4. ぜんぜんそうでない	9.4	6.2	13.5
		4. 友だちをたくさん作る	1. とてもそう	50.7	47.8	54.4
			2. わりとそう	38.5	39.3	37.5
			3. あまりそうでない	9.0	10.3	7.4
			4. ぜんぜんそうでない	1.8	2.6	0.7
		5. 将来の生活や自分自身のことを考える	1. とてもそう	51.7	47.5	56.9
			2. わりとそう	33.4	33.7	33.1
			3. あまりそうでない	12.1	14.7	8.9
			4. ぜんぜんそうでない	2.8	4.1	1.1
12	成績	1. 上の方	12.5	15.0	9.4	
		2. 中の上	21.1	21.9	20.2	
		3. 中	32.1	28.6	36.3	
		4. 中の下	18.0	16.5	19.9	
		5. 下の方	16.3	18.0	14.2	